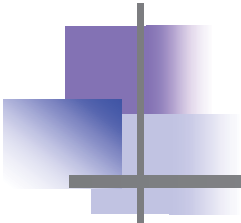


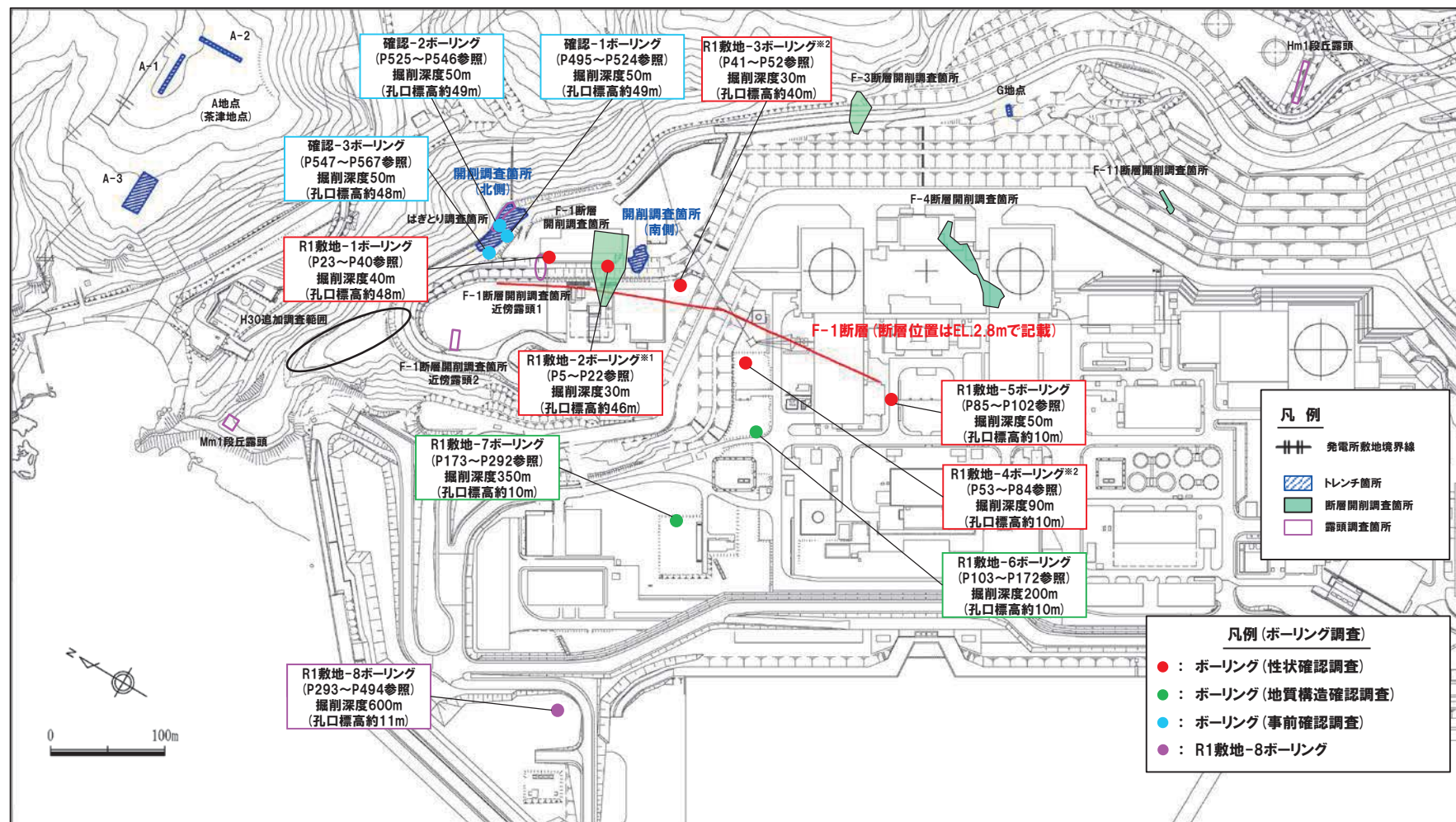
机上配布資料2

泊発電所3号炉**地盤(敷地の地質・地質構造)に関するコメント回答****(Hm2段丘堆積物の堆積年代に関する検討)****(ボーリング調査データ集)****令和2年4月16日
北海道電力株式会社**

ボーリング調査位置図	P.3
ボーリング調査データ(ボーリングコア写真, 柱状図及びボアホールテレビ画像)	P.4
R1敷地-2ボーリング	P.5
R1敷地-2' ボーリング	P.17
R1敷地-1ボーリング	P.23
R1敷地-3ボーリング	P.41
R1敷地-4ボーリング	P.53
R1敷地-5ボーリング	P.85
R1敷地-6ボーリング	P.103
R1敷地-7ボーリング	P.173
R1敷地-8ボーリング	P.293
確認-1ボーリング	P.495
確認-1ボーリング(別孔)	P.517
確認-2ボーリング	P.525
確認-3ボーリング	P.547

ボーリング調査位置図

○性状確認調査及び地質構造確認調査として実施したR1敷地-1～R1敷地-7ボーリング, R1敷地-7ボーリングに認められる劣化部の連続性を確認するために実施したR1敷地-8ボーリング並びに開削調査位置の選定を行うための事前確認調査として実施した確認-1～確認-3ボーリングの位置を下図に示す。



※1 当該ボーリングは、F-1断層開削調査箇所と同じ位置で実施していることから、F-1断層の性状確認の基本となるため、本孔 (φ86) とは別に、別孔 (φ116) も掘削している。

※2 当該ボーリングは、F-1断層の性状確認を主目的として実施するが、調査結果は、反射法地震探査結果との対比にも用いる。

**ボーリング調査データ
（ボーリングコア写真，柱状図及びボアホールテレビ画像）**

R1敷地-2ボーリング

孔口標高:46.00m



※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟み若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-2ボーリング:深度0~15m) :劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部)



※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟み若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-2ボーリング: 深度15~30m) : 劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部)

余白

柱状図 (1/2)

孔口標高:46.00m



⬜:劣化部※(F-1断層の可能性を有する劣化部)

※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟む若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-2:深度0~15m)

R1敷地-2

孔口標高 46.00m 掘進長 30.00m

標尺	標高	深度	柱状図	地質名	色調	記 事
(m)	(m)	(m)				
1	45.85	0.15		コンクリート	灰	
	44.82	1.18		砂	褐	淘汰のやや良い中粒砂主体で、細粒砂混じる。
	44.50	1.50		微塵じり砂	褐	粒径の60mm以下の亜角-亜円縁が50%程度混じる中粒砂。
2				砂礫	褐~灰褐	礫径は安山岩主体でクサリ礫が混じる。 礫径は80mm以下の亜円-円縁が40~50%混じる砂礫。 礫径は風化安山岩・風化ダイサイトおよび安山岩・泥岩・珪質岩。 基質は中粒砂が混じる細粒砂で淘汰はやや悪い。 深度2.00~2.14m:礫径の70mmの亜円縁が混じる細粒砂が挟む。
3	43.35	2.65				礫径の30mm以下主体の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。 やや軟質で、割れ目少ない。
4					灰褐	深度2.65~3.43m:風化強く岩芯まで褐色を呈し、やや軟質。 深度2.65~8.80m:岩芯まで褐色を呈し、割れ目が暗褐色を呈する。
5						
6				黒色火山礫凝灰岩		
7	39.14	6.86			暗灰	深度6.86~7.67m:岩芯は新鮮。割れ目沿いに褐色を呈する。
8	38.33	7.67			灰褐	
9	37.20	8.80			暗灰	深度8.80~9.28m:硬質で、岩芯は新鮮。 割れ目沿いに褐色を呈する。
10	36.00	10.00				深度9.28~10.00m:新鮮で硬質。
11	34.55	11.45		黒色砂質凝灰岩	暗灰	細粒の黒色砂質凝灰岩。 やや軟質で、割れ目少ない。∠40°程度の平行葉理分布。 深度10.33~10.63m:∠70°、t=2mm以下の白色脈が分布。脈は母岩と密着。
12				黒色火山礫凝灰岩	暗灰	礫径の15mm以下主体の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。 硬質で、割れ目少ない。
13	33.15	12.85				
14				黒色砂質凝灰岩	黒灰	細粒の黒色砂質凝灰岩。 やや軟質で、破砕部を伴う。割れ目沿ってt=2mm以下の白色脈が分布。 深度13.04~13.14m:割れ目が網状に分布し、軟質。
15						深度13.93~14.40m:∠30°程度、割れ目が分布し、軟質。 深度14.40~15.26m:割れ目が網状に分布し、コア肌落ち。軟質。 深度14.72m:∠45°、t=10mmで暗灰色を呈する軟質粘土が挟む。

↓ 変更
↑

柱状図 (R1敷地-2:深度0~15m)

柱状図 (2/2)

孔口標高:46.00m



劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部)

※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟み若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-2:深度15~30m)

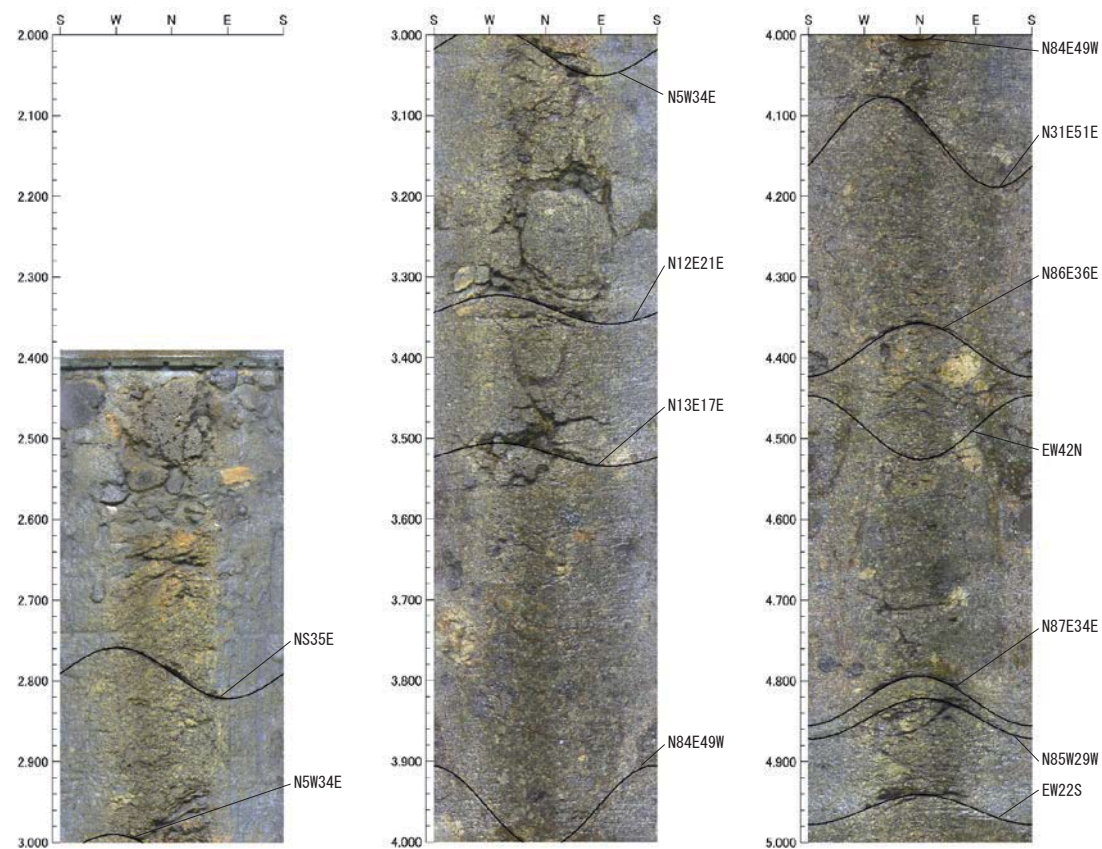
R1敷地-2

孔口標高 46.00m 掘進長 30.00m

標尺	標高	深度	柱状図	地質	色調	記
(m)	(m)	(m)	図	名	調	事
16	30.34	15.66	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	黒灰	深度15.25m: $\angle 55^\circ$ 、 $t=5\text{mm}$ 以下で暗灰色を呈し、礫を伴う軟質粘土が挟在。
17			▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	黒灰	礫径 $\phi 10\text{mm}$ 以下主体の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。やや軟質で、一部で割れ目多い。 深度15.66-16.12m: やや軟質で、 $\angle 20-45^\circ$ の割れ目多い。 深度15.79m: $\angle 45^\circ$ 、 $t=8\text{mm}$ で暗灰色を呈し、礫を伴う軟質粘土が挟在。 深度15.86-16.03m: 角礫状(一部コア流出)。 深度16.52-17.10m: 低角割れ目多く、片状。
19	27.28	18.72	▲▲▲▲▲	黒色砂質凝灰岩	黒灰	細粒の黒色砂質凝灰岩。やや軟質で、割れ目多い。 深度19.33m: $\angle 50^\circ$ 、 $t=3\text{mm}$ 以下で明灰色を呈する軟質粘土が挟在。 1cm上位に同質の $t=1\text{mm}$ で軟質粘土が挟在。周辺岩石は軟質。 深度19.68m: $\angle 30^\circ$ 、 $t=5\text{mm}$ で明灰色を呈するやや軟質な粘土が挟在。
21	24.43	21.57	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	黒灰	深度21.15-21.60m: $\angle 45-90^\circ$ 主体、 $t=3\text{mm}$ 以下の白色脈が分布。脈は母岩と密着。
22			▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	黒灰	礫径 $\phi 25\text{mm}$ 以下主体の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。やや軟質で、割れ目やや多い。 深度22.55-22.75m: 割れ目多く、割れ目沿いでコア肌落ち。
24	23.00	23.00	▲▲▲▲▲	黒色砂質凝灰岩	黒灰	深度23.00-24.50m: 細粒-中粒の黒色砂質凝灰岩。やや軟質で、割れ目少ない。 $\angle 30^\circ$ 以下、 $t=2\text{mm}$ 以下の白色脈が分布。脈は母岩と密着。
25	21.50	24.50	▲▲▲▲▲	黒色砂質凝灰岩	黒灰	深度24.50-26.44m: 細粒な黒色砂質凝灰岩。やや軟質で、割れ目少ない。 $\angle 30^\circ$ 以下、 $t=2\text{mm}$ 以下の白色脈が分布。脈は母岩と密着。
26	19.56	26.44	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	黒灰	深度26.24m: $\angle 30^\circ$ 、 $t=2\text{mm}$ で灰色を呈するやや軟質な粘土が挟在。
27	18.70	27.30	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	黒灰	礫径 $\phi 30\text{mm}$ 以下主体の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。やや硬質で、割れ目やや多い。
28			▲▲▲▲▲	黒色砂質凝灰岩	黒灰	細粒-中粒の黒色砂質凝灰岩。やや硬質で、割れ目少ない。 $\angle 30^\circ$ 以下主体(まれに $\angle 90^\circ$)で、 $t=2\text{mm}$ 以下の白色脈が分布。脈は母岩と密着。 深度27.30-27.70m: 割れ目やや多い。
29						
30	16.00	30.00				

柱状図 (R1敷地-2:深度15~30m)

ボアホールテレビ画像 (1/6)

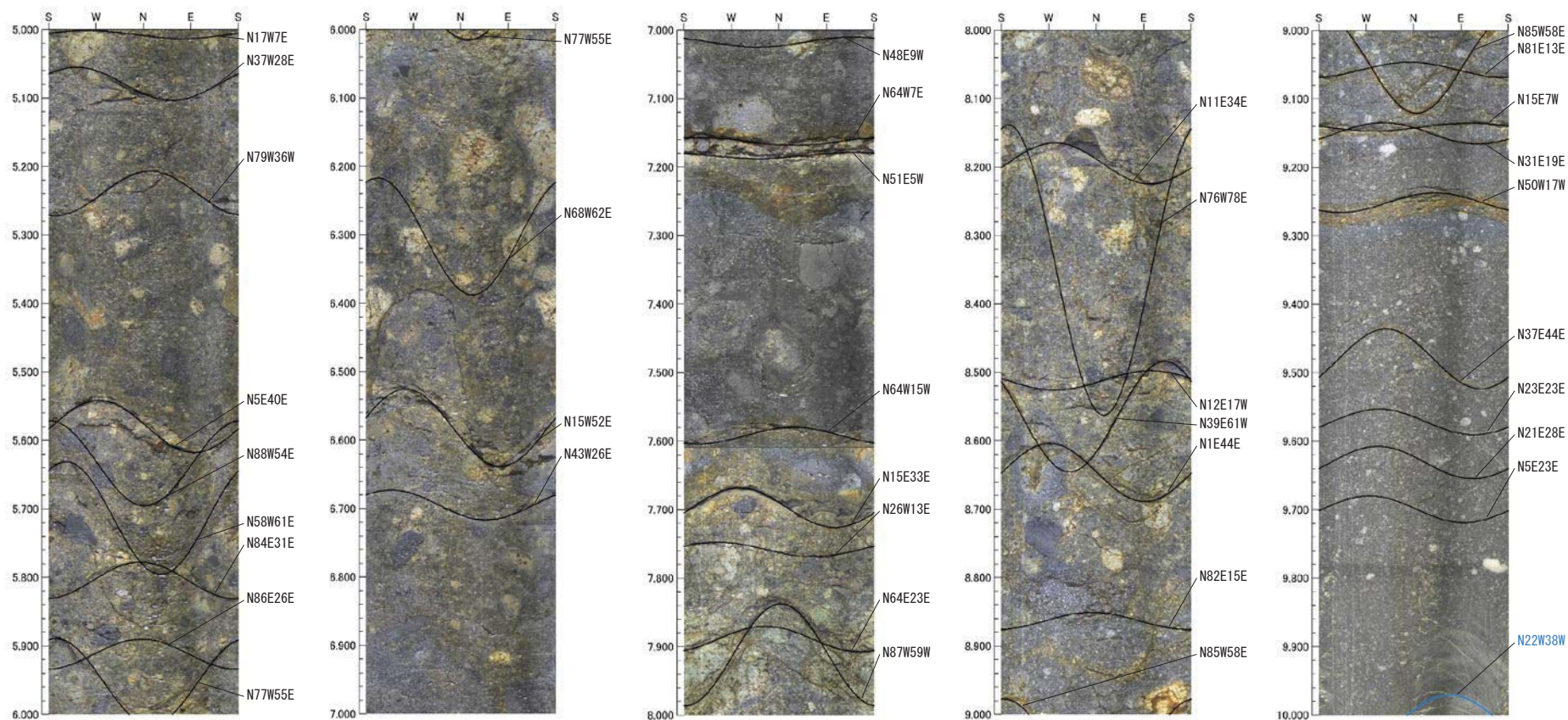


ボアホールテレビ画像 (深度2.4~5m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (2/6)

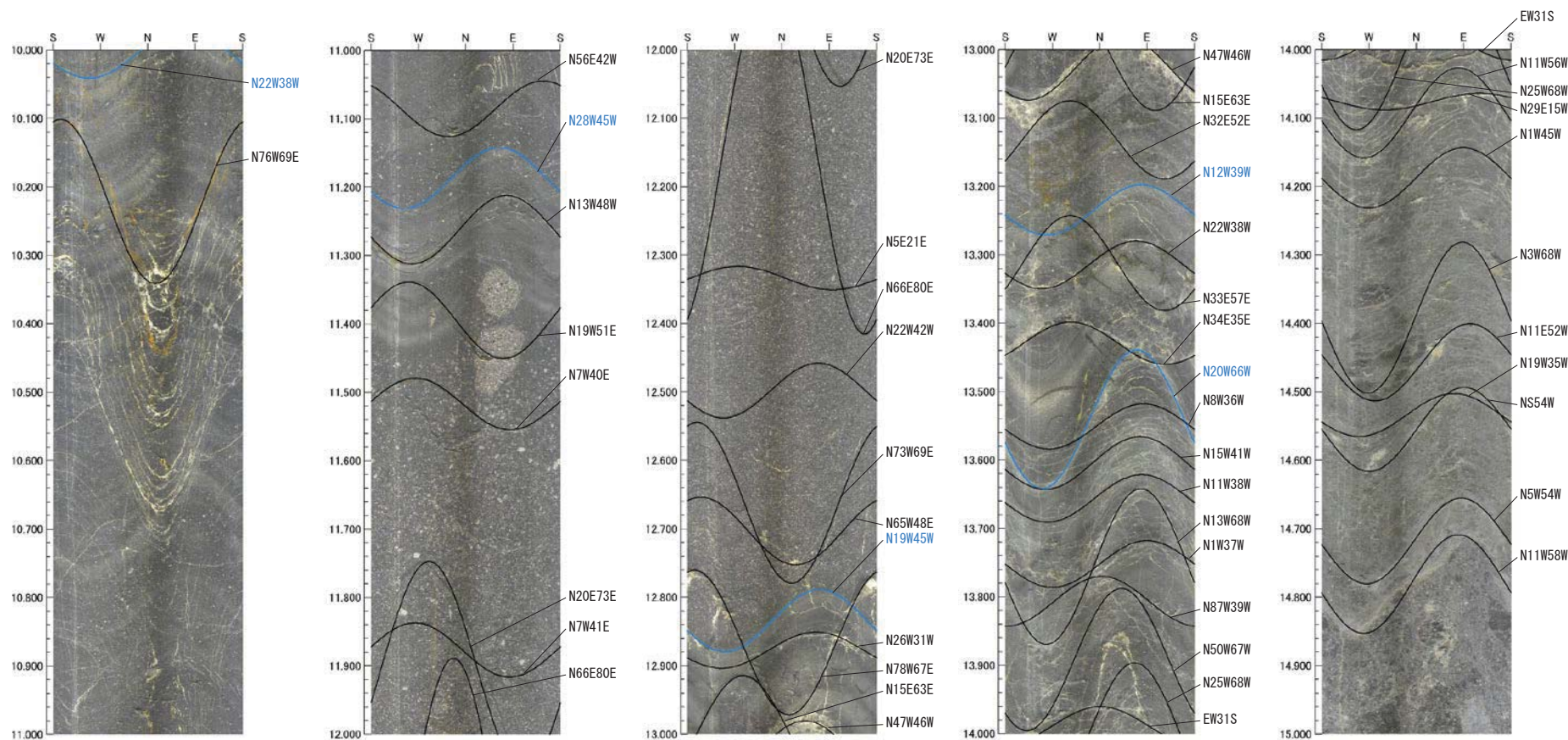


ボアホールテレビ画像 (深度5~10m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (3/6)

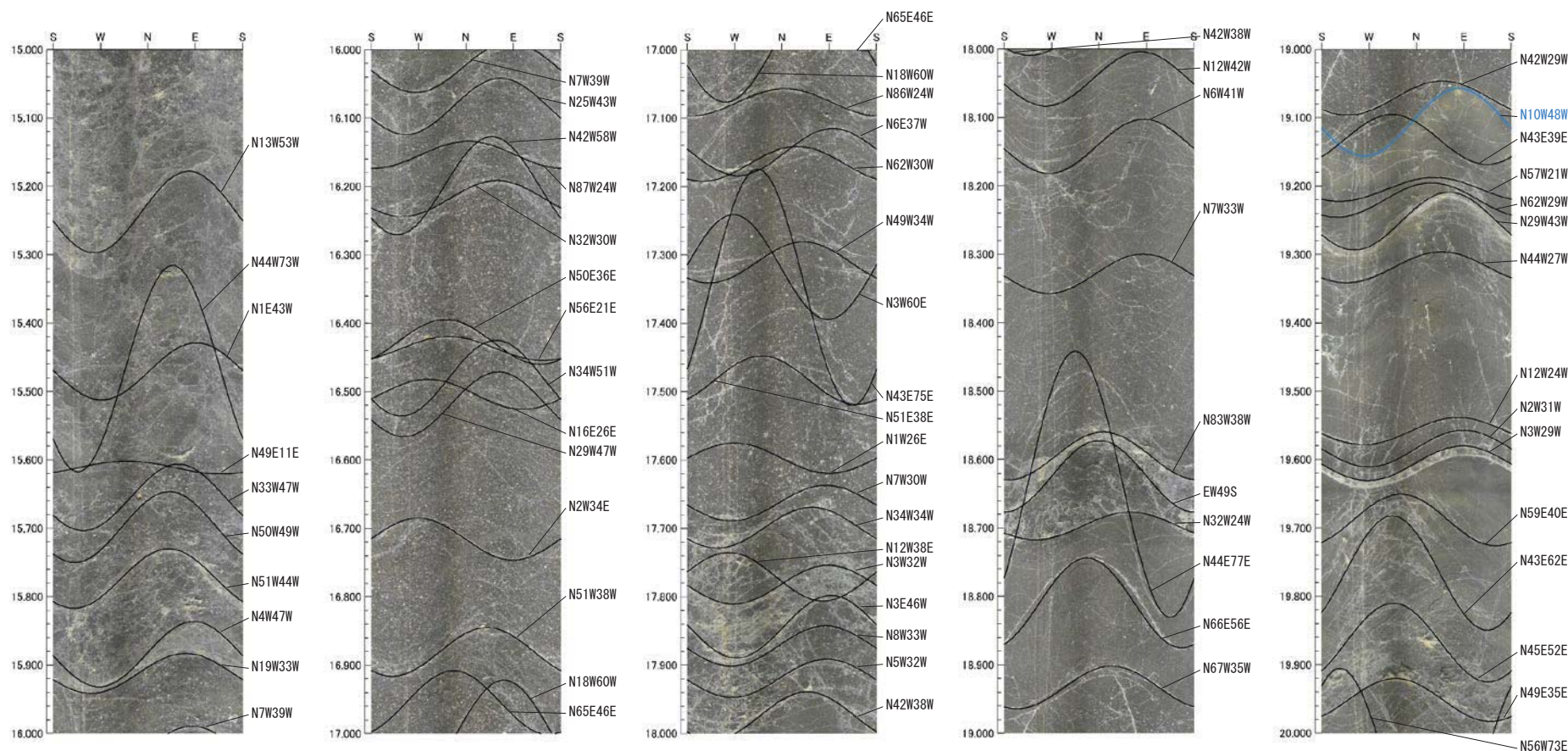


ボアホールテレビ画像 (深度10~15m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (4/6)

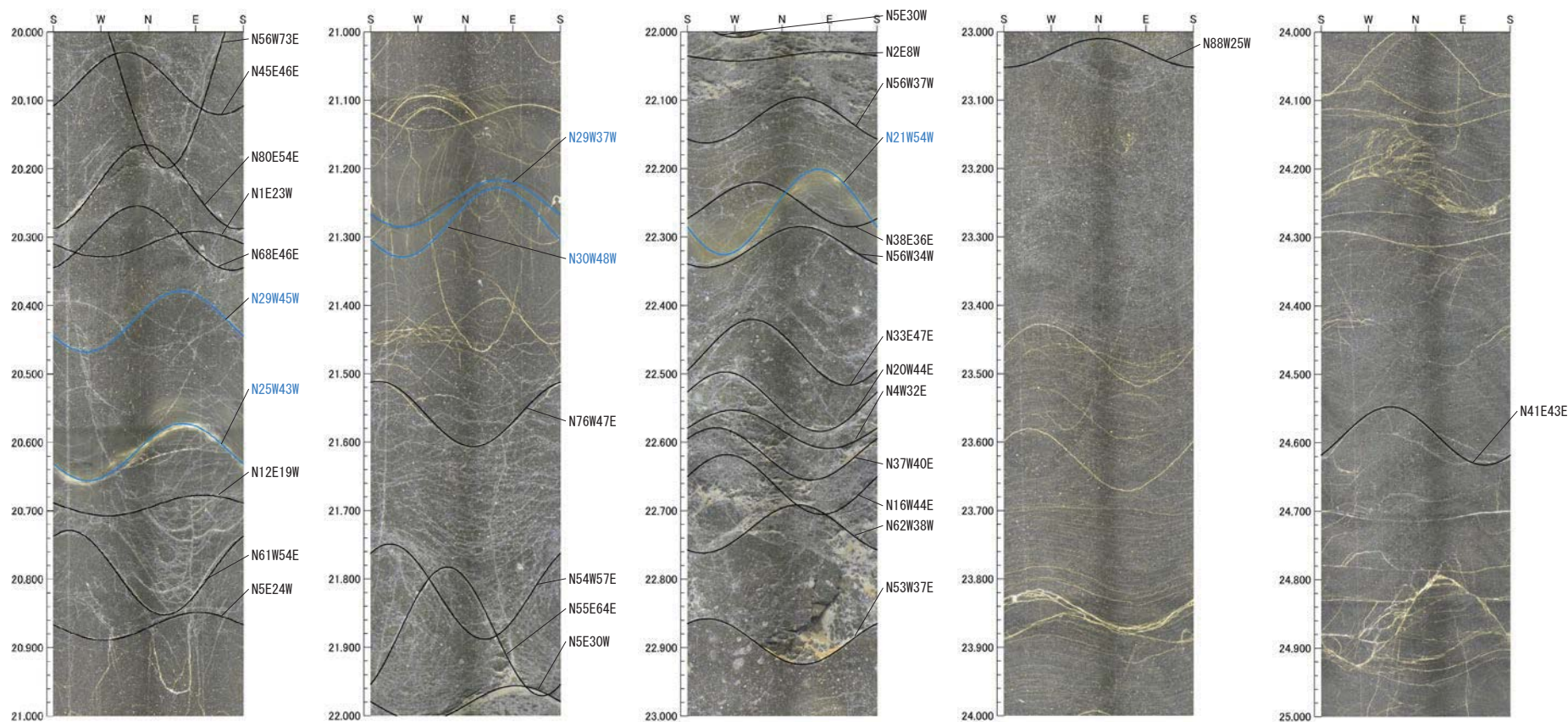


ボアホールテレビ画像 (深度15~20m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (5/6)

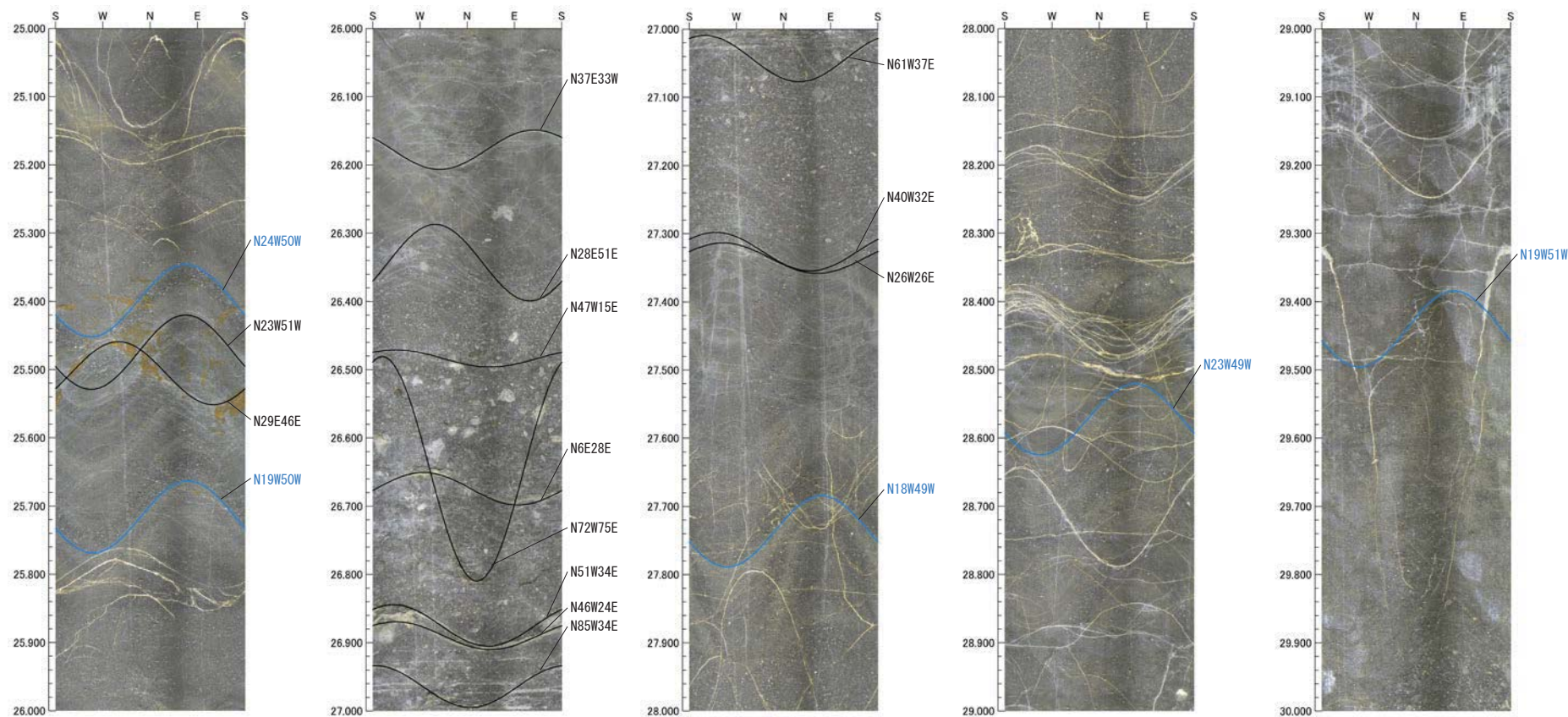


ボアホールテレビ画像 (深度20~25m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (6/6)



ボアホールテレビ画像 (深度25～30m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

R1敷地-2'ボーリング



コア写真(R1敷地-2'ボーリング:深度0~12m)



※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟む若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-2' ボーリング: 深度12~20m) : 劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部)

余白

柱状図 (1/2)

孔口標高: 46.00m



コア写真 (R1敷地-2' : 深度0~15m)

R1敷地-2'

孔口標高 46.00m 掘進長 20.00m

標尺	標高	深度	柱状図	地質	色調	記
(m)	(m)	(m)	図	名	調	事
45.73	0.27			コンクリート・砂	灰	濁泥のやや良い細粒-中粒砂。
45.16	0.84			砂	暗褐〜褐	深度0.27-0.50m: シルトが少量混じる。
44.88	1.14			硬泥じり砂	褐	濁泥のやや悪い細粒-中粒砂で、礫径φ20mm以下の垂円〜円礫が散在。
				砂礫	褐〜灰褐	礫径φ60mm以下(最大礫径φ90mm)の垂円〜円礫が40-70%混じる砂礫。礫層は安山岩・風化安山岩主体で、風化デイスイト・泥岩・凝灰岩・建築用凝結土。基質は細粒-中粒砂で濁泥はやや悪い。
43.21	2.79				褐〜灰褐	深度1.96-1.57m: 濁泥はやや悪く、中粒砂の混じる細粒砂が挟在。礫径φ3mm以下の垂円〜円礫が点在。
42.80	3.20				褐	深度2.00-2.15m: 濁泥のやや良い細粒砂が挟在。
				黒色火山礫凝灰岩	褐灰	深度3.90-3.49m: 濁泥はやや悪く、中粒砂混じる細粒砂が挟在。
					褐灰	礫径φ30mm以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。
					褐灰	深度2.79-3.20m: 風化強く岩芯まで褐色を呈し、軟質。
					褐灰	深度3.20-6.75m: 岩芯まで弱く褐色を呈し、やや軟質。割れ目少ないが、一部でやや多い。
39.25	6.75			黒色凝灰角礫岩	褐灰	深度6.18-6.75m: やや強く褐色を呈し、割れ目沿い角礫-細片状。
38.50	7.50			黒色凝灰角礫岩	褐灰	礫径φ100mm以下の安山岩礫からなる黒色凝灰角礫岩。
				黒色火山礫凝灰岩	褐灰	岩芯まで弱く褐色を呈し、やや硬質。割れ目やや多い。
37.45	8.55			黒色火山礫凝灰岩	黒灰	礫径φ20mm以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。
					黒灰	やや硬質で、割れ目少ない。
36.00	10.00				黒灰	深度7.50-8.55m: 岩芯まで弱く褐色を呈する。
					黒灰	深度8.55-9.52m: 岩芯は新鮮で、割れ目沿いは褐色を呈する。
34.41	11.59			黒色砂質凝灰岩	黒灰	深度9.52-10.00m: やや硬質で、新鮮。
					黒灰	細粒-粗粒の黒色砂質凝灰岩。
33.12	12.88			黒色火山礫凝灰岩	黒灰	やや硬質で、割れ目少ない。
					黒灰	礫径φ15mm以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。
					黒灰	やや硬質で、割れ目少ない。
					黒灰	細粒の黒色砂質凝灰岩。
					黒灰	深度12.88-14.21m: やや軟質で、割れ目少ない。
					黒灰	深度14.21-16.07m: 割れ目分布し、軟質。
					黒灰	深度14.25m: 灰色を呈する軟質粘土が挟在。
					黒灰	深度14.30-14.35m: 20°、t=50mmで灰色を呈する軟質粘土を伴う角礫が挟在。
					黒灰	深度14.57m: 30°、t=10mmで灰色を呈する軟質粘土が挟在。
					黒灰	深度14.65m: 55°、t=15mm以下で灰色を呈する軟質粘土が挟在。

↓ 変更
↑

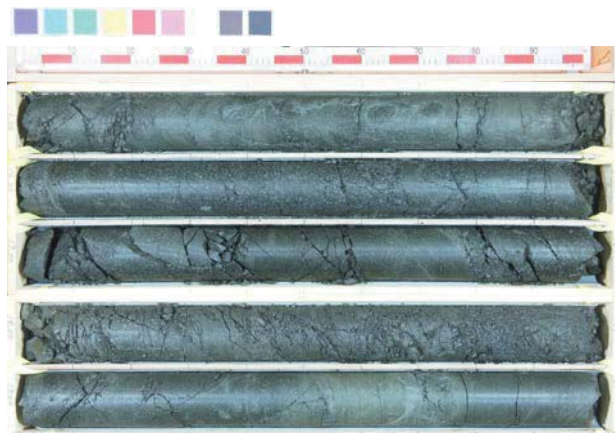
: 劣化部* (F-1断層の可能性を有する劣化部)

*劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟在若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

柱状図 (R1敷地-2' : 深度0~15m)

柱状図 (2/2)

孔口標高:46.00m



R1敷地-2' 孔口標高 46.00m 掘進長 20.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図 名	地 質 調	色	記 事
16	29.93	16.07	黒色砂質凝灰岩	黒灰		深度14.79m: $\angle 50^\circ$ 、 $t=1mm$ で灰色を呈する軟質粘土が挟在。 深度14.88m: $\angle 25^\circ$ 、 $t=1mm$ 以下で灰色を呈する軟質粘土が挟在。 深度15.40-16.00m: $\angle 90^\circ$ 程度の割れ目が分布し、不規則に軟質粘土が挟在。 深度16.07m: $\angle 15^\circ$ 、 $t=1-2mm$ で灰色を呈する軟質粘土が挟在。
17	28.80	17.40	黒色火山礫凝灰岩	黒灰		礫径 $\phi 15mm$ 以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。 やや硬質で、割れ目やや多い。
18			黒色砂質凝灰岩	黒灰		細粒-中粒の黒色砂質凝灰岩。 やや軟質で、割れ目多い。割れ目沿いでコア崩落。
19	27.00	19.00	黒色火山礫凝灰岩	黒灰		礫径 $\phi 20mm$ 以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。 やや硬質で、割れ目やや多い。
20	26.52	19.48	黒色砂質凝灰岩	黒灰		細粒の黒色砂質凝灰岩。やや軟質で、割れ目やや多い。
	26.00	20.00	黒色砂質凝灰岩	黒灰		深度19.66m: $\angle 50^\circ$ 、 $t=1-2mm$ で灰色を呈する軟質粘土が挟在。

R1敷地-1ボーリング



コア写真 (R1敷地-1ボーリング: 深度0~15m)



※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟在若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-1ボーリング: 深度15~30m)

緑色点線 : 劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部)

黄色点線 : 劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部とは判定されない劣化部)



コア写真 (R1敷地-1ボーリング: 深度30~40m)

柱状图 (1/3)

孔口標高:48.00m



コア写真 (R1敷地-1:深度0~15m)

R1敷地-1

孔口標高 48.00m 掘進長 40.00m

標	標	深	柱	地	色	記
尺	高	度	状	質		
(m)	(m)	(m)	図	名	調	事
1				砂礫	褐 灰褐	礫径φ50mm以下(最大礫径φ100mm)の角-亜角礫が50-60%混じる砂礫。 礫種は安山岩が主体で、凝灰岩・砂質凝灰岩・火山礫凝灰岩混じる。 基質は細粒-粗粒砂で、シルトが少量混じる。 深度1.65-2.10m: 基質はシルト質砂-砂質シルト。
2	45.90	2.10				
3	45.40	2.60		礫	暗灰	礫径φ40mm以下の角-亜角礫からなる。 深度2.50-2.60m: コンクリート。 局所的にやや良い中粒砂。 局所的に砂質シルト-シルト質砂または砂礫の薄層が挟在。
4				砂	灰褐	
5	43.65	4.35				
6	42.41	5.59		砂礫	灰褐	礫径φ80mm以下の範囲-円礫が70-80%混じる砂礫。 礫種は安山岩・デイサイト主体で、凝灰岩・火山礫凝灰岩混じる。 基質は細粒-粗粒砂。
7					灰褐	礫径φ10mm以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。 深度5.99-6.99m: やや軟質で、割れ目やや多い。岩芯まで褐色を呈する。
8	40.77	7.73		火山礫 凝灰岩		深度6.99-7.23m: やや硬質で、割れ目やや多い。岩芯まで弱く褐色を呈し、割れ目沿いに褐色を呈する。 深度7.23-10.21m: やや硬質で、割れ目少ない。岩芯まで弱く褐色を呈する。
9					褐灰	
10	37.79	10.21				
11	35.98	11.02		凝灰角礫岩	褐灰	礫径φ200mm以下の安山岩礫からなる凝灰角礫岩。 硬質で、割れ目少ない。岩芯まで弱く褐色を呈する。
12					褐灰	礫径φ30mm以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。 硬質で、割れ目少ない。 深度11.02-12.65m: 岩芯まで弱く褐色を呈する。
13	35.35	12.65		火山礫 凝灰岩		
14	34.26	13.74			暗灰	深度12.65-13.74m: 岩芯は新鮮で、割れ目沿いに褐色を呈する。
15				砂質凝灰岩	暗灰	粗粒の砂質凝灰岩。 岩芯まで新鮮で、やや軟質-やや硬質で、割れ目少ない。 40°程度の平行葉理分布。 灰-白色脈が網状に分布。脈は母岩と密着。

改变

柱状図 (R1敷地-1:深度0~15m)

柱状図 (2/3)

孔口標高:48.00m



劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部)

劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部とは判定されない劣化部)

※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟む若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-1:深度15~30m)

R1敷地-1

孔口標高 48.00m 掘進長 40.00m

標尺	標高	深度	柱状	地質	色調	記
(m)	(m)	(m)	図	名	調	事
16					暗灰	深度13.74~16.10m: やや軟質。 深度14.40m: $\angle 10^\circ$ 程度、割れ目沿いに弱く褐色を呈する。 深度14.90~15.00m: 割れ目が網状に分布し、軟質。 深度14.93m: $\angle 45^\circ$ 、 $t=1mm$ で灰色を呈する固結した粘土が挟在。 深度15.34~15.65m: 割れ目が網状に分布し、軟質。 深度15.50m: $\angle 45^\circ$ 、 $t=1mm$ 以下で白-灰色を呈する固結した粘土が挟在。 深度15.65m: $\angle 30^\circ$ 、 $t=20mm$ 以下で割れ目が網状に分布。 深度16.10~17.60m: やや硬質。
17					灰褐 暗褐灰	深度17.60~17.88m: 割れ目が網状に分布し、軟質。 深度17.60m: $\angle 35^\circ$ 、 $t=5mm$ 以下で灰色を呈する軟質粘土が挟在。 深度17.72m: $\angle 40^\circ$ 、 $t=5mm$ 以下で灰色を呈する軟質粘土が挟在。 深度17.89m: $\angle 30^\circ$ 、 $t=50mm$ 以下で灰色を呈する軟質粘土が挟在。 深度17.89~18.95m: 岩芯まで褐色を呈し、やや軟質。 深度18.55m: $\angle 40^\circ$ 、 $t=1mm$ 以下で淡褐色を呈する軟質粘土が挟在。 深度19.05~19.55m: やや軟質。 深度19.55~20.07m: 安山岩礫。硬質。 深度20.07~23.34m: やや硬質。
18	30.12	17.88				
19	28.95	19.05				
20				砂質凝灰岩		
21						
22						深度21.70m: $\angle 35^\circ$ 、 $t=1mm$ 以下で灰色を呈する固結した粘土が挟在。
23						深度22.53m: $\angle 30^\circ$ 、 $t=2mm$ 以下で灰色を呈する固結した粘土が挟在。 深度22.58m: $\angle 10^\circ$ 、 $t=10mm$ 以下で灰色を呈する固結した粘土が挟在。
24					暗灰	深度23.34~26.78m: やや軟質。局所的にやや硬質。 深度23.68~24.00m: $\angle 40^\circ$ 程度、 $t=10mm$ 以下で、白色層分布。層は母岩と密着。 深度24.05~24.90m: 割れ目が網状に分布。 深度24.22m: $\angle 50^\circ$ 、 $t=1mm$ で灰色を呈する軟質粘土が挟在。 深度25.33~26.55m: 割れ目が網状に分布。 深度26.35m: $\angle 20^\circ$ 、 $t=10mm$ で白-灰色を呈する固結した粘土が挟在。
25						
26						深度26.78~29.73m: 割れ目が網状に分布し、軟質。
27						深度27.35m: $\angle 45^\circ$ 、 $t=1mm$ で灰色を呈する固結した粘土が挟在。 深度27.89~28.09m: 上面 $\angle 45^\circ$ 、下面 $\angle 30^\circ$ で軟質。上面に $t=1\sim 4mm$ で灰色を呈する軟質粘土が挟在し、割れ目に条線あり。 深度28.36~28.41m: 割れ目が網状に分布。
28						
29						
30	18.27	29.73		黒色砂質凝灰岩	黒灰	中粒~細粒の黒色砂質凝灰岩で、一部に礫径 $\phi 10mm$ 以下の安山岩礫を伴う。

柱状図 (R1敷地-1:深度15~30m)

柱状図 (3/3)

孔口標高:48.00m



コア写真 (R1敷地-1:深度30~40m)

R1敷地-1

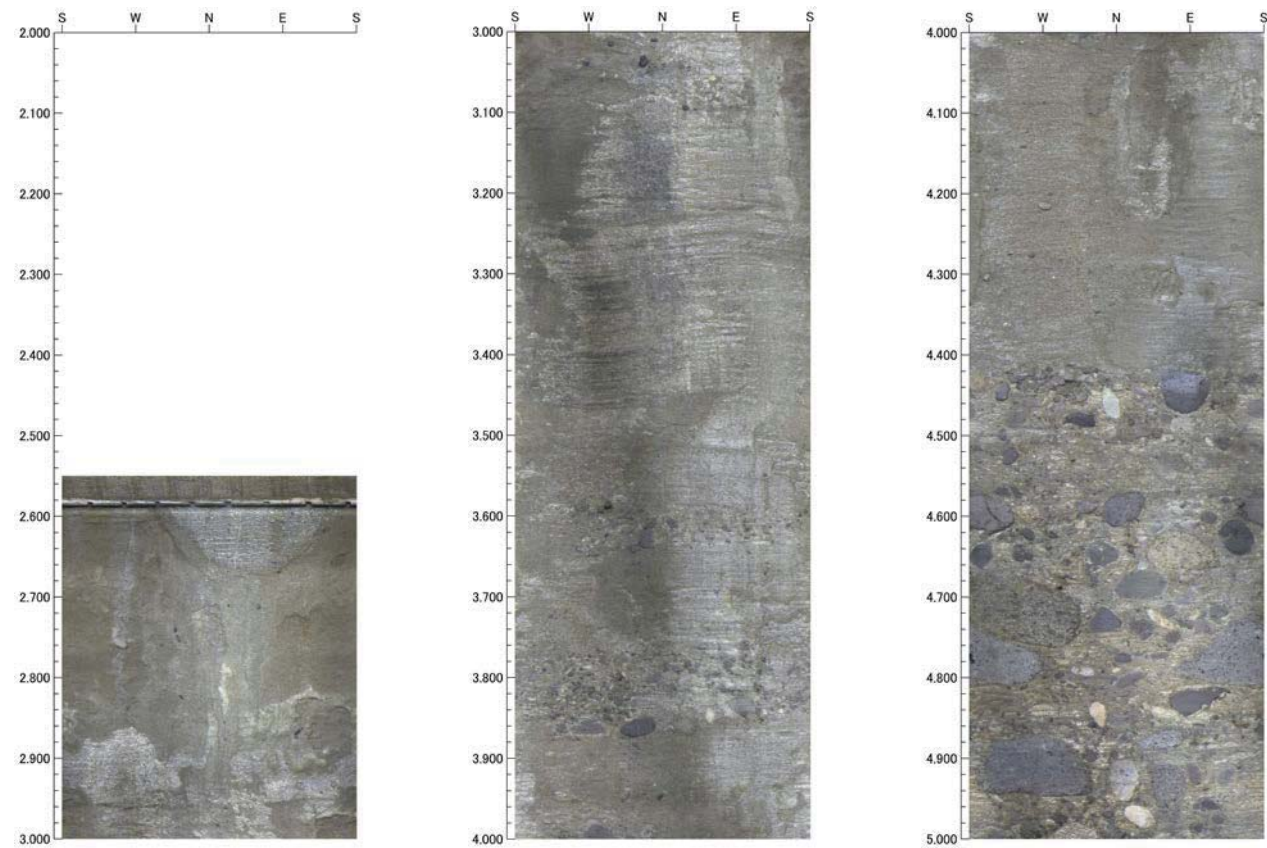
孔口標高 48.00m 掘進長 40.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
31					黒灰	やや軟質で、割れ目少ない。 深度29.92m: $\angle 25^\circ$ 、 $t=5-15\text{mm}$ で暗灰褐色を呈する軟質粘土が挟在。
32						深度32.37m: $\angle 30^\circ$ 、 $t=10-12\text{mm}$ で灰色を呈する固結した粘土が挟在。 深度32.51m: $\angle 25^\circ$ 、 $t=15-20\text{mm}$ で白色脈を伴い、灰色を呈する固結した粘土が挟在。
33						深度33.23-34.17m: $\angle 10-15^\circ$ 程度、 $t=2\text{mm}$ 以下で白色脈が分布。脈は母岩と密着。
34	13.65	34.35		黒色砂質凝灰岩		深度34.35-35.16m: 細粒-中粒の黒色砂質凝灰岩が挟在。
35	12.84	35.16			黒褐	割れ目やや多く、網状に分布し、軟質。
36						深度35.67m: $\angle 20-30^\circ$ 、 $t=8\text{mm}$ 以下で灰色を呈する固結した粘土が挟在。 深度35.73m: $\angle 35^\circ$ 、 $t=10\text{mm}$ 以下で灰色を呈し、糖を伴う軟質粘土が挟在。
37					黒灰	
38						深度37.65m: $\angle 15^\circ$ 、 $t=2-5\text{mm}$ で灰色を呈する固結した粘土が挟在。 深度37.98m: $\angle 25^\circ$ 、 $t=2-3\text{mm}$ で灰色を呈する固結した粘土が挟在。
39	9.35	38.84		黒色火山礫凝灰岩		礫径 $\phi 30\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。
40	8.00	40.00			黒灰	やや硬質で、割れ目少ない。 深度39.82-39.88m: 細粒の黒色砂質凝灰岩が挟在。 深度39.82m: $\angle 30-35^\circ$ の割れ目分布し、割れ目面(の一部)は糖脈を呈する。

柱状図 (R1敷地-1:深度30~40m)

余白

ボアホールテレビ画像 (1/9)

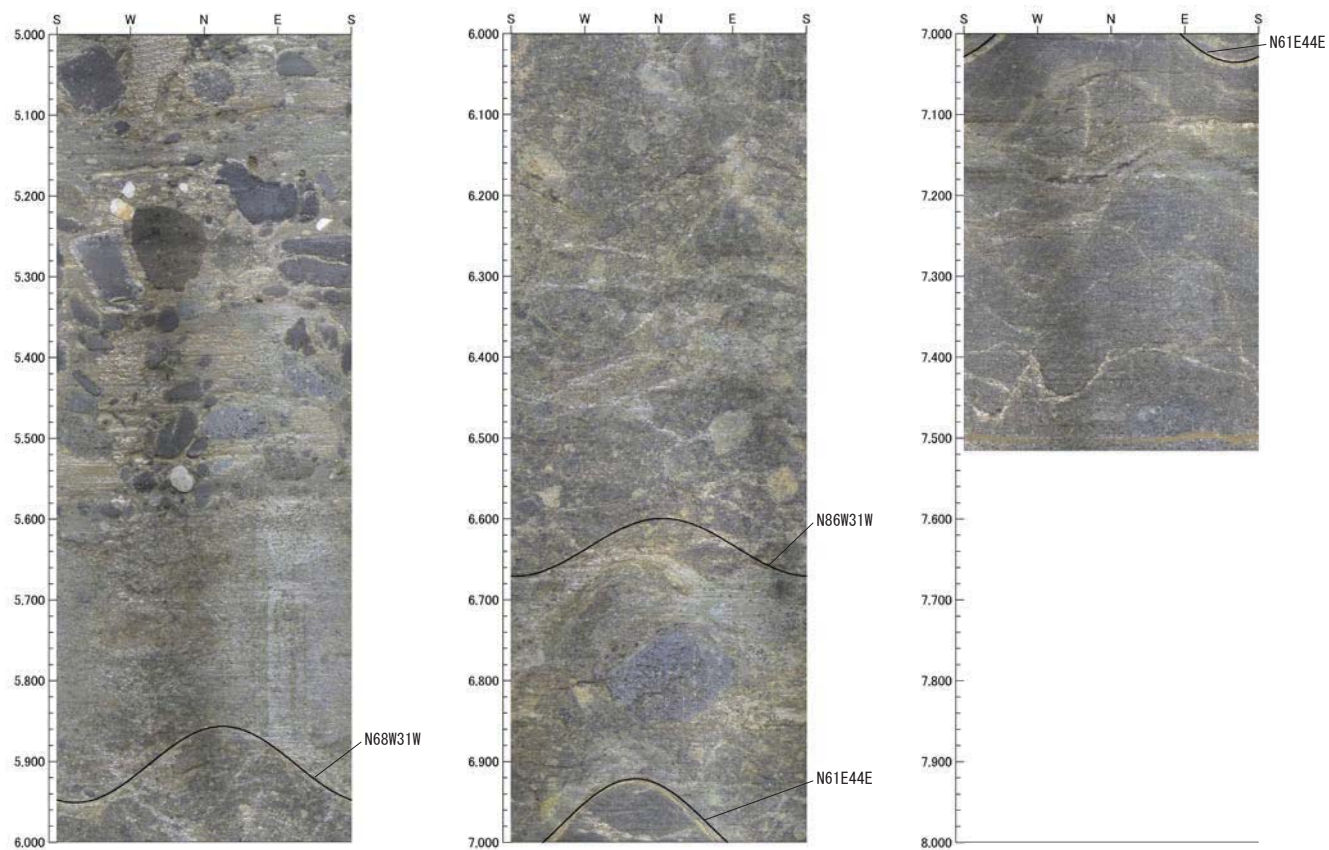


ボアホールテレビ画像 (深度2.6~5m)

凡 例

青字:層理面・葉理
黒字:割れ目

ボアホールテレビ画像 (2/9)

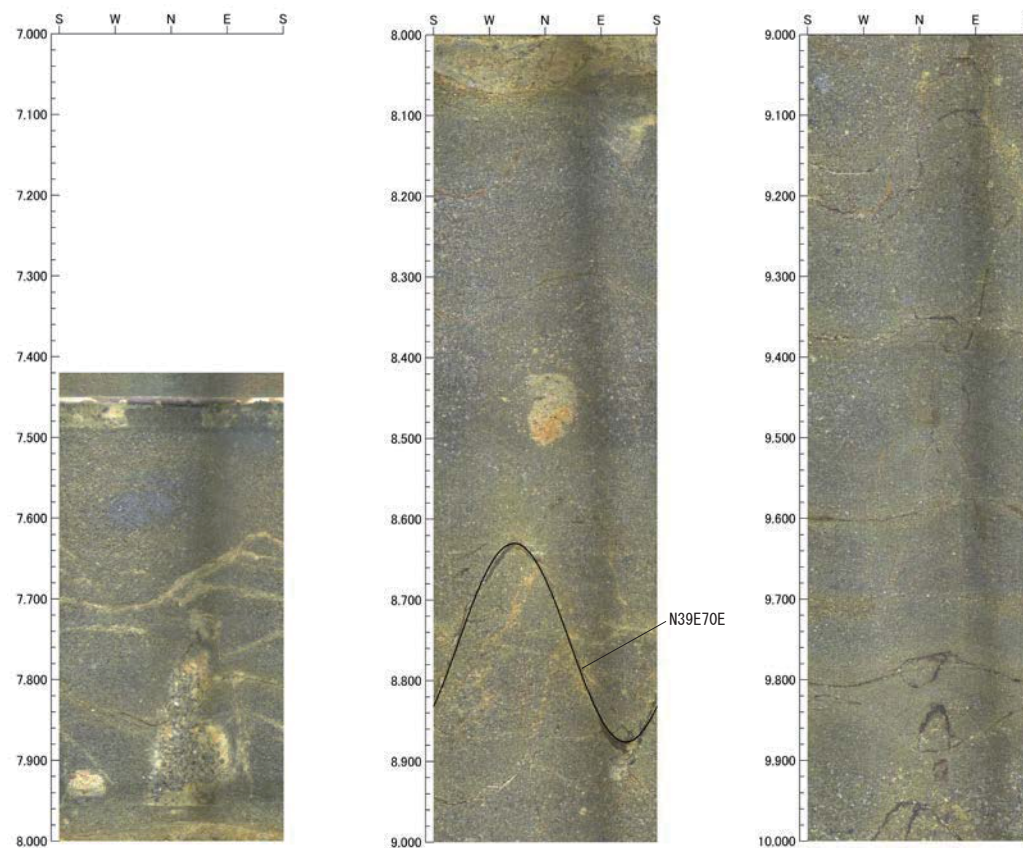


ボアホールテレビ画像 (深度5～7.5m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (3/9)

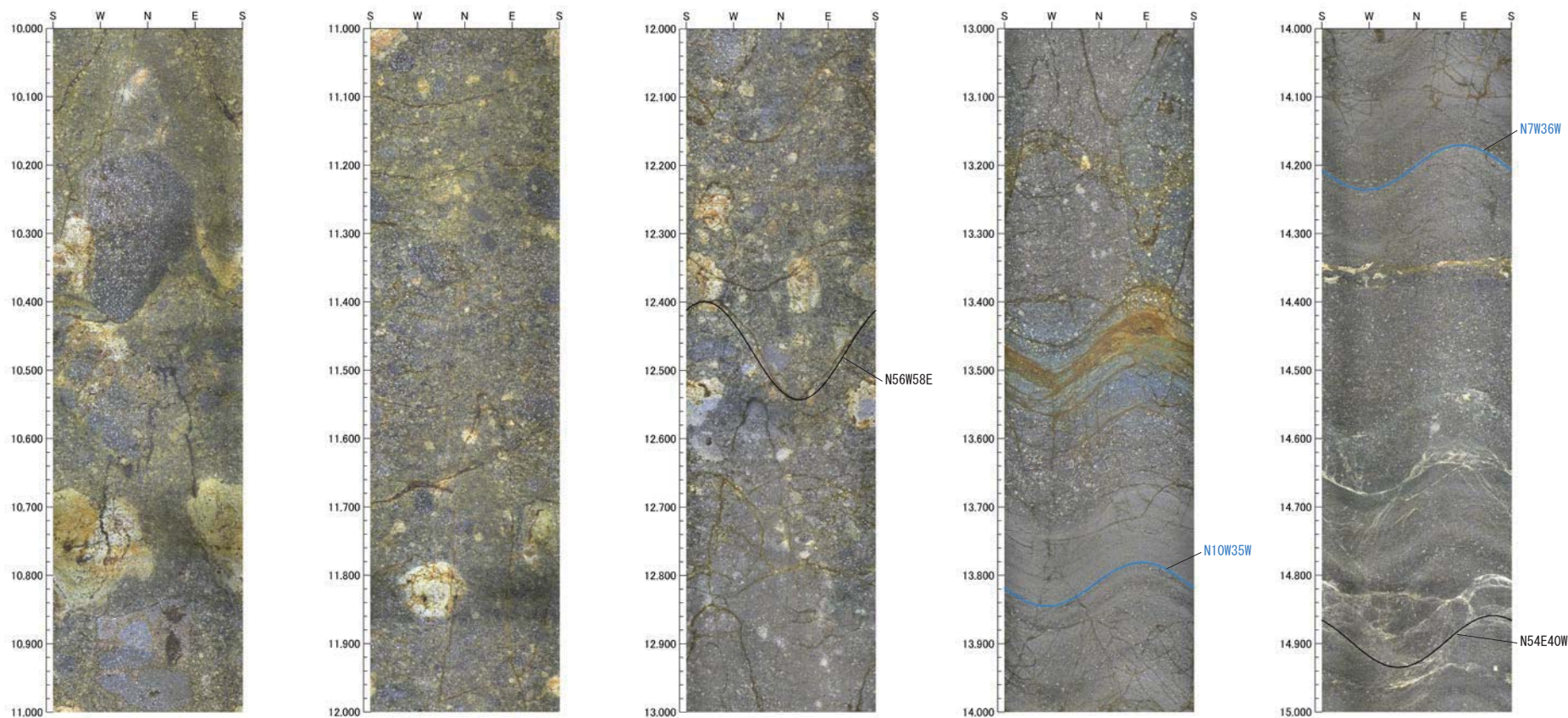


ボアホールテレビ画像 (深度7.5～10m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (4/9)

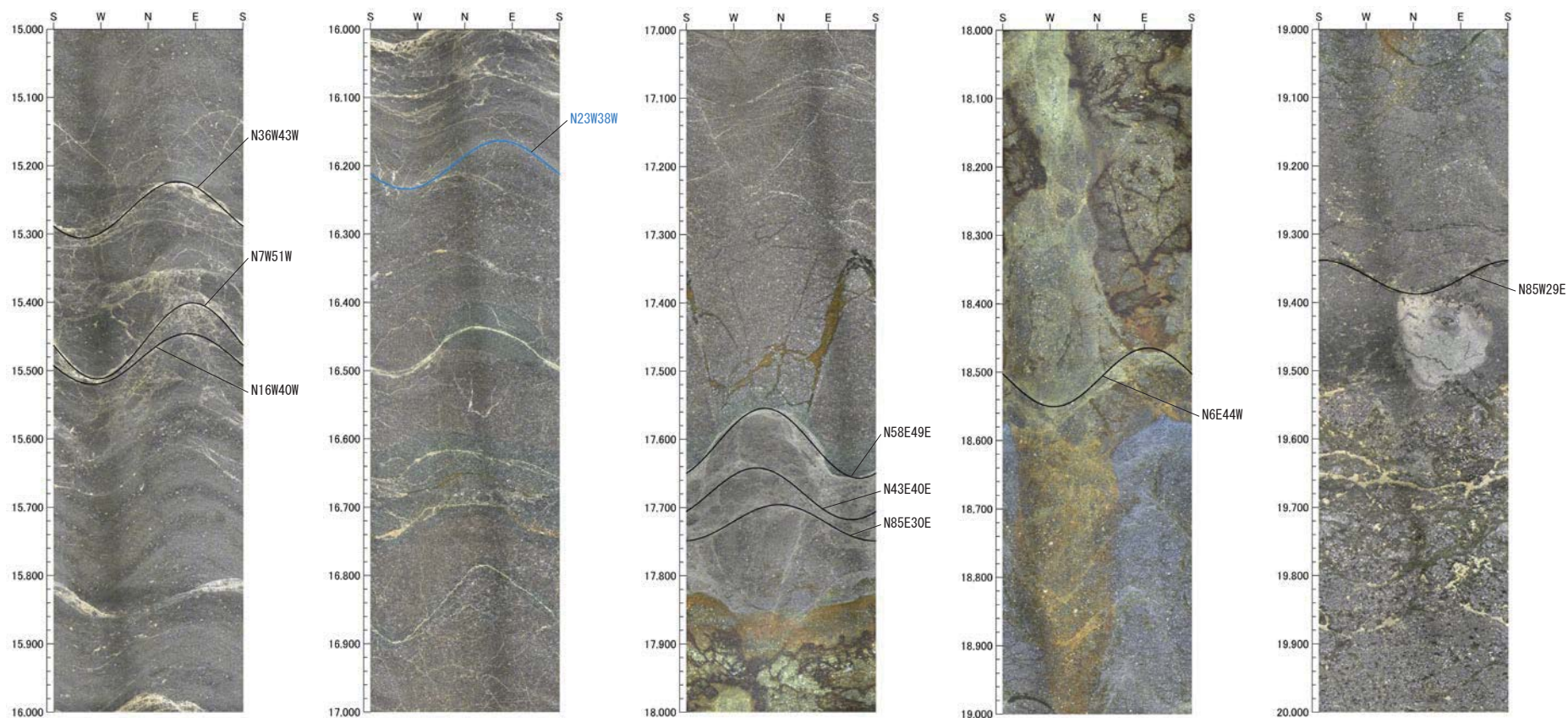


ボアホールテレビ画像 (深度10～15m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (5/9)

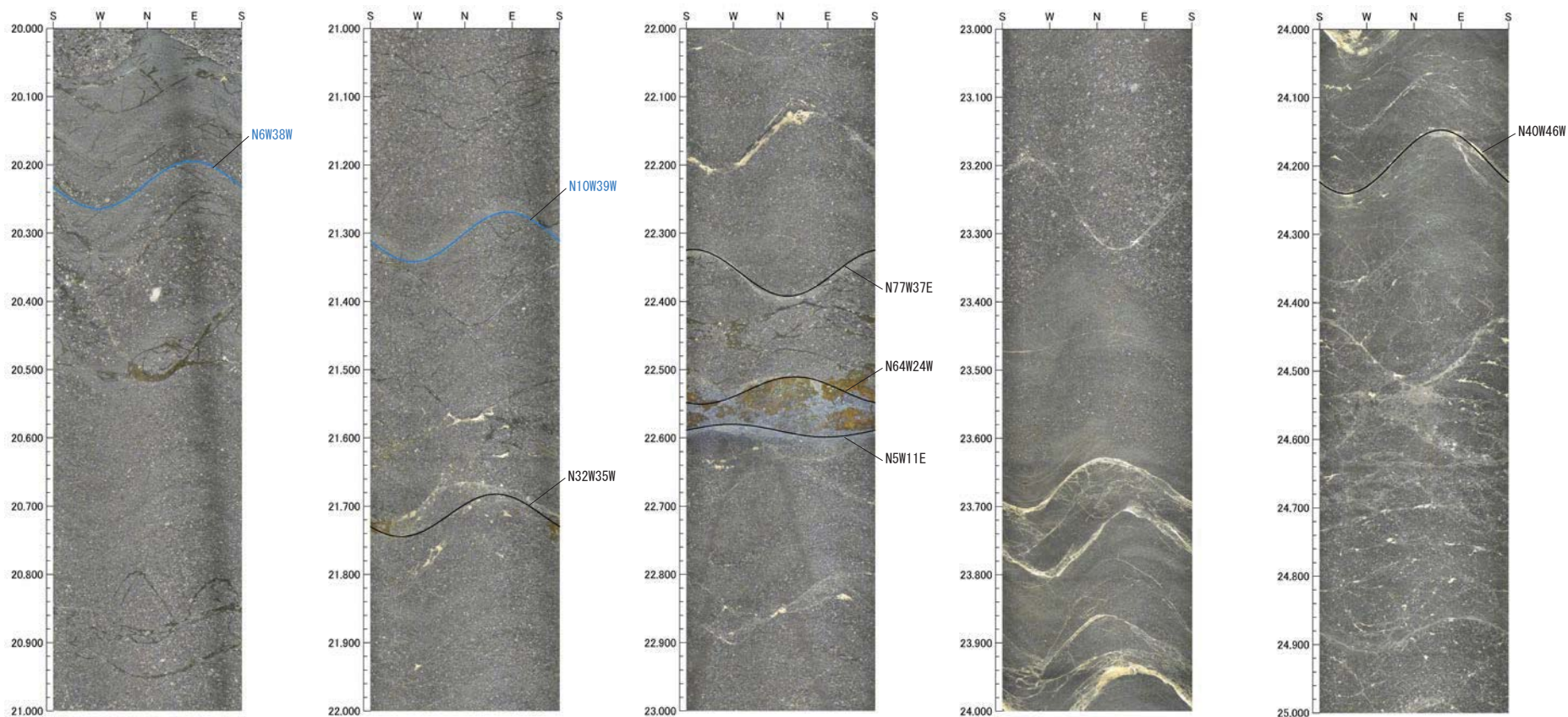


ボアホールテレビ画像 (深度15~20m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (6/9)

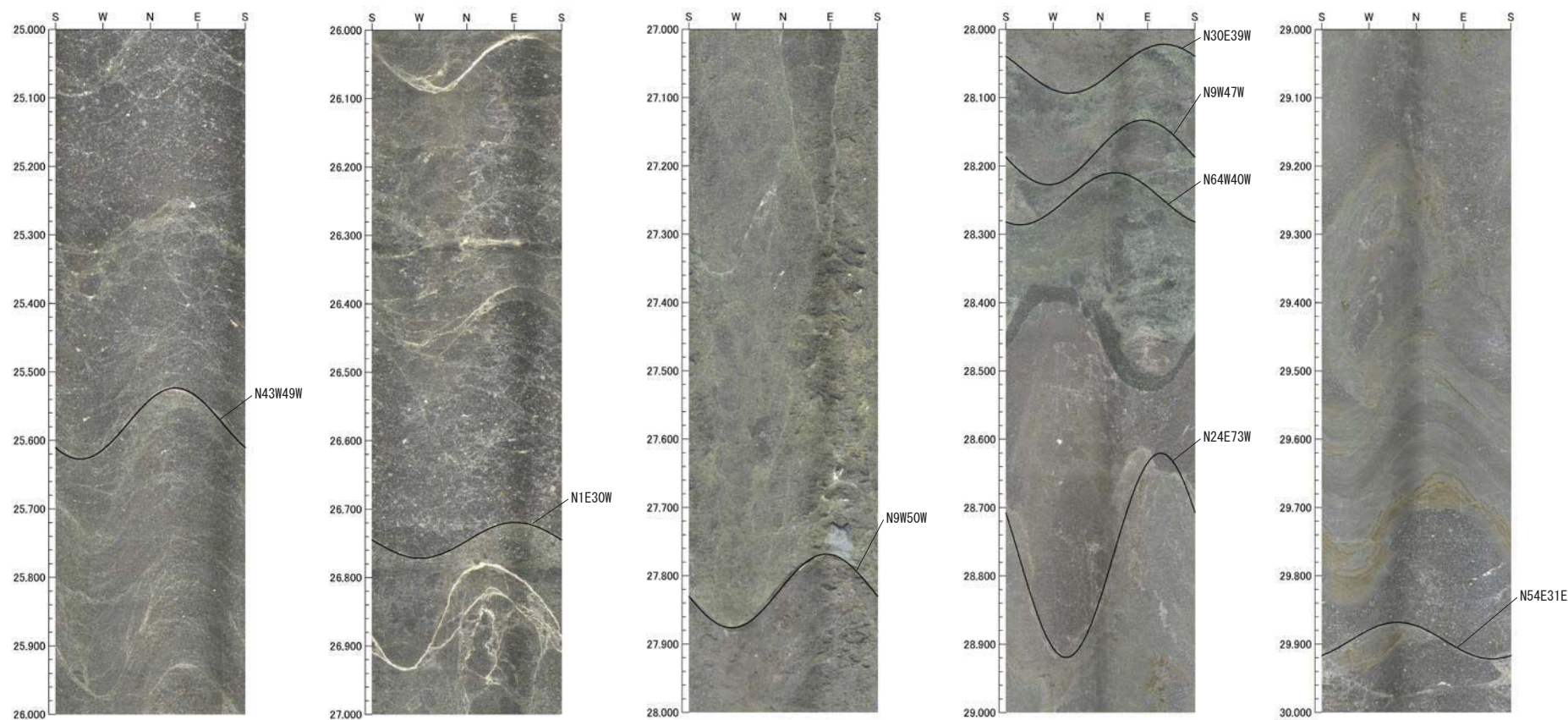


ボアホールテレビ画像 (深度20～25m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (7/9)

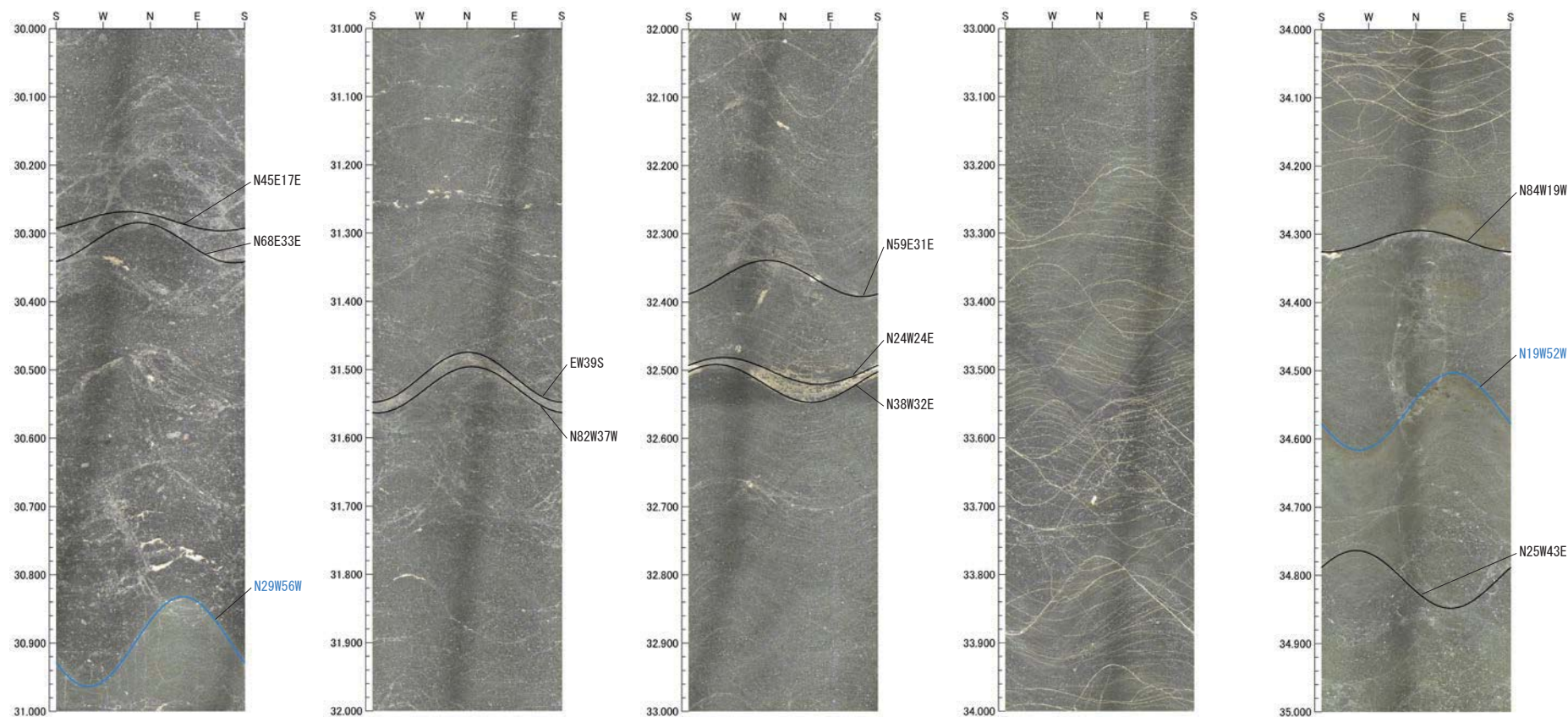


ボアホールテレビ画像 (深度25～30m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (8/9)

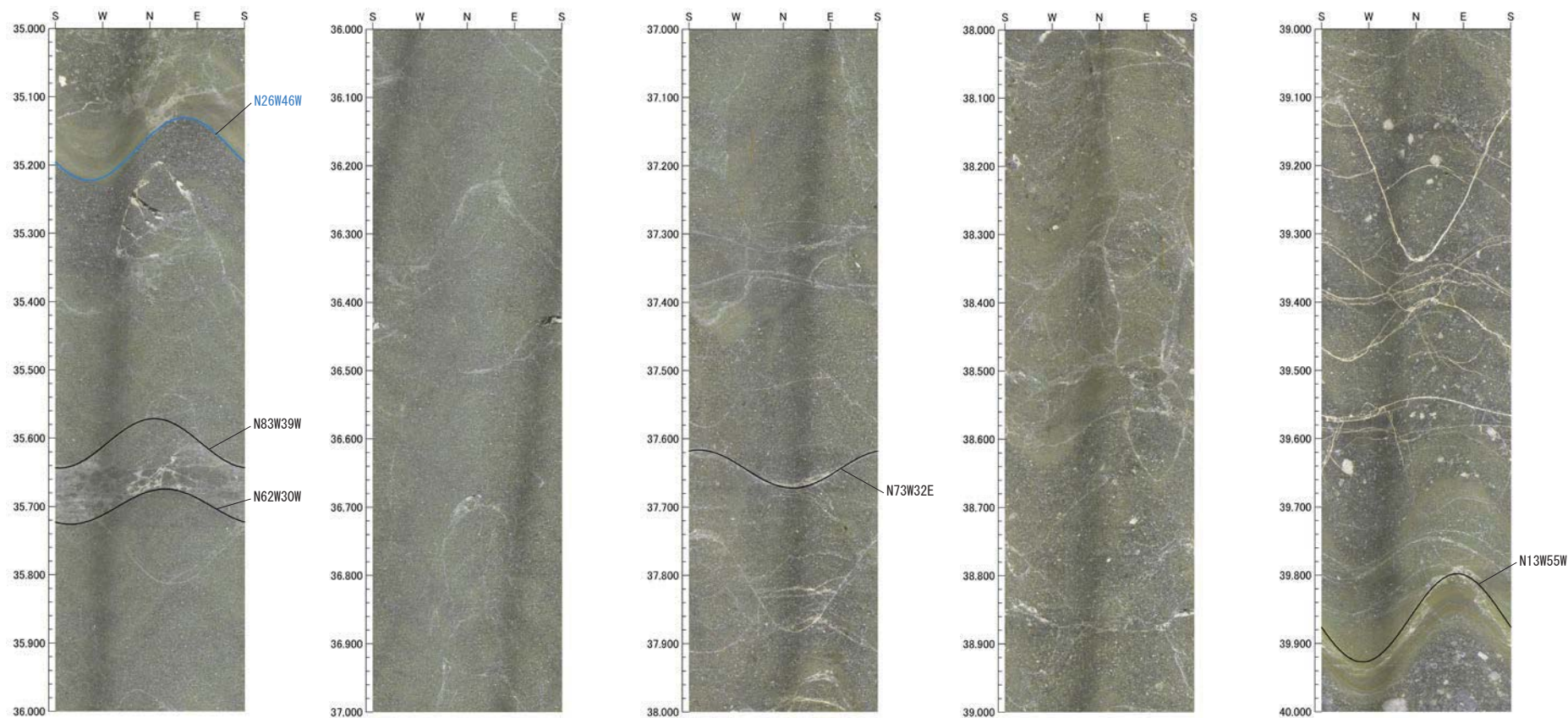


ボアホールテレビ画像 (深度30～35m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (9/9)



ボアホールテレビ画像 (深度35～40m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

余白

R1敷地-3ボーリング

孔口標高:39.60m



※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟在若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-3ボーリング:深度0~15m) :劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部)



※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟み若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-3ボーリング: 深度15~30m) : 劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部とは判定されない劣化部)

余白

柱状図 (2/2)

孔口標高:39.60m



☐:劣化部※(F-1断層の可能性を有する劣化部とは判定されない劣化部)

※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟み若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-3:深度15~30m)

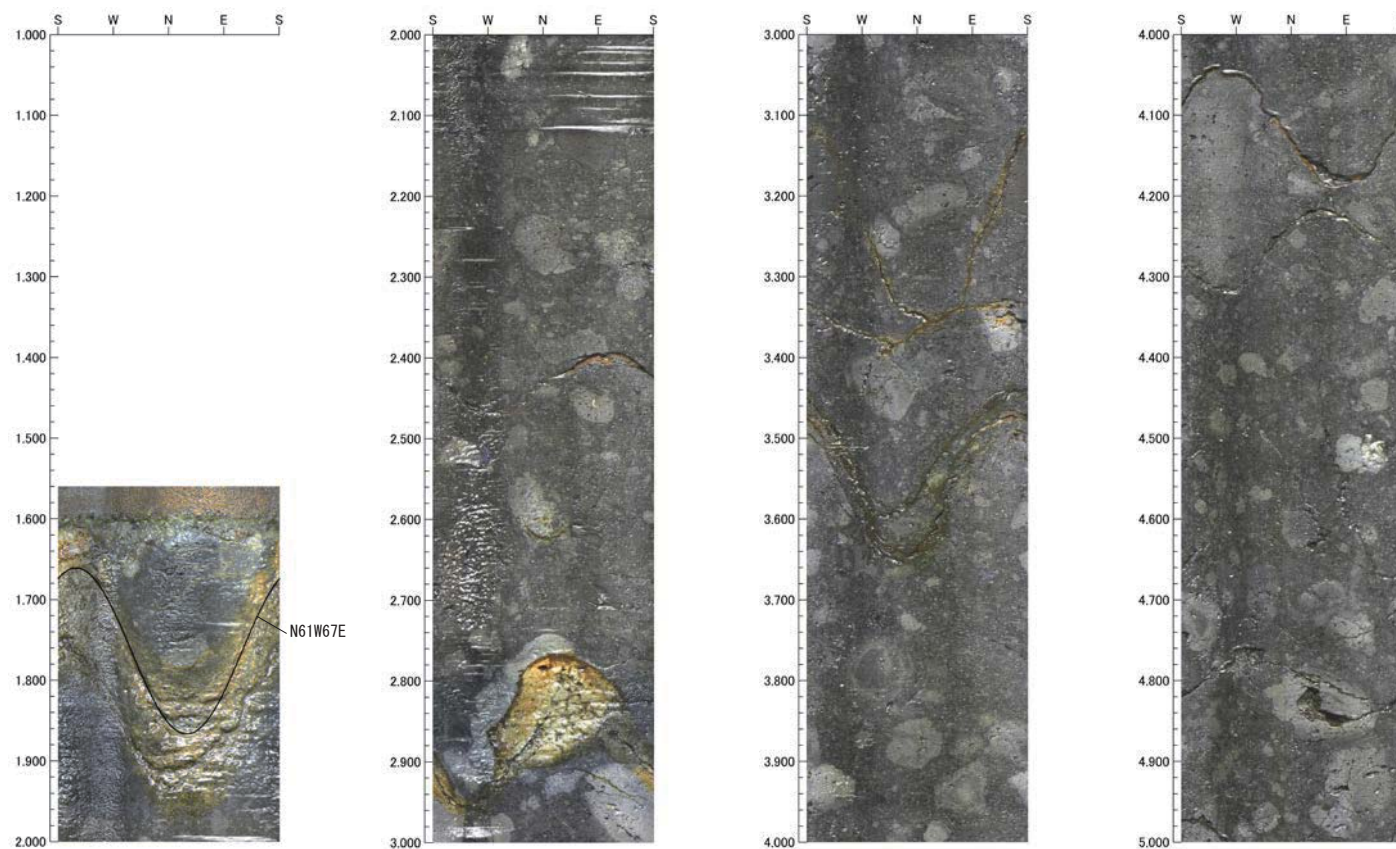
R1敷地-3

孔口標高 39.60m 掘進長 30.00m

標尺	標高	深度	柱状図	地質名	色調	記 事
(m)	(m)	(m)				
16				黒色砂質凝灰岩	黒灰	深度14.29-15.84m:やや軟質で、割れ目やや多い。 深度15.84-16.00m:角礫状を呈する。 深度16.00-17.15m:やや軟質で、割れ目多い。∠0°程度の割れ目沿いに角礫状を呈する。 深度16.33m:∠70-75°、t=3mm以下で灰色を呈する軟質粘土が挟在。
17						深度17.15-18.80m:やや軟質で、割れ目少ない。 深度17.25-17.90m:t=3mm以下で灰-白色脈が網状に分布。脈は母岩と密着。
18						深度17.30-17.46m:∠35-40°、t=150mmで白色を呈し、礫を伴う固結した粘土が挟在。
19						深度18.10m:∠60°、t=2mm以下で白色脈を呈する軟質粘土が挟在。
20	19.20	20.40				深度18.80-20.40m:やや硬質で、割れ目少ない。 深度18.80-19.32m:∠20-45°、t=1mm以下で白色脈が分布。脈は母岩と密着。
21	18.30	21.30		黒色火山礫凝灰岩	黒灰	深度19.32-20.69m:割れ目やや多い。 深度19.83m:∠35°、t=5mmで暗灰色を呈する軟質粘土が挟在。下盤側3cmは割れ目が網状に分布。
22				黒色砂質凝灰岩	黒灰	礫径φ10mm以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。 やや硬質で、割れ目やや多い。
23						細粒-中粒の黒色砂質凝灰岩。 やや硬質で、割れ目少ない。
24	15.40	24.20				深度22.90-24.20m:∠30°程度または∠60-90°、t=1mm以下で白色脈が分布。脈は母岩と密着。
25	14.49	25.11		黒色火山礫凝灰岩	黒灰	深度23.80-24.06m:黒色火山礫凝灰岩が挟在。
26						礫径φ20mm以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。 やや硬質で、割れ目少ない。∠30°程度または∠60-90°、t=1mm以下で白色脈が分布。脈は母岩と密着。
27				黒色砂質凝灰岩	黒灰	中粒-粗粒の黒色砂質凝灰岩。 やや硬質。 深度25.11-27.06m:割れ目少ない。 深度25.11-26.94m:∠30°程度または∠60-90°、t=1mm以下で白色脈が分布。脈は母岩と密着。
28	11.50	28.10				深度27.06-28.10m:割れ目やや多い。
29				黒色火山礫凝灰岩	黒灰	礫径φ15mm以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。 やや硬質で、割れ目少ない。
30	9.60	30.00				深度28.79-28.96m:黒色砂質凝灰岩が挟在。

柱状図 (R1敷地-3:深度15~30m)

ボアホールテレビ画像 (1/6)

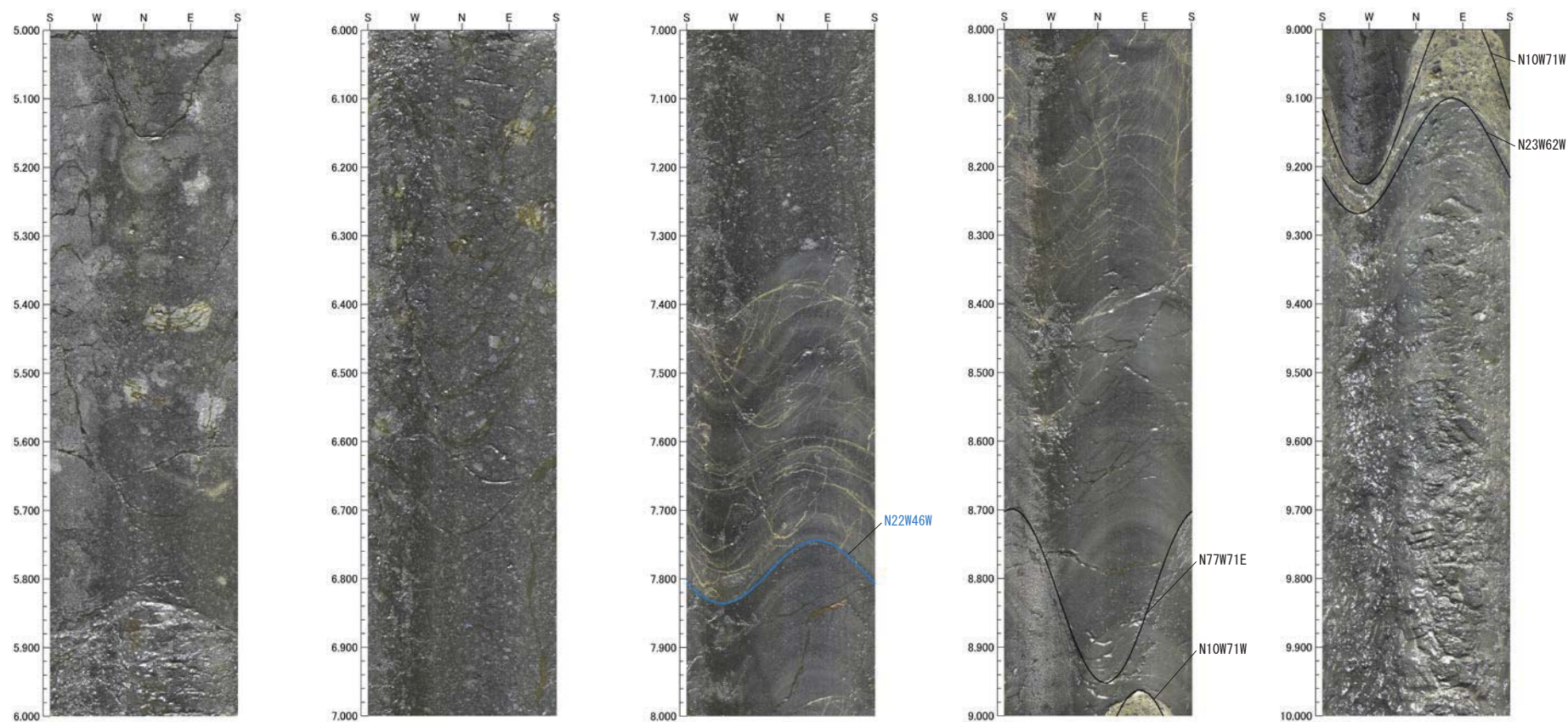


ボアホールテレビ画像 (深度1.6~5m)

凡 例

青字:層理面・葉理
黒字:割れ目

ボアホールテレビ画像 (2/6)

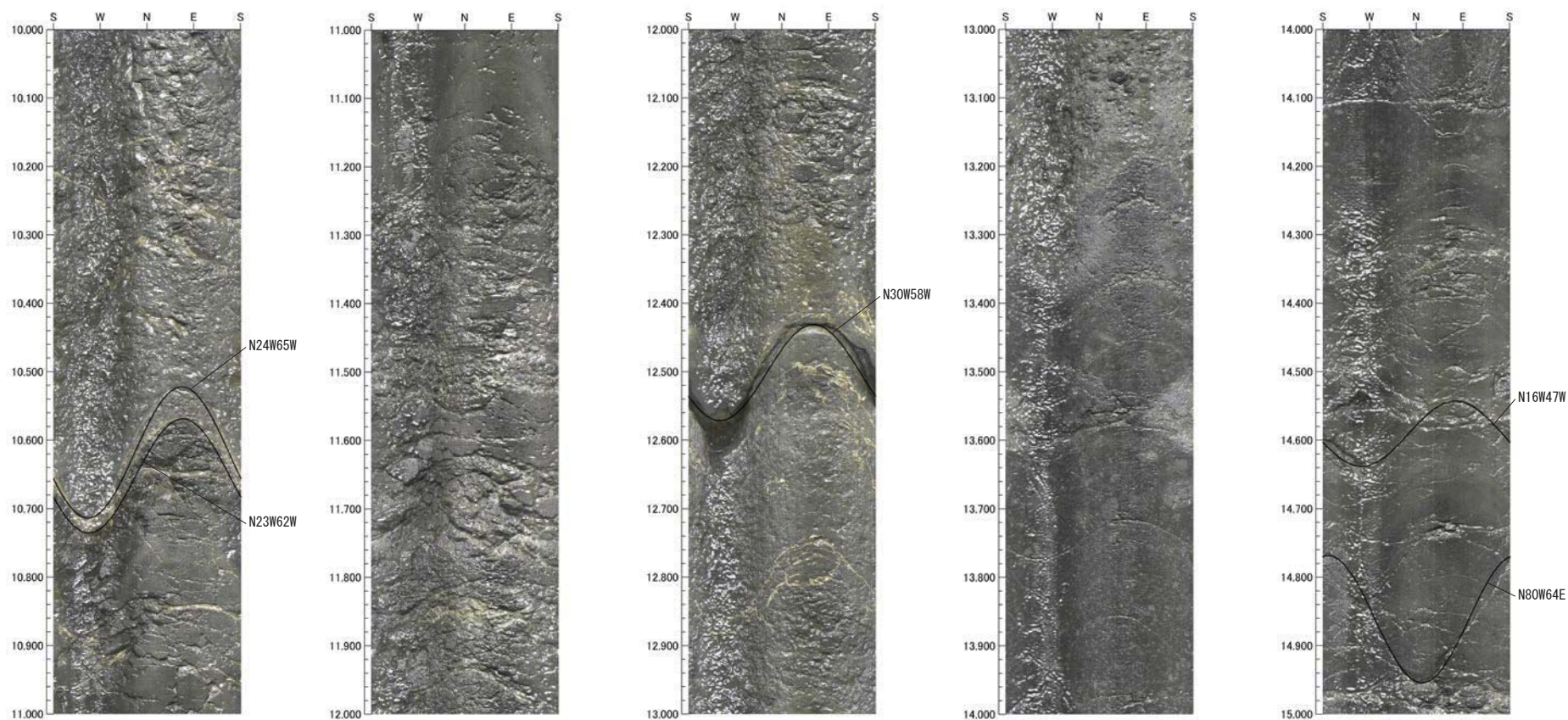


ボアホールテレビ画像 (深度5～10m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (3/6)

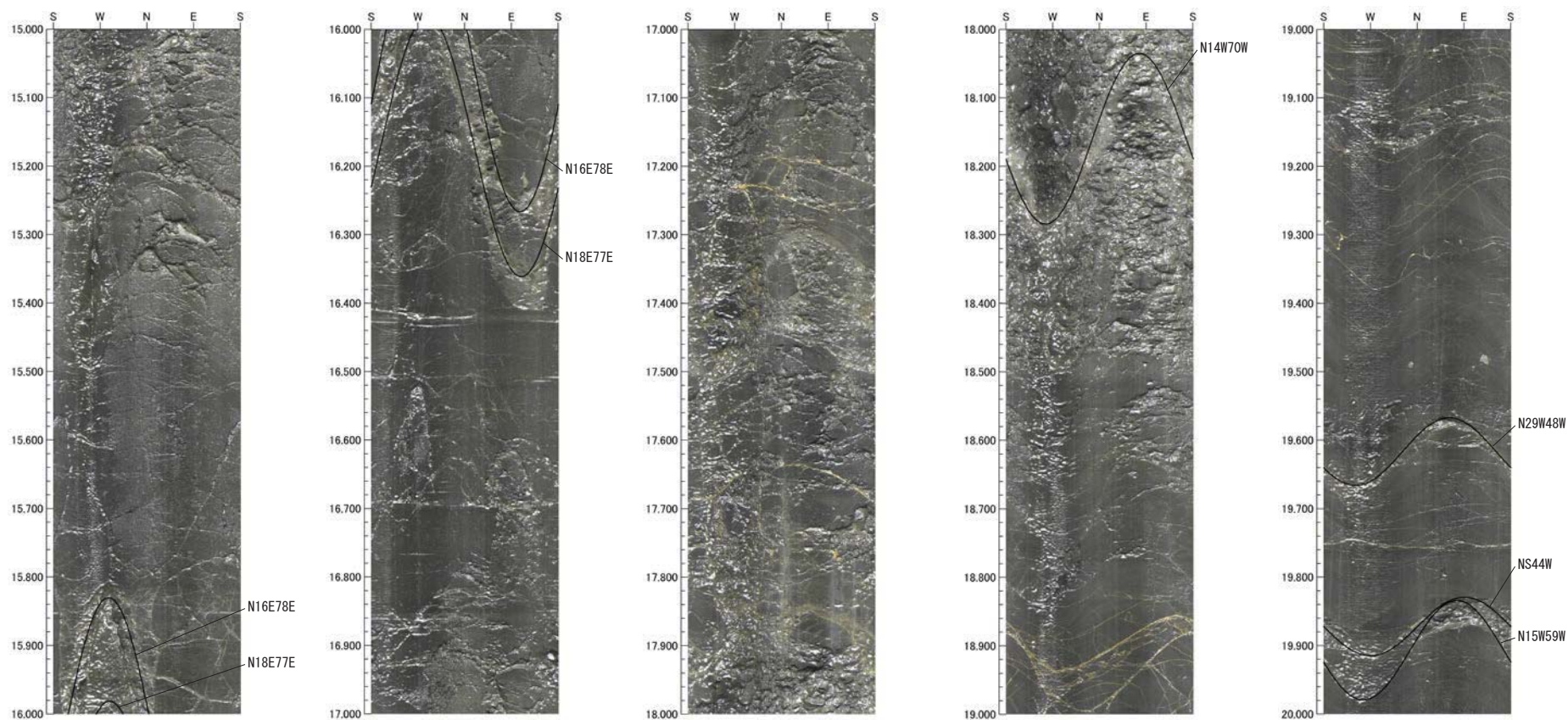


ボアホールテレビ画像 (深度10～15m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (4/6)

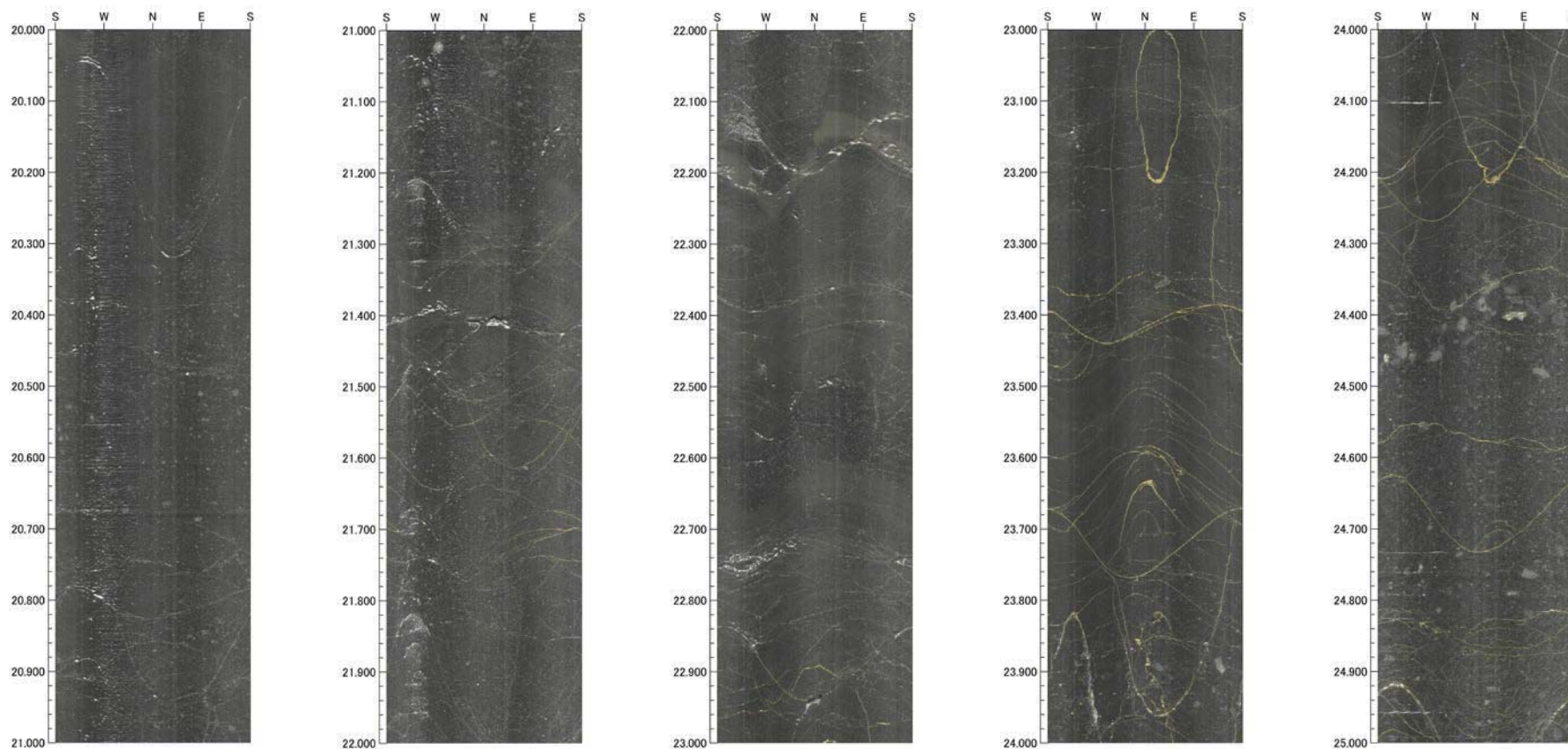


ボアホールテレビ画像 (深度15～20m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (5/6)

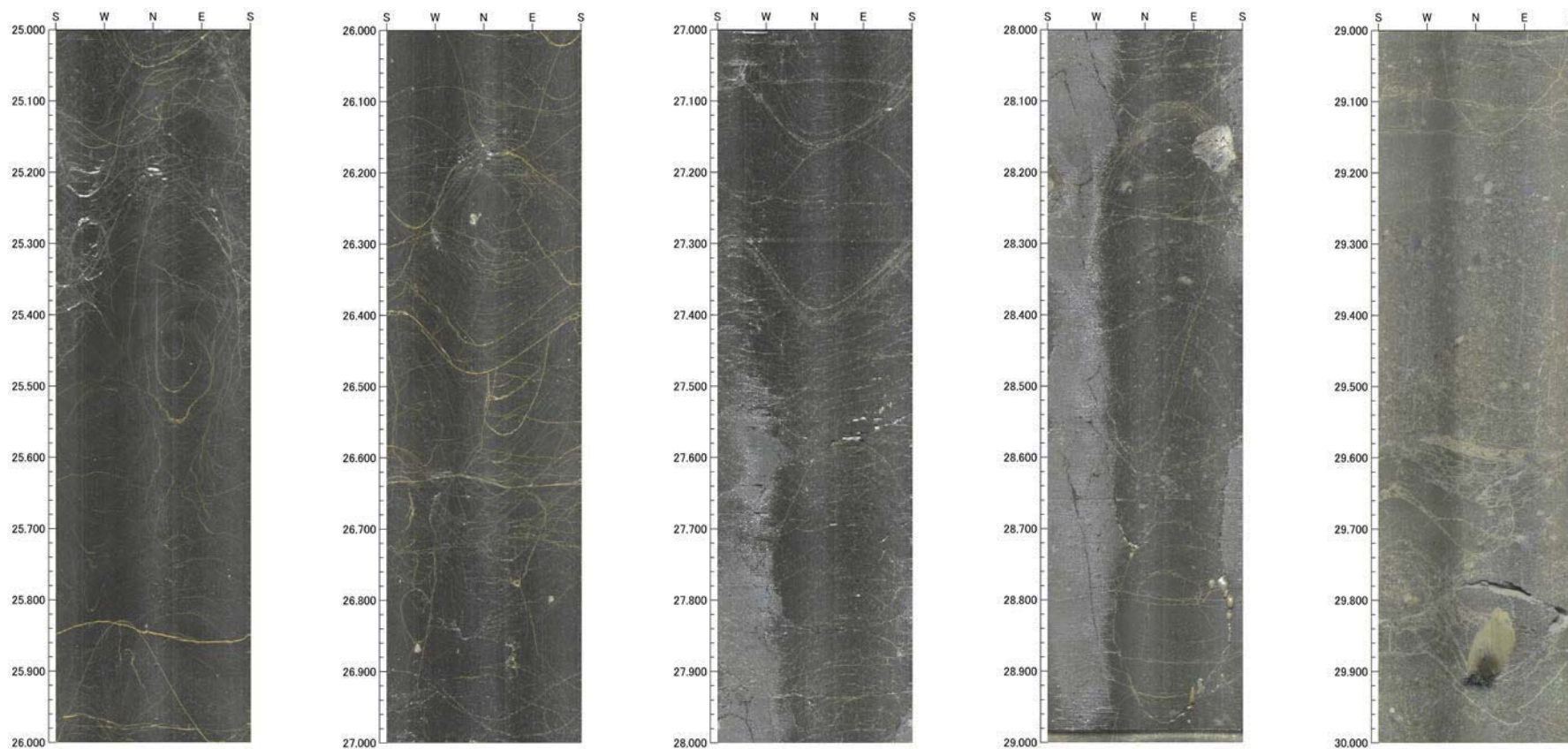


ボアホールテレビ画像 (深度20～25m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (6/6)



ボアホールテレビ画像 (深度25～30m)

凡 例

青字:層理面・葉理
黒字:割れ目

R1敷地-4ボーリング

孔口標高: 10.40m



コア写真 (R1敷地-4ボーリング: 深度0~15m)



コア写真 (R1敷地-4ボーリング:深度15~30m)



コア写真 (R1敷地-4ボーリング:深度30~45m)



※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟在若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-4ボーリング: 深度45~60m) : 劣化部* (F-1断層の可能性を有する劣化部)



※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟み若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-4ボーリング: 深度60~75m) : 劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部とは判定されない劣化部)



コア写真 (R1敷地-4ボーリング:深度75~90m)

余白

柱状図 (1/6)

孔口標高:10.40m



コア写真 (R1敷地-4: 深度0~15m)

R1敷地-4

孔口標高 10.40m 掘進長 90.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
1	8.74	1.66		機混じり 砂	茶褐	海浜の悪い中粒-粗粒砂で、シルトが少量混じる。 礫径φ30mm以下の角-亜角礫が少量混じる。機混は安山岩・デイサイト・ 凝灰岩。 深度0.00-0.30m:植物根多く混じり有機質。
2	6.07	4.33		火山礫 凝灰岩	暗灰	礫径φ20mm以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。 やや硬質で、割れ目少ない。割れ目面は褐色を呈する。
3	4.60	5.80		凝灰角礫岩	暗灰	礫径φ100mm以下の安山岩礫からなる凝灰角礫岩。 やや硬質で、割れ目少ない。 深度4.33-5.80m:割れ目面は褐色を呈する。
4	1.20	9.20		火山礫 凝灰岩	暗灰	礫径φ20mm以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。 やや硬質で、割れ目少ない。 深度9.40m:∠75°、割れ目。割れ目面は褐色を呈する。
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

変更

柱状図 (R1敷地-4: 深度0~15m)

柱状図 (2/6)

孔口標高:10.40m



コア写真 (R1敷地-4:深度15~30m)

R1敷地-4

孔口標高 10.40m 掘進長 90.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図 名	地 質 名	色 調	記 事
16	-5.40	15.80	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	火山礫 凝灰岩	暗灰	深度15.06m: $\angle 0^\circ$ 、割れ目。割れ目面は褐色を呈する。
17			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲			礫径 $\phi 300\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる凝灰角礫岩。 やや硬質で、割れ目少ない。
18	-7.50	17.90	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲			深度17.90-22.20m: 一部の割れ目面は弱く褐色を呈する。
19			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲			
20			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	凝灰角礫岩	暗灰	
21			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲			
22	-11.90	22.20	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲			
23			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲			
24			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲			深度23.75m: $\angle 50^\circ$ 、 $t=7-10\text{mm}$ で灰色を呈し、礫を伴う固結した粘土が 挟在。
25	-14.80	25.00	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲			
26			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	火山礫 凝灰岩	暗灰	礫径 $\phi 10\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。 やや硬質で、割れ目少ない。一部の割れ目面は弱く褐色を呈する。
27			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲			深度26.03m: $\angle 0^\circ$ 、割れ目。割れ目沿いに褐色を呈する。
28			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲			深度26.92m: $\angle 30^\circ$ 、割れ目。割れ目沿いに褐色を呈する。
29			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲			深度27.25m: $\angle 35^\circ$ 、割れ目。割れ目沿いに褐色を呈する。
30	-18.90	29.30	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	凝灰角礫岩	暗灰褐	深度27.40-28.60m: $\angle 30-50^\circ$ 、 $t=1\text{mm}$ 以下の白色脈が分布。脈は母岩と密着。
			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲			礫径 $\phi 100\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる凝灰角礫岩。 やや硬質で、割れ目少ない。

柱状図 (R1敷地-4:深度15~30m)

柱状図 (3/6)

孔口標高:10.40m



コア写真 (R1敷地-4:深度30~45m)

R1敷地-4

孔口標高 10.40m 掘進長 90.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
31						
32						
33						
34						
35						深度34.14-34.46m:割れ目多い。 深度34.14m: $\angle 40^\circ$、$t=1mm$で灰色を呈する軟質粘土が挟在。 深度34.19-34.33m:白色脈が網状に挟在。全体に固結する。 深度34.33-34.38m: $\angle 40^\circ$、$t=50mm$で白色脈が挟在。固結する。 深度34.38-34.46m:白色脈が網状に挟在。全体に固結する。
36				凝灰角礫岩	暗灰褐	
37						
38						
39						
40						深度39.81-41.45m: $\angle 40-65^\circ$、$t=3mm$以下で白色脈が分布。脈と母岩は密着。
41						
42	-31.50	41.90				
43				火山礫凝灰岩	暗灰	礫径$\phi 15mm$以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。 やや硬質で、割れ目少ない。
44	-33.15	43.55				
45				黒色砂質凝灰岩	黒灰	細粒の黒色砂質凝灰岩。 やや軟質で、割れ目少ない。$\angle 45-75^\circ$、$t=5mm$以下で白色脈が分布。 脈は母岩と密着。

柱状図 (R1敷地-4:深度30~45m)

柱状図 (4/6)

孔口標高:10.40m



 :劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部)

※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟み若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-4:深度45~60m)

R1敷地-4

孔口標高 10.40m 掘進長 90.00m

標尺	標高	深度	柱状図	地質	色調	記
(m)	(m)	(m)	図	名	調	事
46	-35.15	45.55	▲▲▲▲▲	黒色砂質凝灰岩	黒灰	深度45.13m: $\angle 60^\circ$ 、 $t=10\sim15\text{mm}$ で白色脈が挟在。礫を伴い固結する。
47			▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	黒灰	礫径 $\phi 10\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。やや硬質で、割れ目少ない。 $\angle 10\sim45^\circ$ 、 $t=3\text{mm}$ 以下で白色脈が分布。脈は母岩と密着。
48	-37.43	47.83	▲▲▲▲▲			
49	-38.80	49.00	▲▲▲▲▲	黒色砂質凝灰岩	黒灰	細粒の黒色砂質凝灰岩。やや軟質-やや硬質で、一部軟質。割れ目少なく、一部で割れ目多い。 $\angle 10\sim60^\circ$ 、 $t=2\text{mm}$ 以下で白色脈が分布。脈は母岩と密着。深度48.33m: $\angle 90^\circ$ 、 $t=7\sim9\text{mm}$ で増灰色を呈する軟質粘土が挟在。深度48.55m: $\angle 90^\circ$ 、 $t=1\text{mm}$ で増灰色を呈する軟質粘土が挟在。深度49.00~49.59m: 白色脈やや多く、軟質。深度49.44~49.53m: 上面 $\angle 45^\circ$ 、下面は不規則で白色脈が挟在。深度49.45m: $\angle 45^\circ$ 、 $t=7\sim11\text{mm}$ で明灰色を呈し、礫を伴う軟質粘土が挟在。深度49.96~52.45m: $\angle 40^\circ$ 程度、 $t=2\text{mm}$ 以下の白色脈が分布。脈は母岩と密着。 $\angle 40^\circ$ 程度の平行葉理分布。深度49.98~54.09m: 割れ目沿いに弱く褐色を呈する。
50	-39.56	49.96	▲▲▲▲▲			
51	-40.80	51.00	▲▲▲▲▲			
52	-42.05	52.45	▲▲▲▲▲			
53	-42.80	53.00	▲▲▲▲▲			深度52.45~53.00m: 割れ目やや多い。深度52.80m: $\angle 55^\circ$ 程度、 $t=3\text{mm}$ 以下で、白色を呈する固結した粘土が挟在。
54	-43.89	54.09	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	黒灰	礫径 $\phi 15\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。硬質で、割れ目少ない。割れ目沿いに弱く褐色を呈する。
55	-44.38	54.78	▲▲▲▲▲			
56	-45.44	55.84	▲▲▲▲▲	黒色砂質凝灰岩	黒灰	細粒の黒色砂質凝灰岩。硬質-やや硬質で、割れ目少なく、一部で割れ目多い。 $\angle 45\sim70^\circ$ 、 $t=4\text{mm}$ 以下で白色脈が分布。脈は母岩と密着。深度54.90~55.84m: 割れ目やや多い。
57	-46.83	57.03	▲▲▲▲▲			深度57.03~57.39m: $\angle 50\sim70^\circ$ 、明褐色脈が網状に分布。脈沿いに褐色を呈する。脈は母岩と密着。深度57.91~58.12m: $\angle 60\sim70^\circ$ 、白色脈が網状に分布。脈は母岩と密着。
58			▲▲▲▲▲			深度58.43m: $\angle 50^\circ$ 、 $t=3\text{mm}$ で白色を呈する固結した粘土が挟在。深度58.84m: $\angle 45^\circ$ の割れ目面に条線あり。粘土は挟在しない。深度58.85m: $\angle 45^\circ$ の割れ目面に条線あり。粘土は挟在しない。
59	-48.54	59.84	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	暗灰	礫径 $\phi 15\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。軟質からやや硬質で、割れ目やや多い。
60			▲▲▲▲▲			

柱状図 (R1敷地-4:深度45~60m)

柱状図 (5/6)

孔口標高:10.40m



:劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部とは判定されない劣化部)

※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟み若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-4:深度60~75m)

R1敷地-4

孔口標高 10.40m 掘進長 90.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図 名	地 質 調	色	記 事
61	-49.83	60.23	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	暗灰	深度60.23-61.75m: やや硬質で、割れ目少ない。
62	-51.35	61.75	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	暗灰	深度61.75-62.73m: やや軟質で、割れ目やや多い。
63	-52.33	62.73	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	暗灰	深度62.73-62.81m: $\angle 50^\circ$ 、 $t=50\text{mm}$ で白色脈が網状に分布し、暗灰色を呈する固結した粘土が挟在。 深度62.81-62.94m: 割れ目が網状に分布し、コア肌落ち。 深度62.94-64.06m: やや軟質で、コア肌落ち。
64	-53.66	64.06	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	暗灰	深度64.06-64.84m: $\angle 70^\circ$ 、 $t=2\text{mm}$ 以下で、灰色を呈する軟質粘土が挟在。
65	-54.50	64.90	▲▲▲▲▲	中粒の黒色砂質凝灰岩	黒灰	中粒の黒色砂質凝灰岩。 軟質-やや硬質で、割れ目少ない。 $\angle 45-65^\circ$ で、 $t=10\text{mm}$ 以下で白色脈が分布。脈は母岩と密着。
66	-55.90	65.90	▲▲▲▲▲	中粒の黒色砂質凝灰岩	黒灰	深度64.90-66.36m: 軟質で、割れ目やや多い。脈沿いにコア肌落ち。 深度66.36-67.50m: やや軟質で、割れ目少ない。
67	-57.10	67.50	▲▲▲▲▲	中粒の黒色砂質凝灰岩	黒灰	深度67.50-68.23m: 上位に比べて白色脈の分布が少なく、やや硬質。
68	-58.83	69.23	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	黒灰	直径 $\phi 20\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。 やや硬質で、割れ目少ない。 $\angle 45-70^\circ$ 、 $t=4\text{mm}$ 以下で白色脈が分布。脈は母岩と密着。
69	-59.80	70.00	▲▲▲▲▲	中粒の黒色砂質凝灰岩	黒灰	中粒の黒色砂質凝灰岩。 やや硬質で、割れ目少ない。 $\angle 45-60^\circ$ 、 $t=2\text{mm}$ 以下で白色脈が分布。脈は母岩と密着。
70	-61.20	71.60	▲▲▲▲▲	中粒の黒色砂質凝灰岩	黒灰	直径 $\phi 30\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。 やや軟質からやや硬質で、割れ目少ない。 $\angle 60^\circ$ 程度、 $t=3\text{mm}$ 以下で白色脈が分布。脈は母岩と密着。
71	-63.40	73.80	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	黒灰	深度73.80-74.30m: $\angle 60^\circ$ 程度の白色脈が分布し、やや軟質。
72	-63.90	74.30	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	黒灰	
73	-64.80	75.00	▲▲▲▲▲	黒色火山礫凝灰岩	黒灰	

柱状図 (R1敷地-4:深度60~75m)

柱状図 (6/6)

孔口標高:10.40m



コア写真 (R1敷地-4:深度75~90m)

R1敷地-4

孔口標高 10.40m 掘進長 90.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
	-85.25 86.30	75.65 76.75	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色火山礫 凝灰岩	黒灰	深度75.00~75.75m: 白色脈が網状に分布し、やや軟質。コア肌落ち。
76			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色砂質 凝灰岩	黒灰	中粒の黒色砂質凝灰岩。 やや硬質で、割れ目少ない。 深度75.75m: 角60°、t=10mmで白色脈が挟在。脈は母岩と密着。 硬質で、割れ目少ない。
77	-86.09	76.49	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色火山礫 凝灰岩	黒灰	礫径φ15mm以下の安山岩礫からなる黒色火山礫凝灰岩。 硬質で、割れ目少ない。
78			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色火山礫 凝灰岩	黒灰	深度77.16~77.20m: 角55°、割れ目に礫が挟在。
79			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色火山礫 凝灰岩	黒灰	
80			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色火山礫 凝灰岩	黒灰	
81			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色火山礫 凝灰岩	黒灰	深度81.30~82.80m: 礫径φ30mm以下の安山岩礫がやや多く分布。
82			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色火山礫 凝灰岩	黒灰	
83			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色火山礫 凝灰岩	黒灰	深度82.80~84.65m: 礫径φ50mm以下の安山岩礫がやや多く分布。
84			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色火山礫 凝灰岩	黒灰	
85	-74.75	84.65	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色 凝灰角礫岩	黒灰	礫径φ100mm以下の安山岩礫からなる黒色凝灰角礫岩。 硬質で、割れ目少ない。
86			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色 凝灰角礫岩	黒灰	
87			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色 凝灰角礫岩	黒灰	
88			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色 凝灰角礫岩	黒灰	
89			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色 凝灰角礫岩	黒灰	
90	-79.80	90.00	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	黒色 凝灰角礫岩	黒灰	

柱状図 (R1敷地-4:深度75~90m)

ボアホールテレビ画像 (1/18)

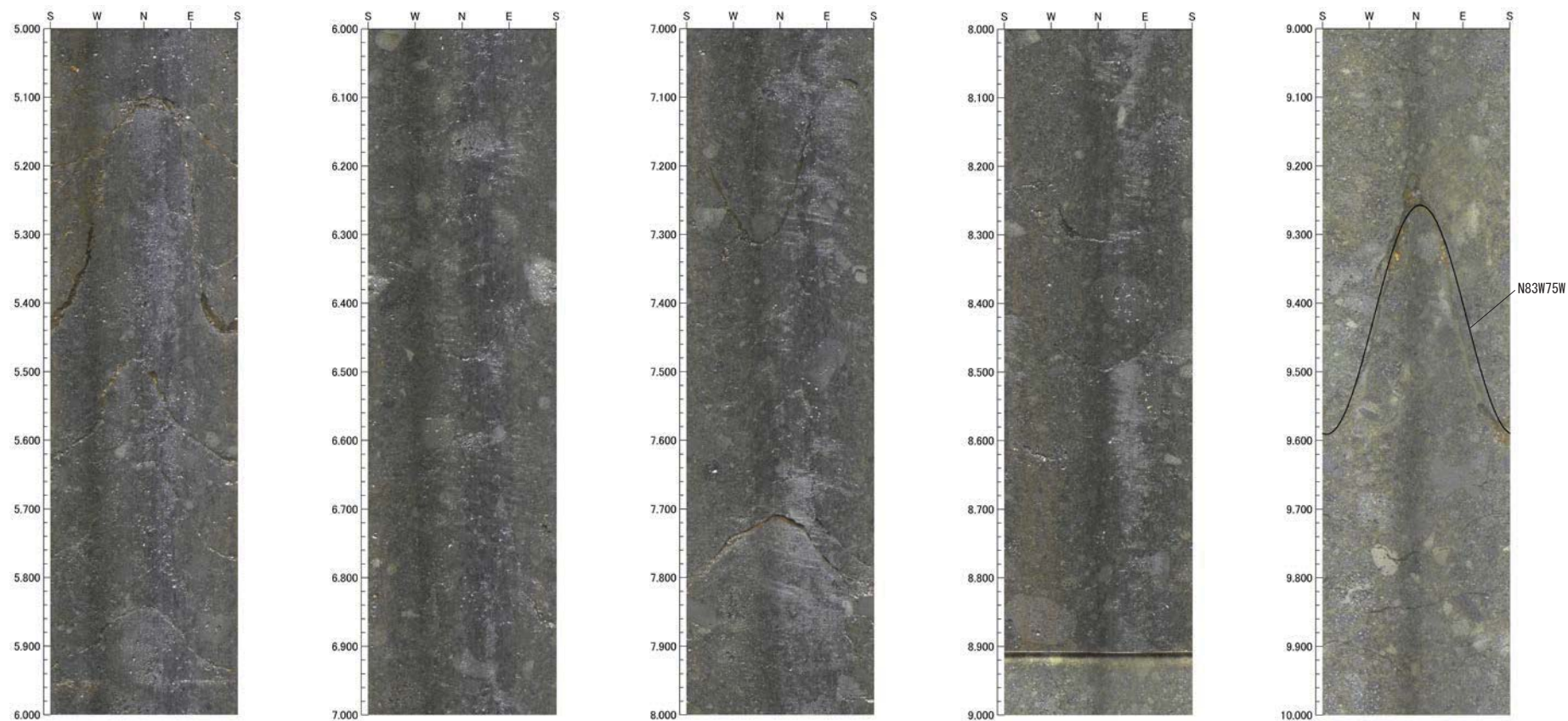


ボアホールテレビ画像 (深度1.6~5m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (2/18)

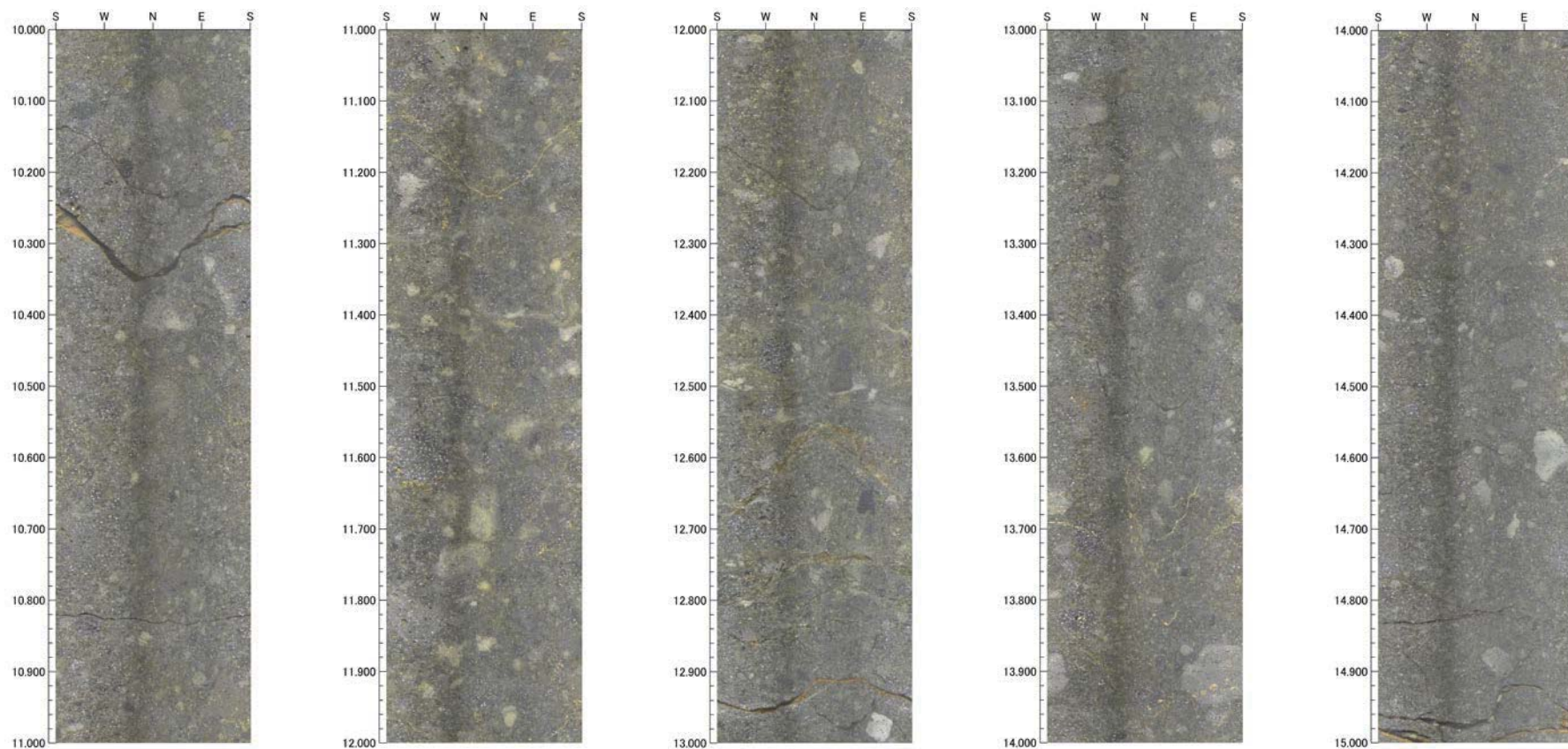


ボアホールテレビ画像 (深度5～10m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (3/18)

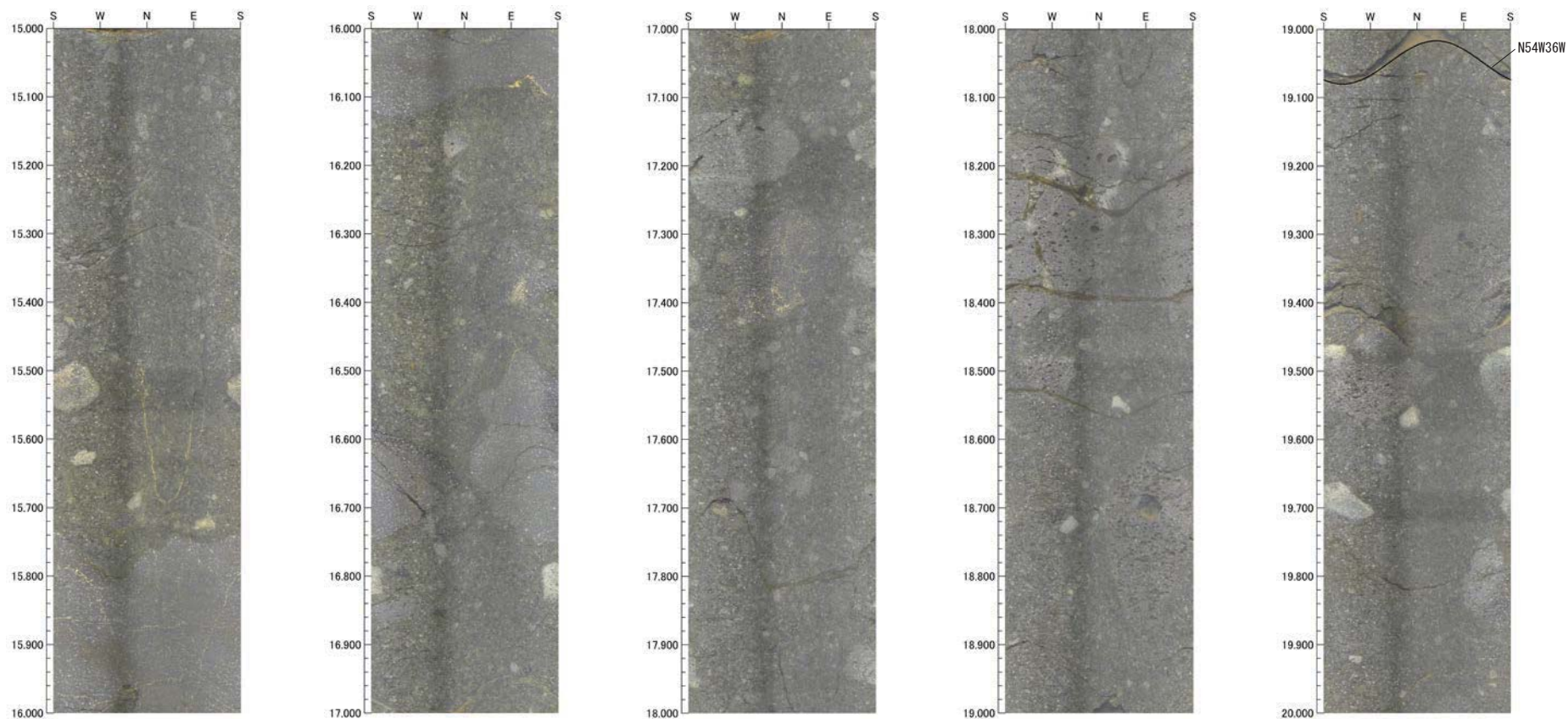


ボアホールテレビ画像 (深度10～15m)

凡 例

青字:層理面・葉理
黒字:割れ目

ボアホールテレビ画像 (4/18)

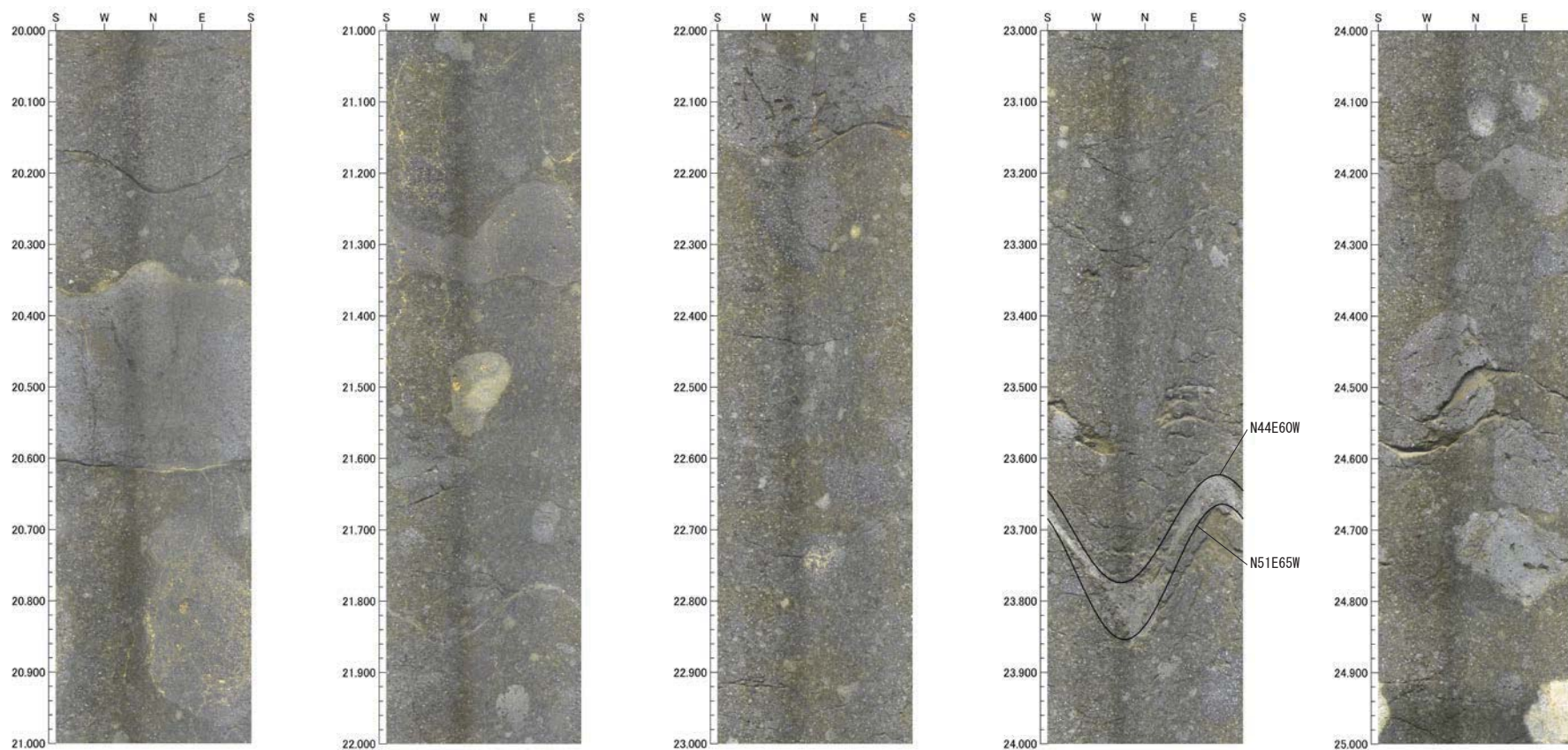


ボアホールテレビ画像 (深度15～20m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (5/18)

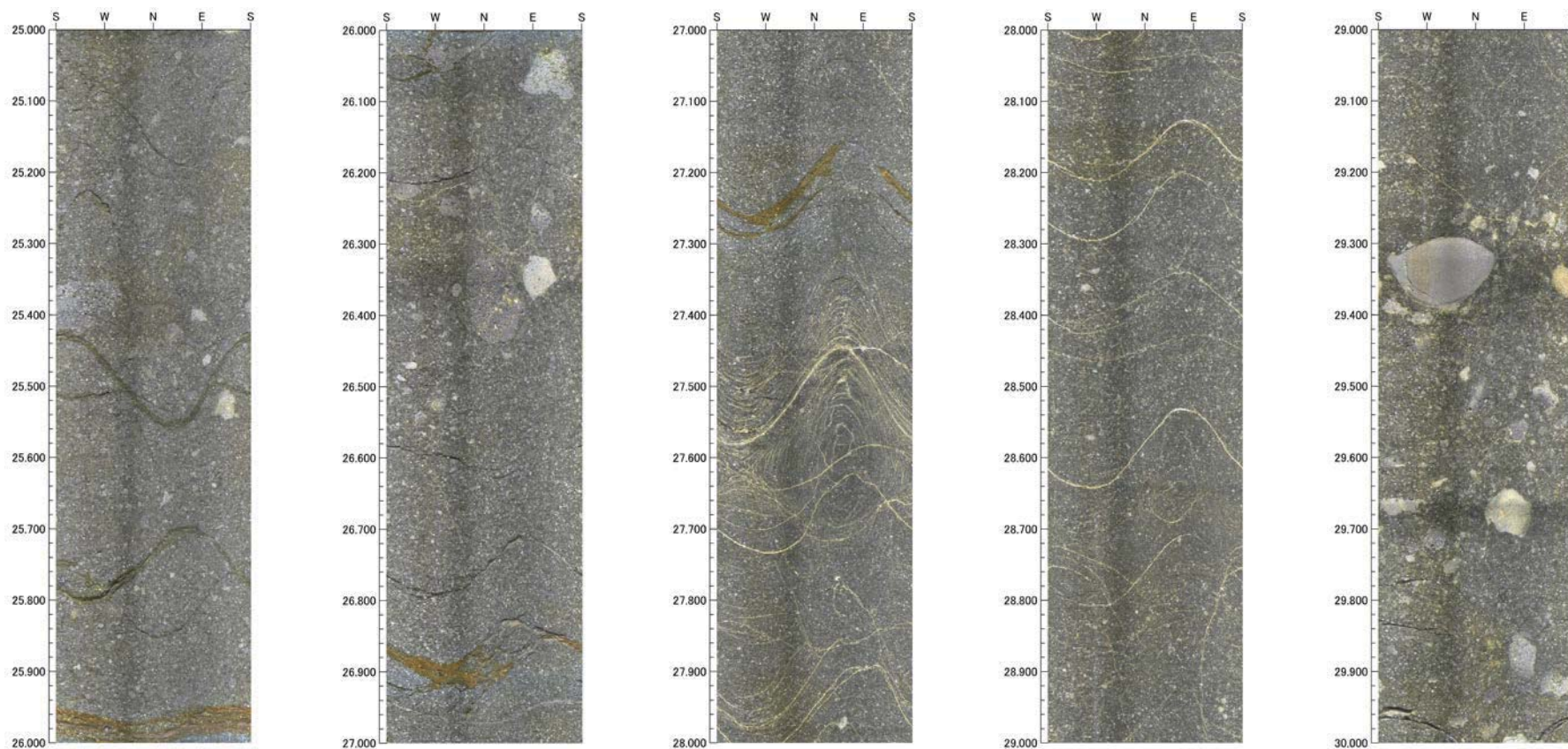


ボアホールテレビ画像 (深度20～25m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (6/18)

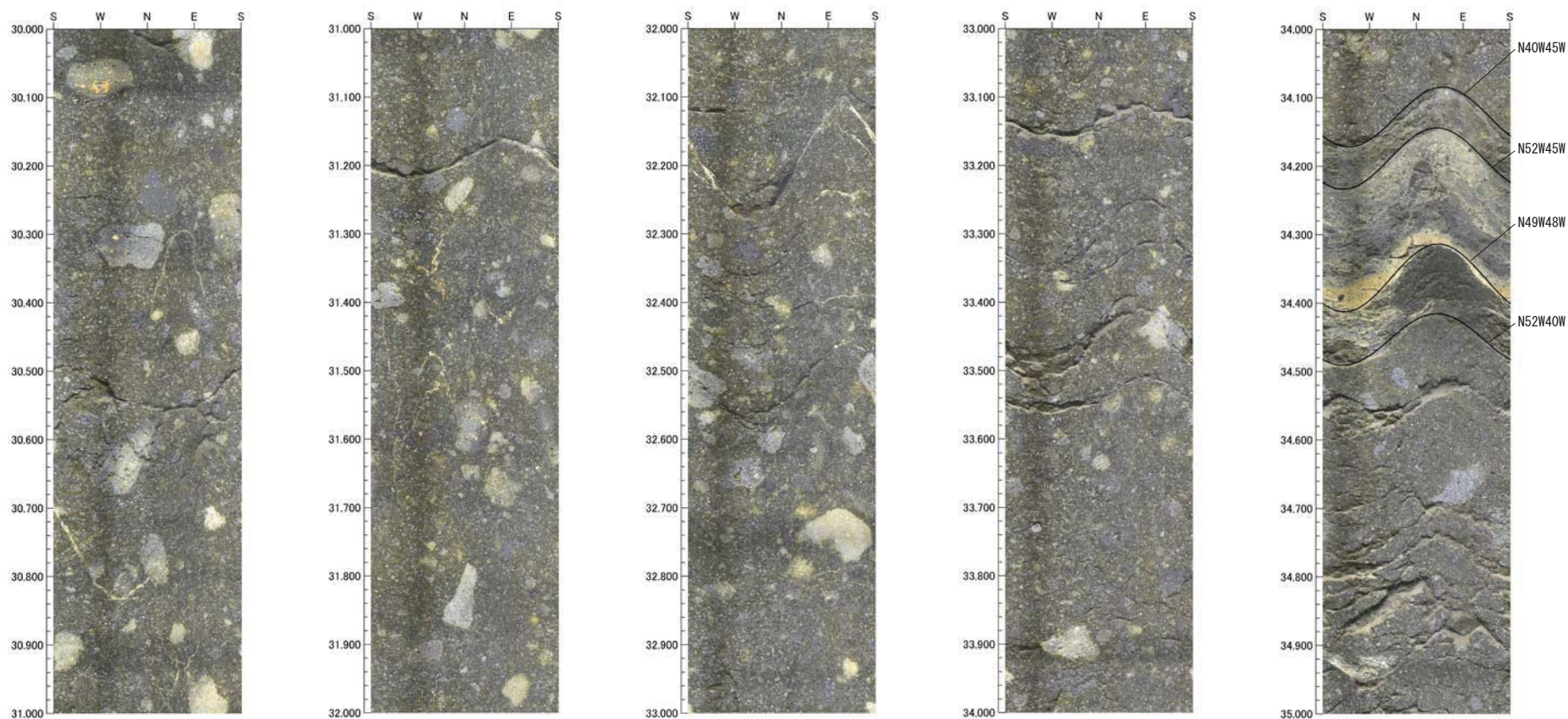


ボアホールテレビ画像 (深度25～30m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (7/18)

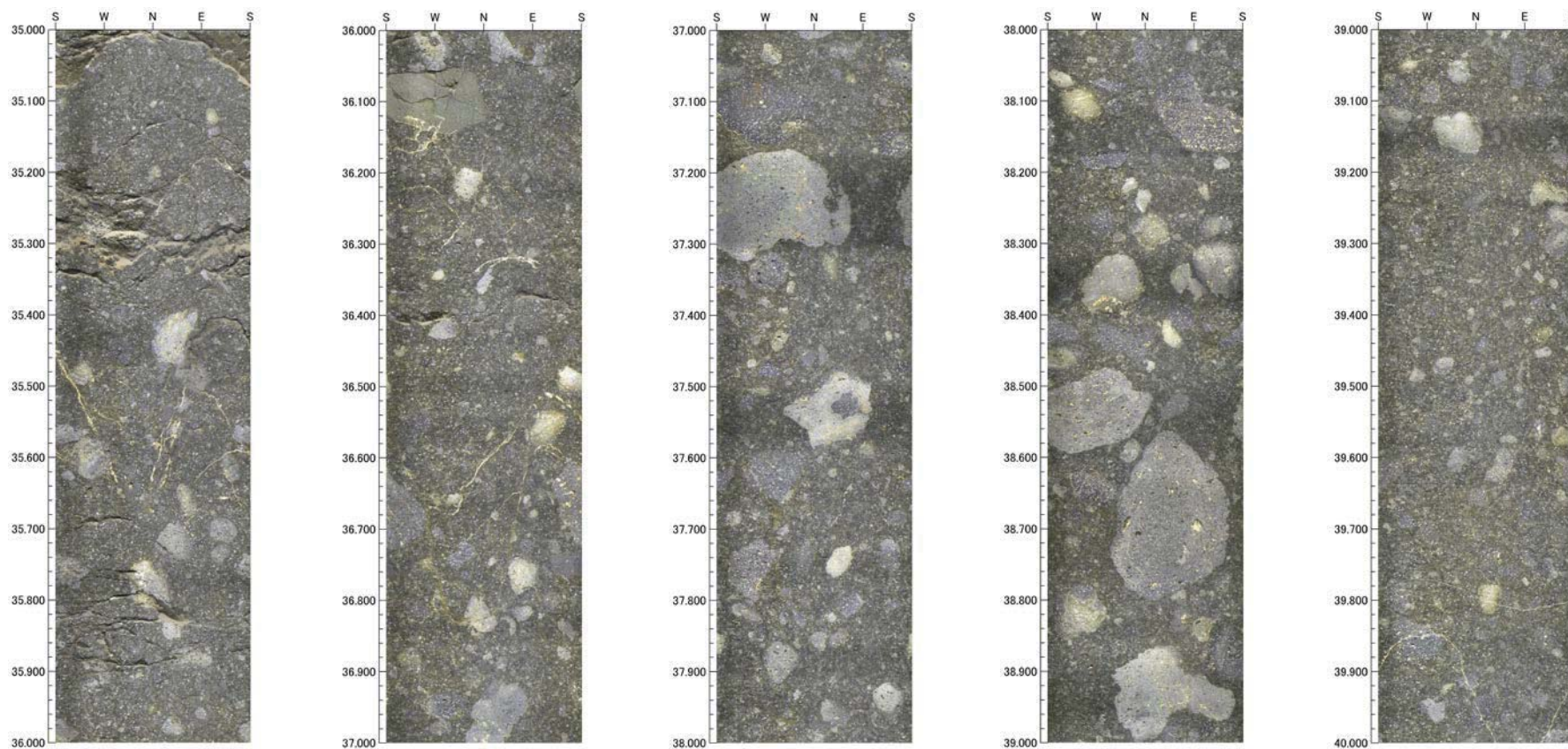


凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (深度30～35m)

ボアホールテレビ画像 (8/18)

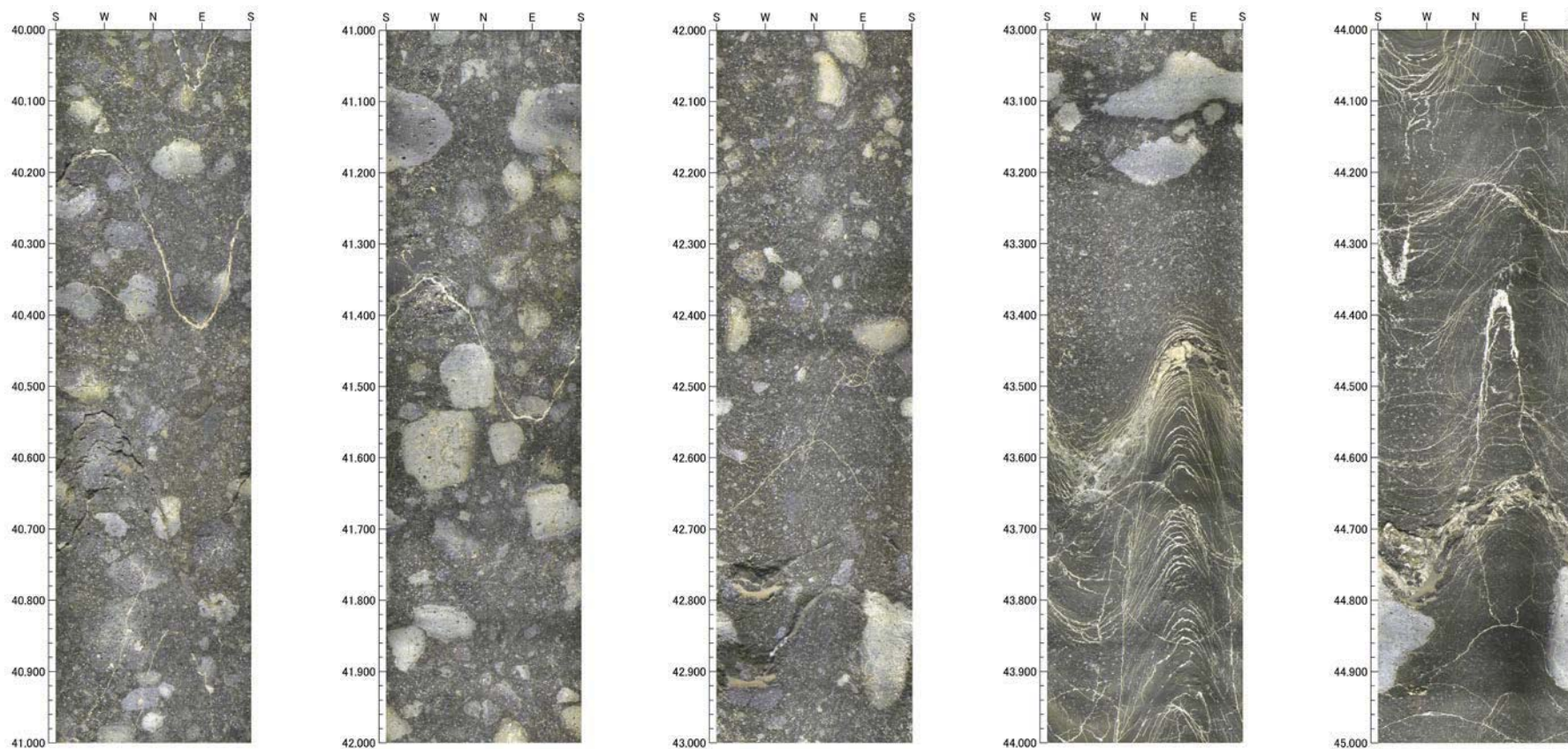


ボアホールテレビ画像 (深度35～40m)

凡 例

青字:層理面・葉理
黒字:割れ目

ボアホールテレビ画像 (9/18)

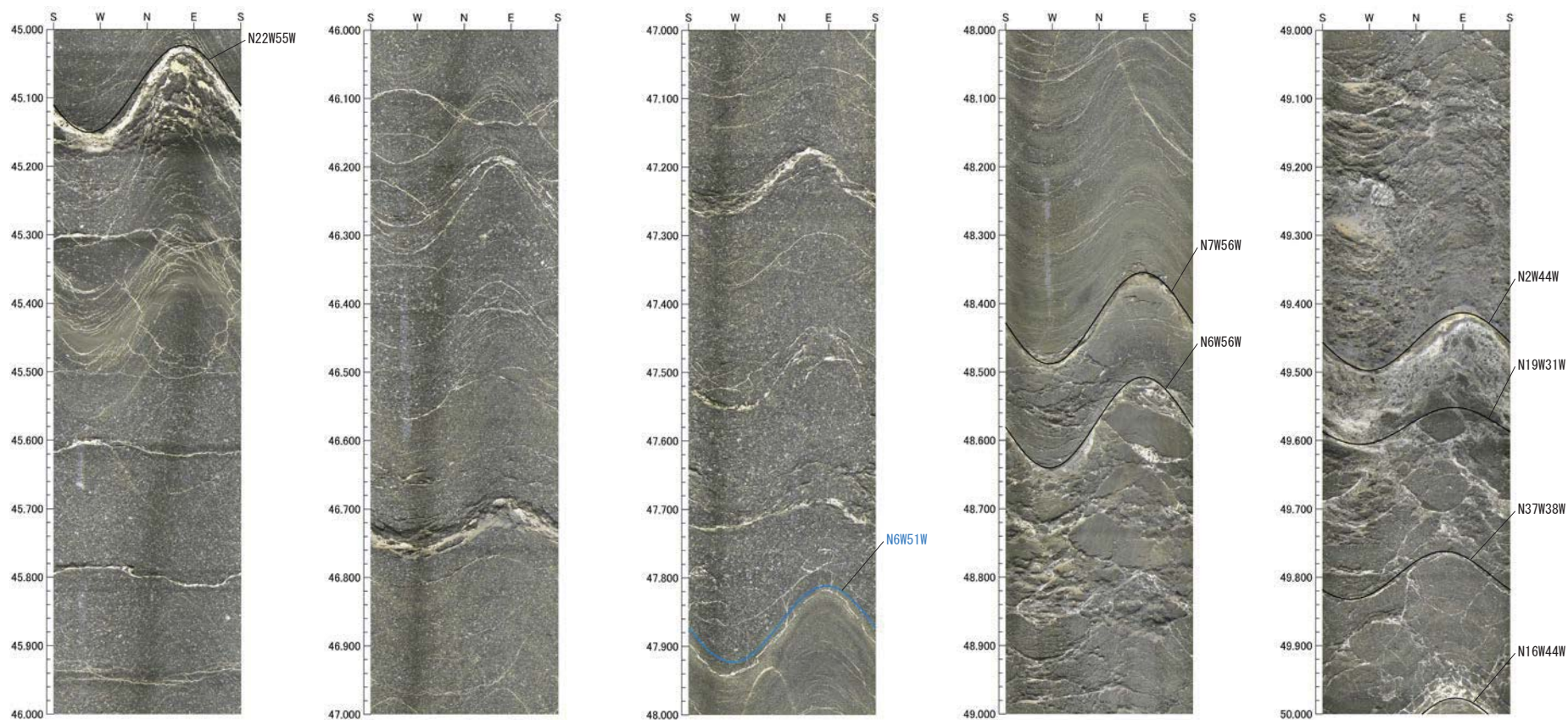


ボアホールテレビ画像 (深度40～45m)

凡 例

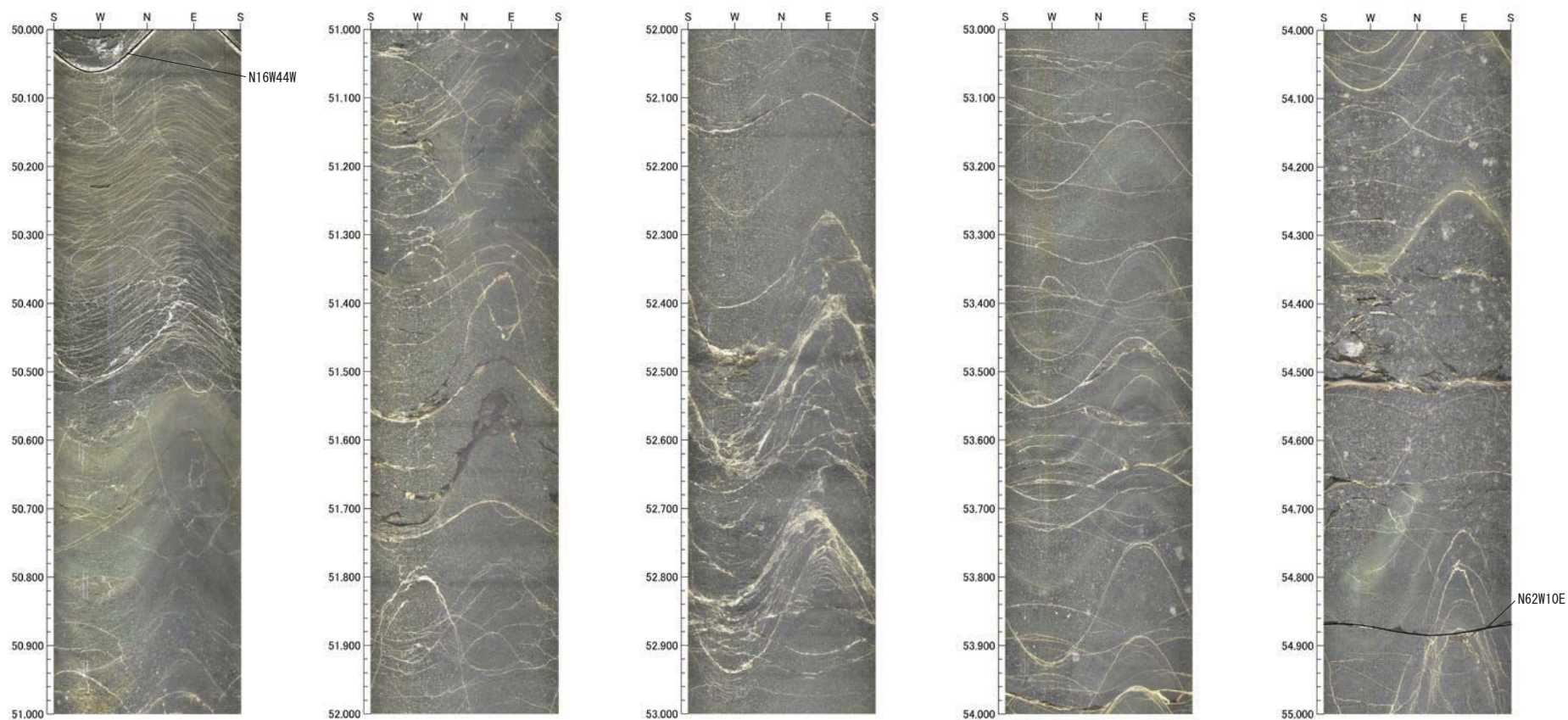
青字:層理面・葉理
黒字:割れ目

ボアホールテレビ画像 (10/18)



ボアホールテレビ画像 (深度45～50m)

ボアホールテレビ画像 (11/18)

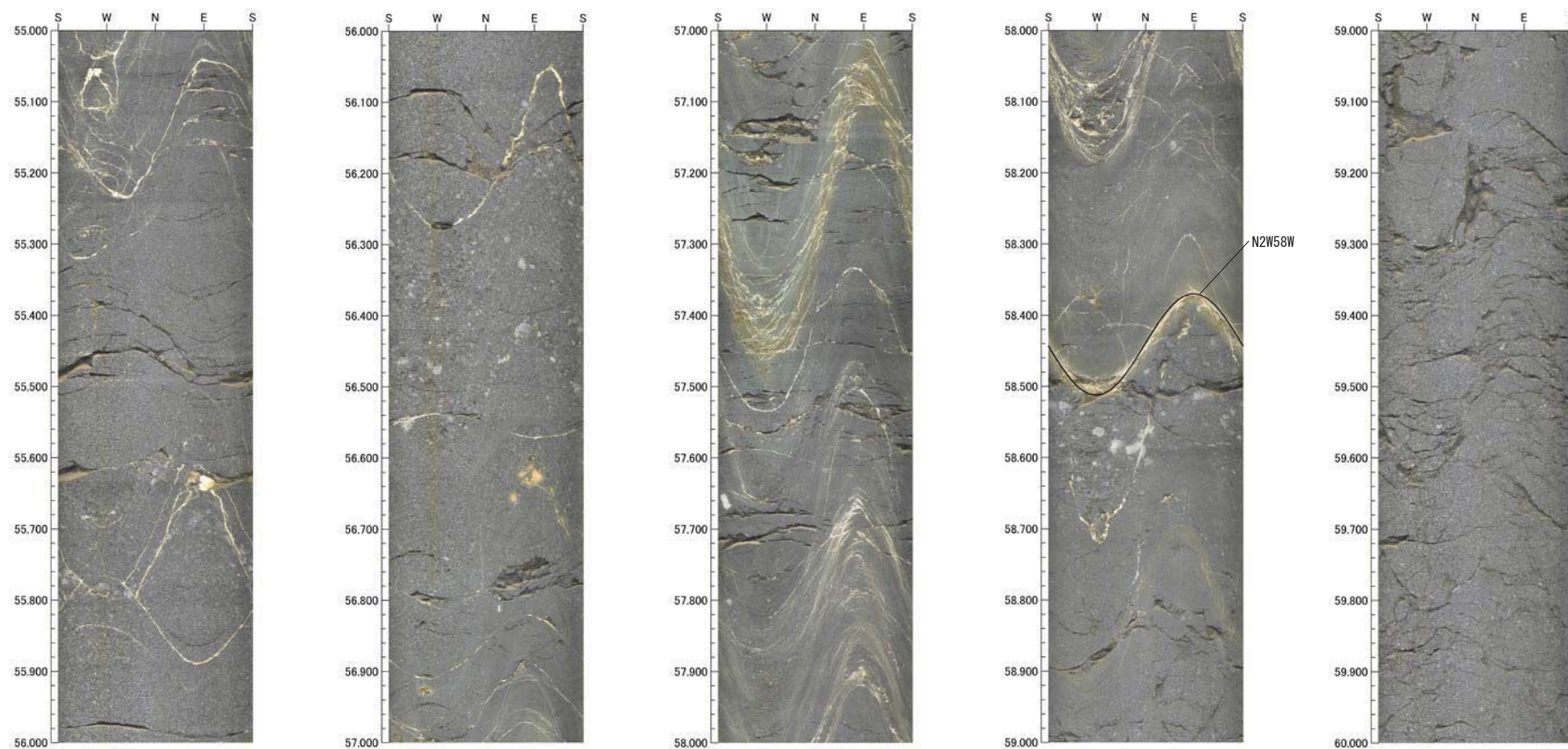


ボアホールテレビ画像 (深度50～55m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (12/18)

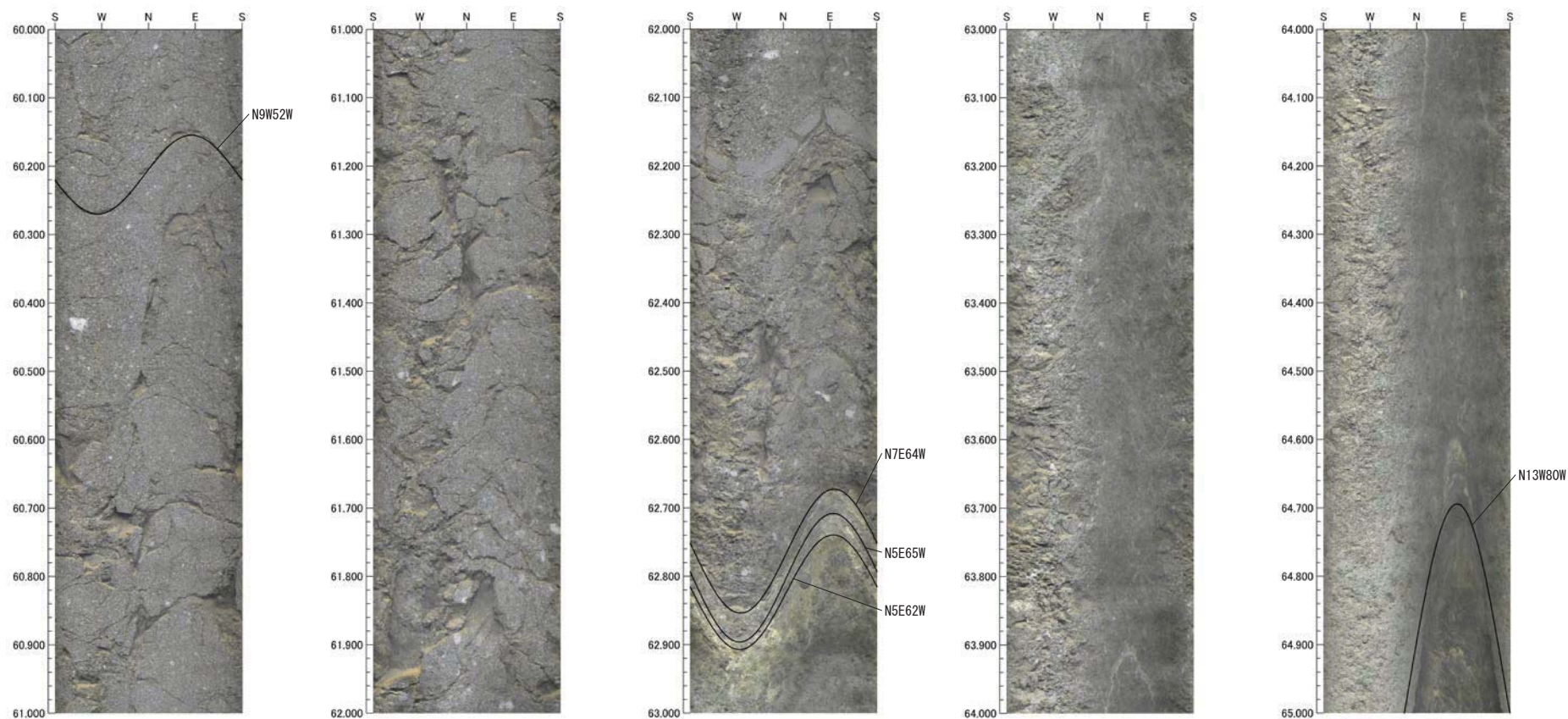


ボアホールテレビ画像 (深度55~60m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (13/18)

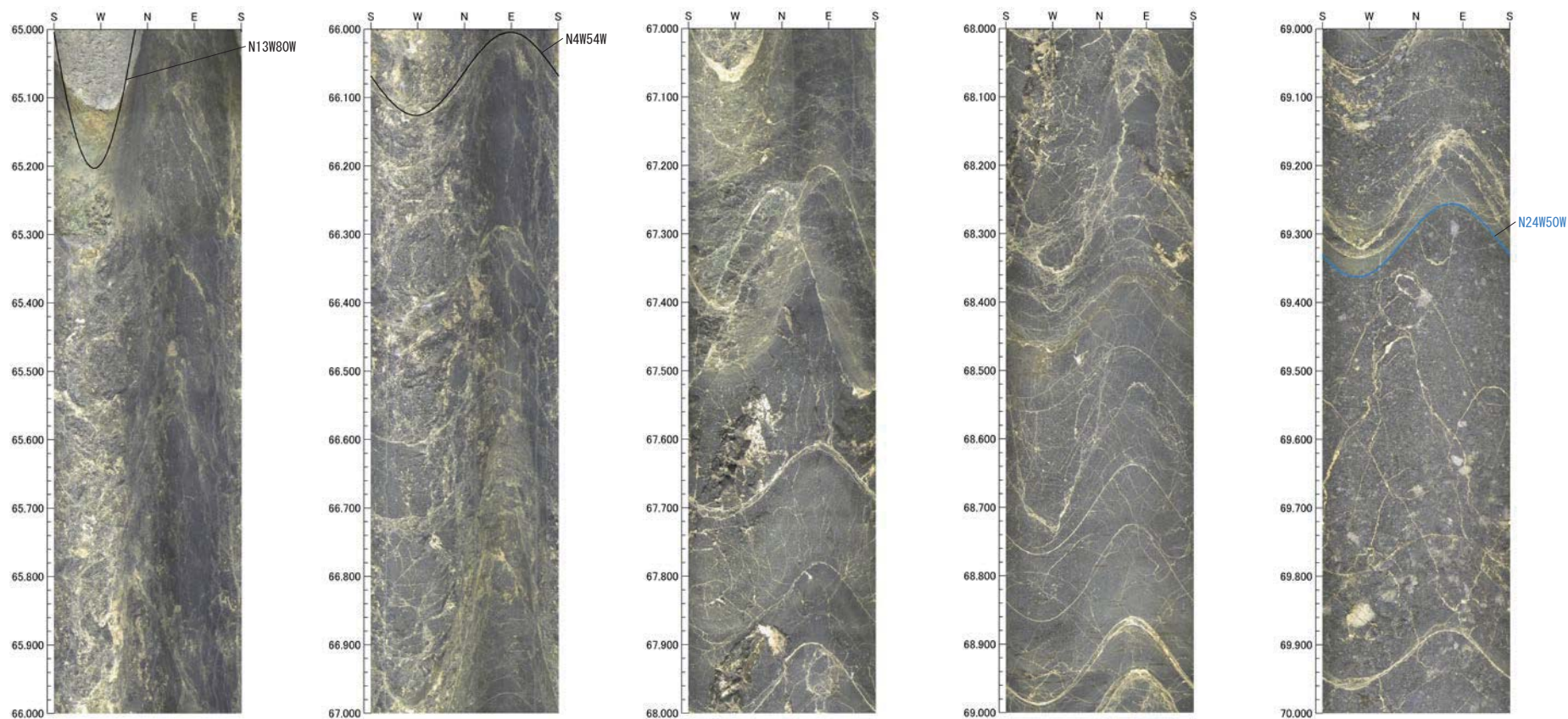


ボアホールテレビ画像 (深度60～65m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (14/18)

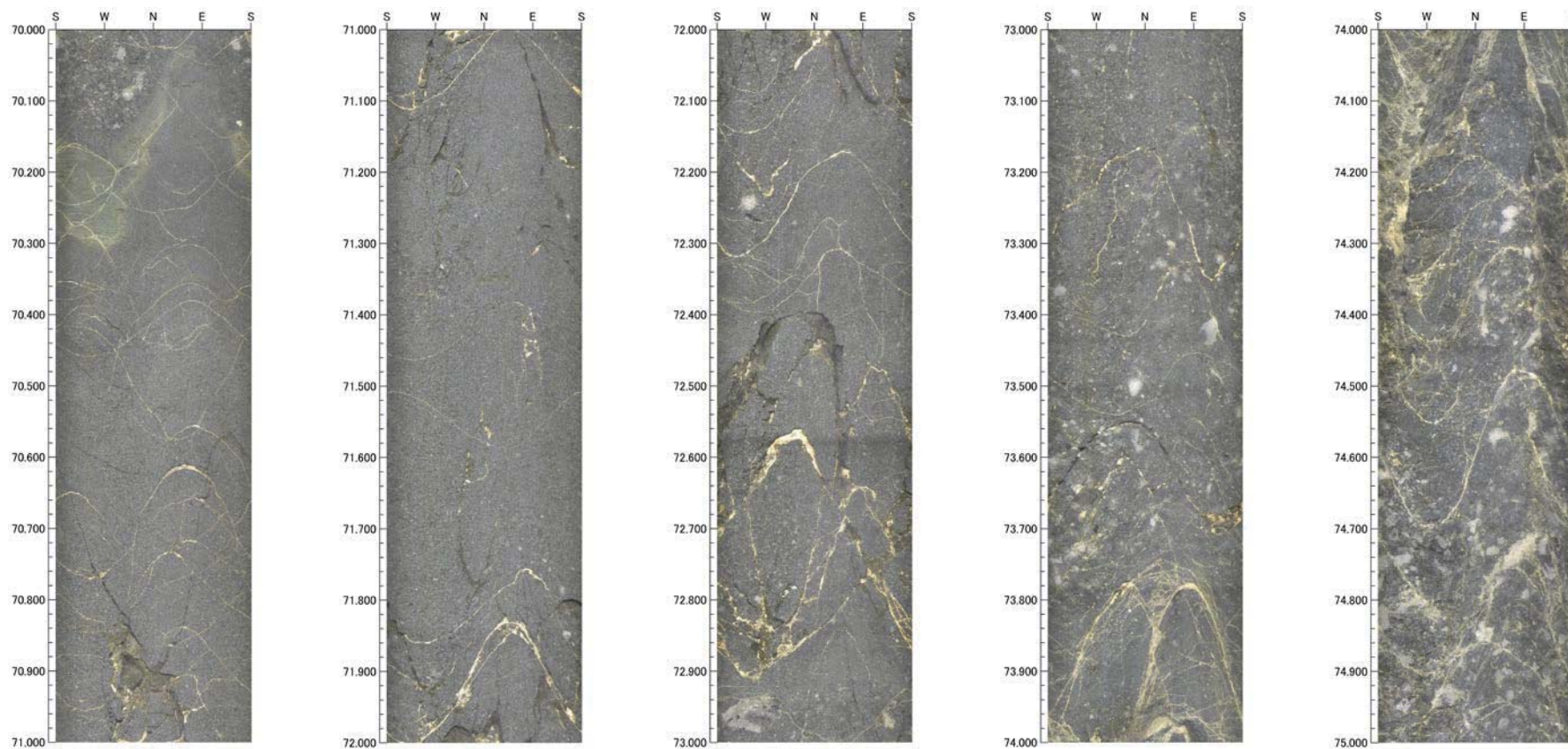


ボアホールテレビ画像 (深度65～70m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (15/18)

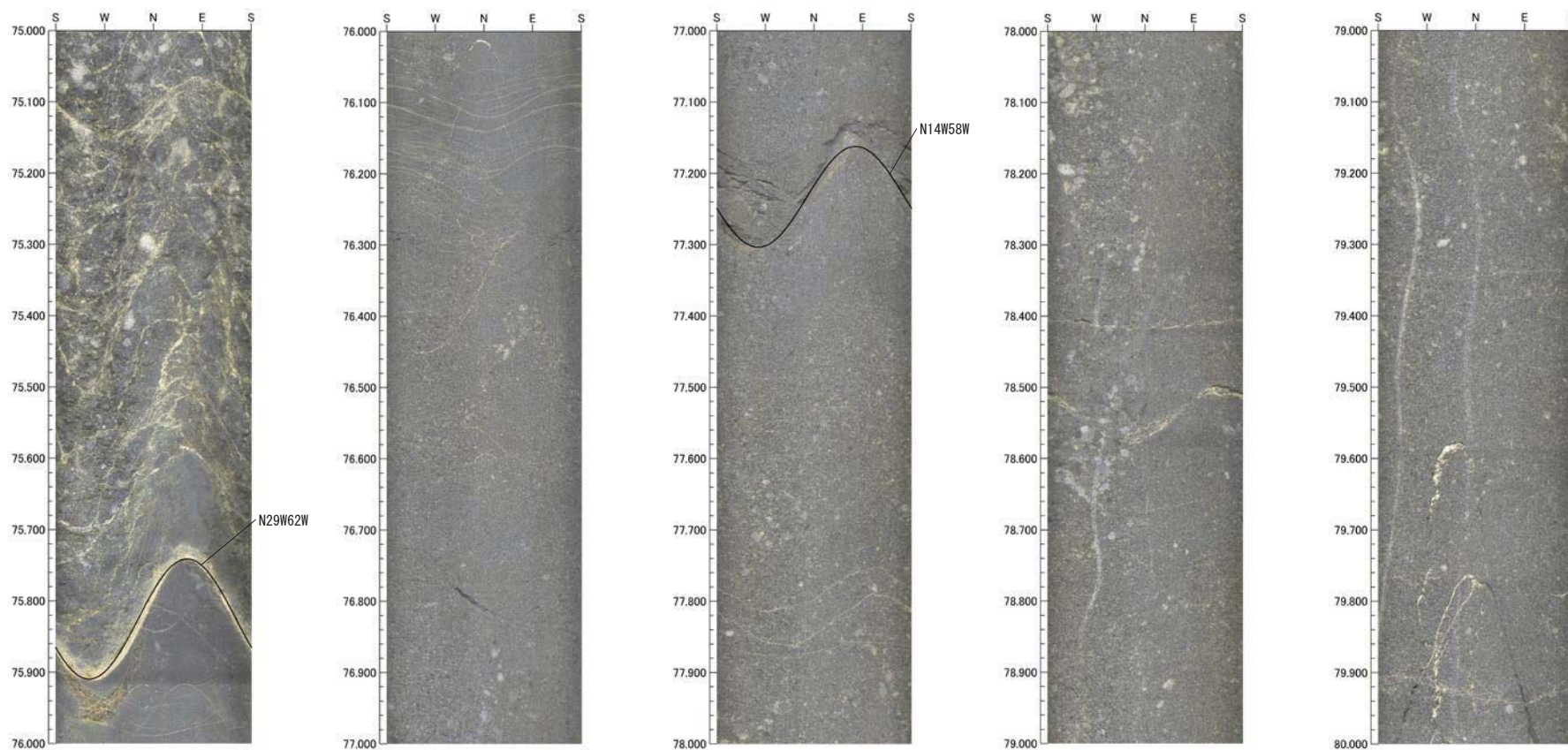


ボアホールテレビ画像 (深度70～75m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (16/18)

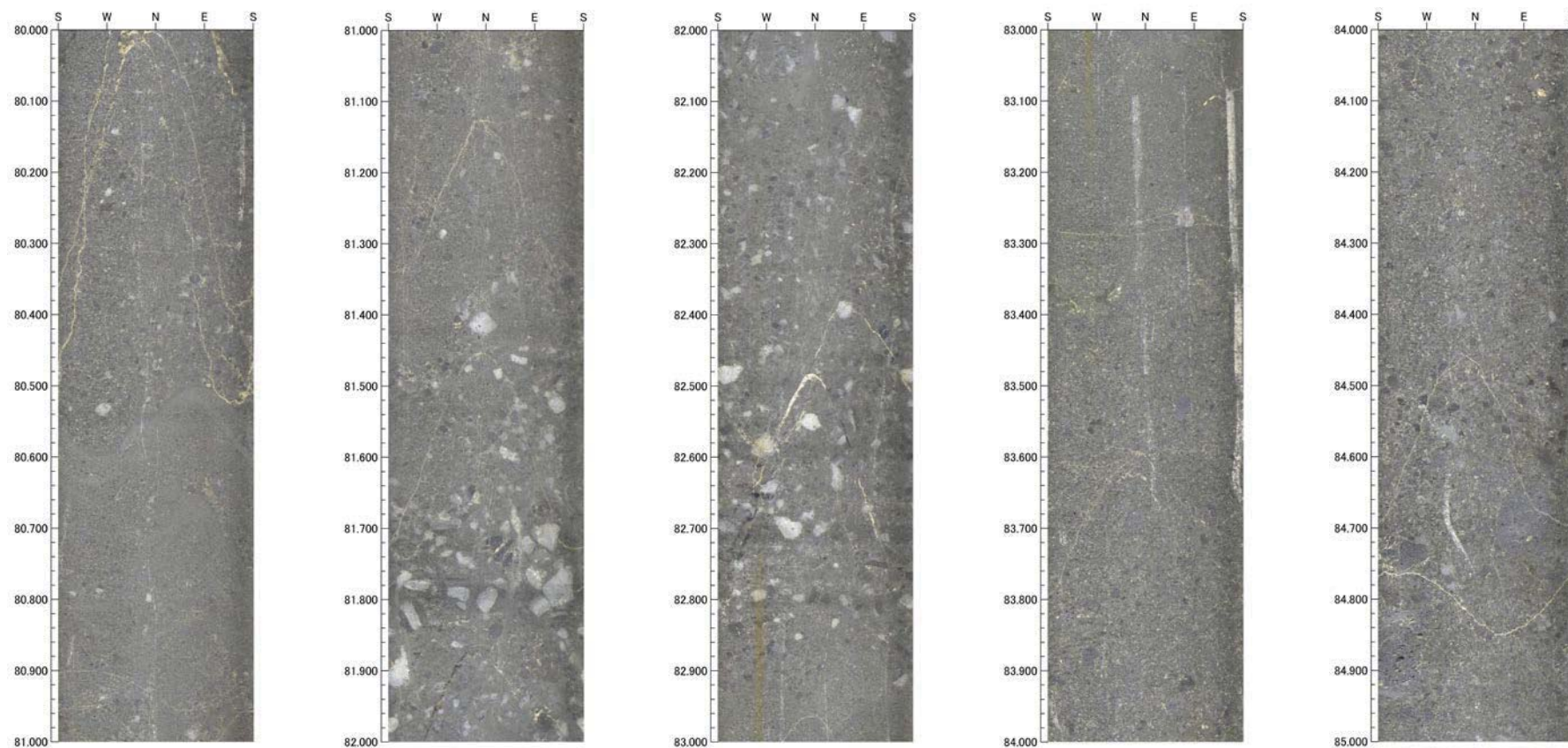


ボアホールテレビ画像 (深度75～80m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (17/18)

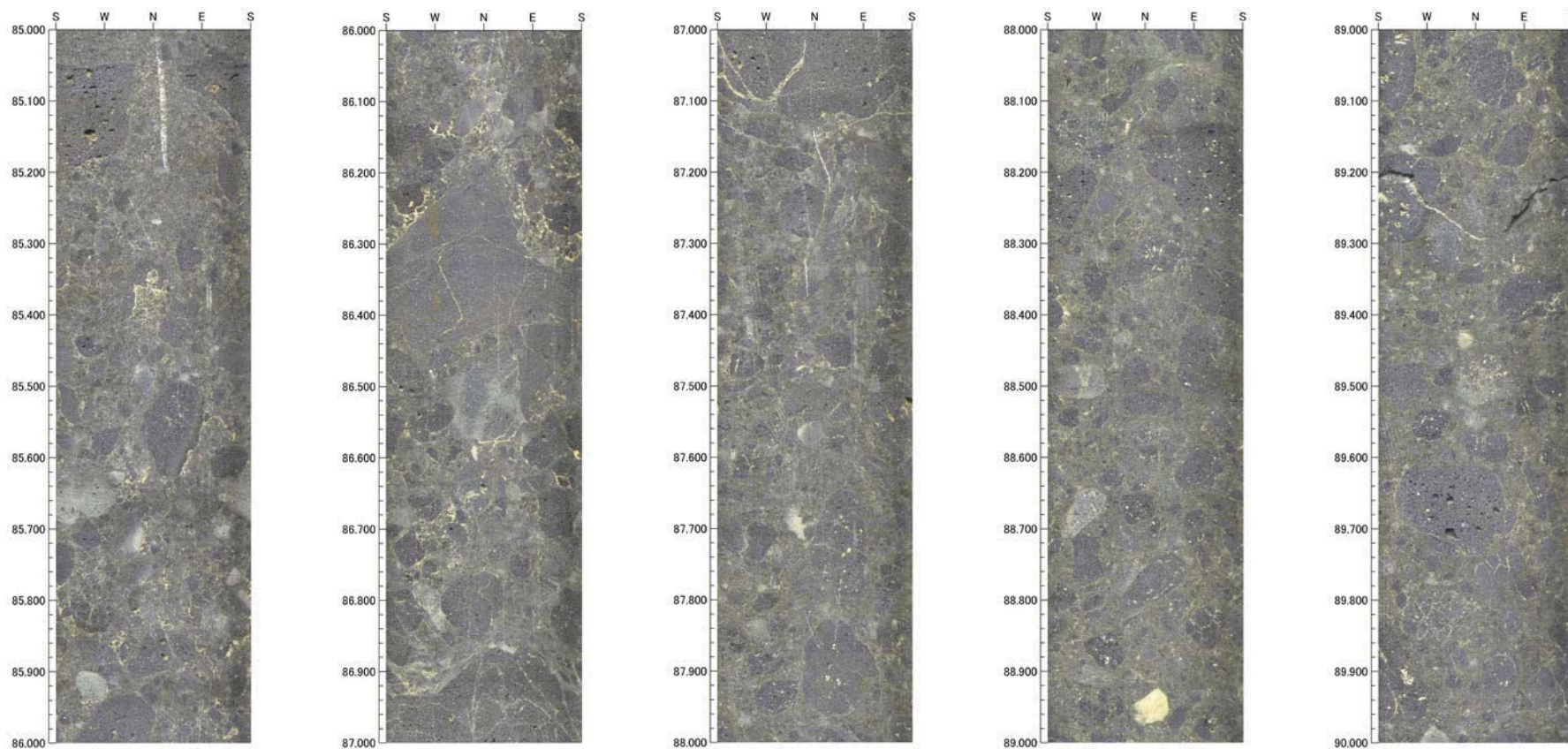


ボアホールテレビ画像 (深度80～85m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (18/18)



ボアホールテレビ画像 (深度85～90m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

R1敷地-5ボーリング

孔口標高:9.70m



コア写真 (R1敷地-5ボーリング:深度0~15m)



コア写真 (R1敷地-5ボーリング: 深度15~30m)



コア写真 (R1敷地-5ボーリング: 深度30~45m)



余白

柱状図 (1/4)

孔口標高:9.70m



コア写真 (R1敷地-5:深度0~15m)

R1敷地-5

孔口標高 9.70m 掘進長 50.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
1	8.87	0.83		礫	暗灰	礫径φ30mm以下(最大礫径φ60mm)の安山岩の角礫。
2						礫径φ100mm以下(最大礫径φ400mm)の角一歪角礫が70%程度混じる砂礫。 礫に基岩礫が混じる。 礫は安山岩が主体で、砂質凝灰岩・火山礫凝灰岩、礫にデイスイト・ 凝灰角礫岩・泥質凝灰岩が混じる。 基質は細砂のやや悪い中粒-粗粒砂で、シルトが混じる。
3						
4						
5						
6				シルト質 砂礫	褐 ~ 暗褐	
7						
8						
9						深度0.35-11.29m:改良土混じる。 深度0.35-8.67m:改良土。コンクリート様呈す。
10						深度9.62-9.65m:改良土。やや硬質。 深度9.96-10.34m:改良土。やや硬質。
11	-1.80	11.30				深度11.06-11.29m:改良土。やや硬質。
12	-2.54	12.24			暗褐灰	深度11.90-12.24m:シルトが比較的多く混じる。
13	-3.28	12.98		砂質凝灰岩	暗灰	細粒の砂質凝灰岩。礫径φ25mm以下の軽石が混じる。 やや軟質で、割れ目少ない。割れ目沿いに局部的に褐色を呈する。
14				含泥岩礫 凝灰岩	暗灰	礫径数10cm-1mの泥岩礫からなる含泥岩礫凝灰岩。 やや軟質で、割れ目少ない。 深度12.96-13.99m:割れ目沿いに弱く褐色を呈する。 深度13.99-16.10m:岩芯まで新鮮。
15						深度14.52m:∠60°、泥岩礫中の割れ目に条線あり。 粘土は挟まれない。

埋戻土

柱状図 (R1敷地-5:深度0~15m)

柱状図 (2/4)

孔口標高:9.70m



コア写真 (R1敷地-5:深度15~30m)

R1敷地-5

孔口標高 9.70m 掘進長 50.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
16	-5.71	15.41		砂質凝灰岩	暗灰	細粒の砂質凝灰岩。礫径φ100mm以下の泥岩礫が稀に混じる。 やや軟質で、割れ目少ない。 深度15.41~16.10m:やや粗粒で、礫径φ10mm以下の軽石が多く混じる。 深度16.30~16.90m:割れ目やや多い。
17	-7.39	17.09		含泥岩礫凝灰岩	暗灰	礫径φ300mm以下の泥岩礫からなる含泥岩礫凝灰岩。 やや軟質で、割れ目少ない。 深度17.94m:∠30°、泥岩礫中の割れ目に条線あり。粘土は挟まない。
18	-8.74	18.44		砂質凝灰岩	暗灰	細粒の砂質凝灰岩。礫径φ5mm以下の軽石が混じる。
19	-9.30	19.00		含泥岩礫凝灰岩	暗灰	礫径φ600mm以下の泥岩礫からなる含泥岩礫凝灰岩。 やや軟質で、割れ目少ない。割れ目沿いに弱く褐色を呈する。 深度19.80~20.00m:割れ目が網状に分布。 深度20.85m:∠55°、泥岩礫中の割れ目に条線あり。粘土は挟まない。 深度21.02m:∠30°、泥岩礫中の割れ目に条線あり。粘土は挟まない。
20	-11.47	21.17		砂質凝灰岩	暗灰	細粒-粗粒の砂質凝灰岩。 割れ目少ない。 深度21.17~22.29m:やや軟質。まれに泥岩礫が混じる。 深度22.29~24.51m:やや硬質。上方細粒化を呈し、礫径φ5mm以下の軽石が少量混じる。
21	-14.81	24.51		含泥岩礫凝灰岩	暗灰	泥岩礫からなる含泥岩礫凝灰岩。 やや軟質で、割れ目やや多い。
22	-15.42	25.12		火山礫凝灰岩	暗灰	礫径φ10mm以下の火山礫、軽石を伴う火山礫凝灰岩。 やや硬質で、割れ目少ない。
23	-16.03	25.73		含泥岩礫凝灰岩	暗灰	礫径φ数10cm-数mの泥岩礫からなる含泥岩礫凝灰岩。 岩芯は新鮮。やや軟質で、割れ目少ない。 深度25.73~30.64m:礫径φ4910mmの泥岩礫。
24				含泥岩礫凝灰岩	暗灰	深度27.45~27.48m:∠30°程度。泥岩礫中の割れ目沿いに角礫状を呈し、岩片に条線あり。粘土は挟まない。
25						
26						
27						
28						
29						
30						

柱状図 (R1敷地-5:深度15~30m)

柱状図 (3/4)

孔口標高:9.70m



コア写真 (R1敷地-5:深度30~45m)

R1敷地-5

孔口標高 9.70m 掘進長 50.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
31				含泥岩礫 凝灰岩	暗灰	深度30.85-31.85m:礫径φ1000mmの泥岩礫。
32						深度31.45m:∠45°、泥岩礫中の割れ目に弱い条線あり。 粘土は挟在しない。
33						深度31.93-33.33m:礫径φ2400mmの泥岩礫。
	-23.68	33.38		砂質凝灰岩	暗灰	砂質凝灰岩。礫径φ20mm以下の軽石が少量混じる。
34						深度33.38m:∠60°、泥岩礫境界の割れ目に条線あり。t=1-2mmで灰色を呈する固結した粘土が挟在。
	-24.60	34.30		含泥岩礫 凝灰岩	暗灰	泥岩礫からなる含泥岩礫凝灰岩。
35						やや軟質で、割れ目少ない。
	-25.35	35.05		砂質凝灰岩	暗灰	中細-細粒の砂質凝灰岩。礫径φ10mm以下の安山岩礫・軽石が少量混じる。
36						やや軟質で、割れ目少ない。
	-26.62	35.32				
37						礫径φ数10cm-数mの泥岩礫からなる含泥岩礫凝灰岩。
38						やや硬質で、割れ目少ない。
39						深度36.69-36.74m:∠40°程度、泥岩中の上面の割れ目で、t=50mm程度で角礫状を呈する。角礫に条線あり。粘土は挟在しない。
40						深度37.04m:∠50°、t=10-30mmで灰色を呈する固結した粘土が挟在。割れ目に条線あり。
41						深度37.04-37.19m:割れ目が網状に分布し、固結。
42						深度37.19m:∠50°、t=3mm程度で灰色を呈する固結した粘土が挟在。
43						
44						
45						

柱状図 (R1敷地-5:深度30~45m)

柱状図 (4/4)

孔口標高:9.70m



コア写真 (R1敷地-5:深度45～50m)

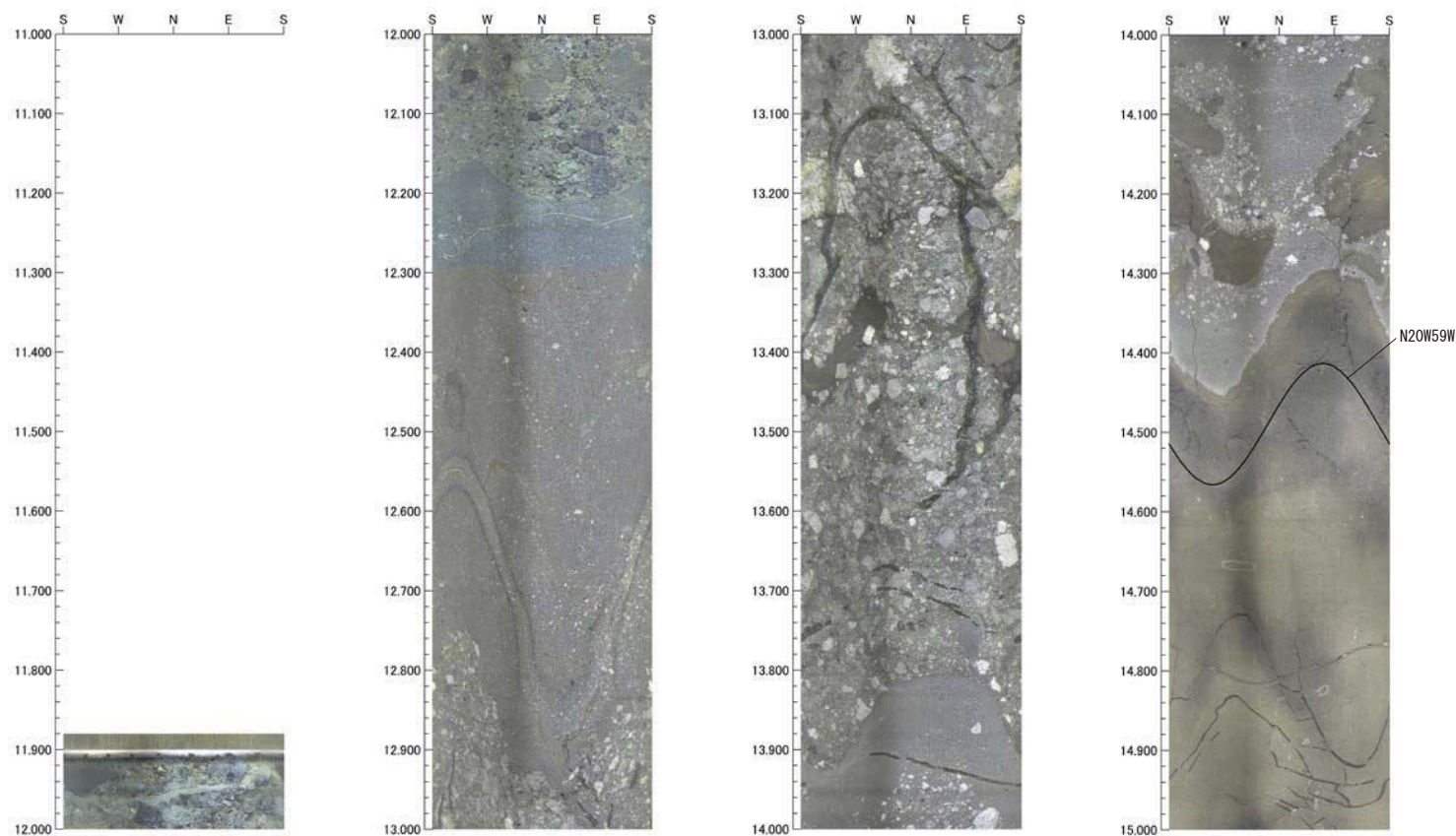
R1敷地-5

孔口標高 9.70m 掘進長 50.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図 名	地 質 調	色	記 事
46	-36.07	45.77	含泥岩凝灰岩	凝灰		
47	-37.92	47.62	火山礫凝灰岩	凝灰		礫径φ15mm以下の安山岩礫・デイサイト礫を伴う火山礫凝灰岩。やや硬質で、割れ目少ない。上方細粒化を呈する。
48	-39.32	49.02	砂質凝灰岩	凝灰		細粒～中粒の砂質凝灰岩。やや硬質で、割れ目少ない。
49	-40.30	50.00	含泥岩凝灰岩	凝灰		礫径φ150mm以下の泥岩礫からなる含泥岩凝灰岩。やや硬質で、割れ目少ない。

柱状図 (R1敷地-5:深度45～50m)

ボアホールテレビ画像 (1/8)

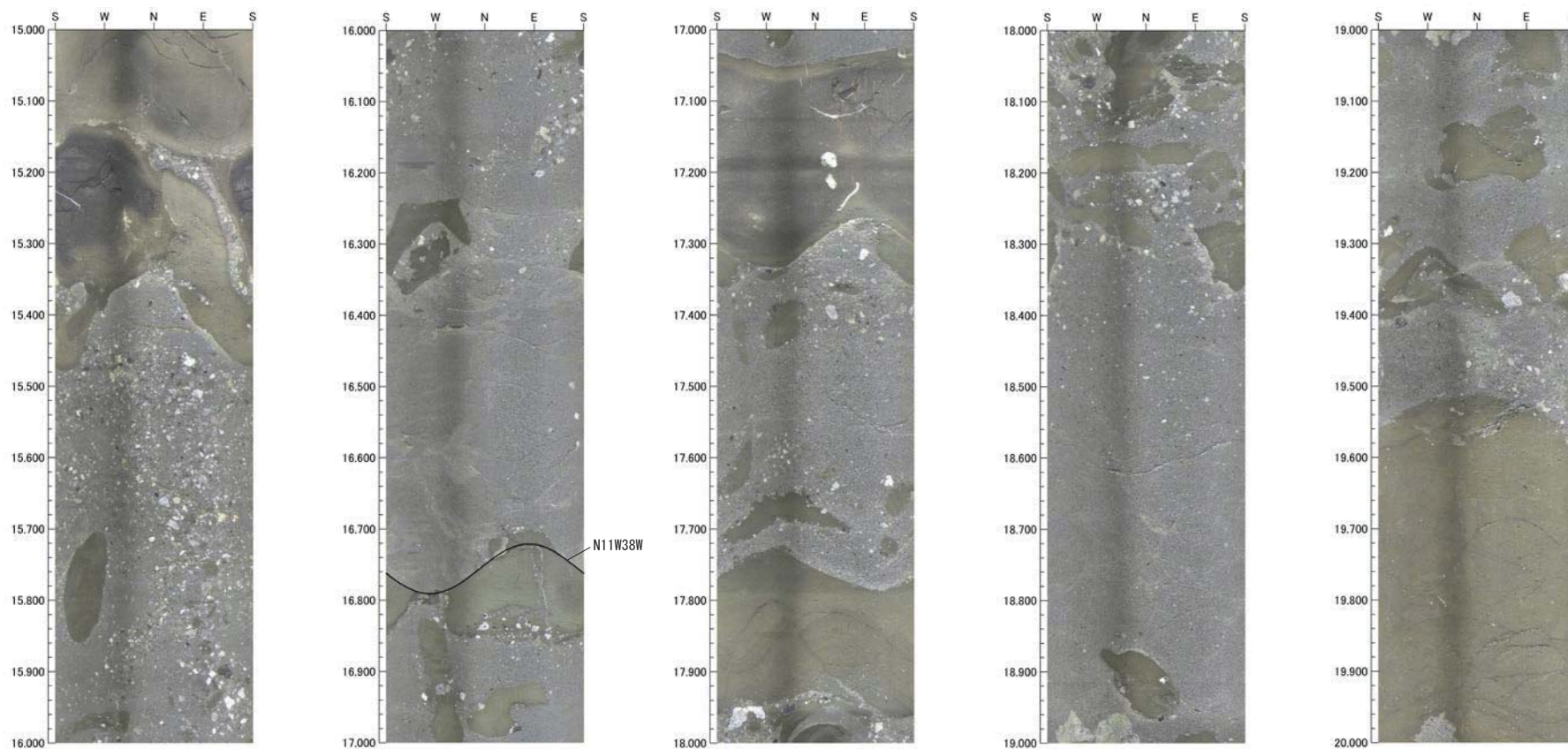


ボアホールテレビ画像 (深度11.91~15m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (2/8)

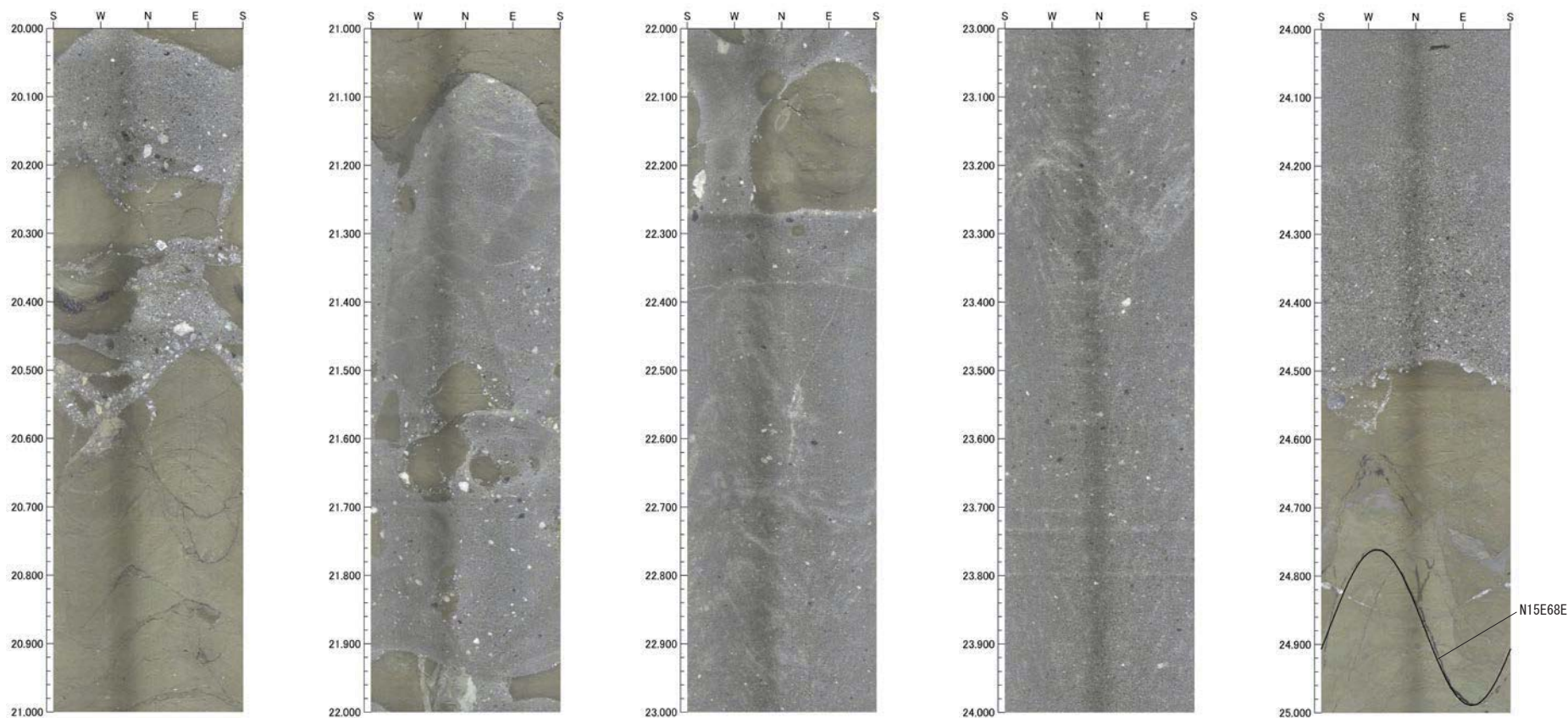


ボアホールテレビ画像 (深度15～20m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (3/8)

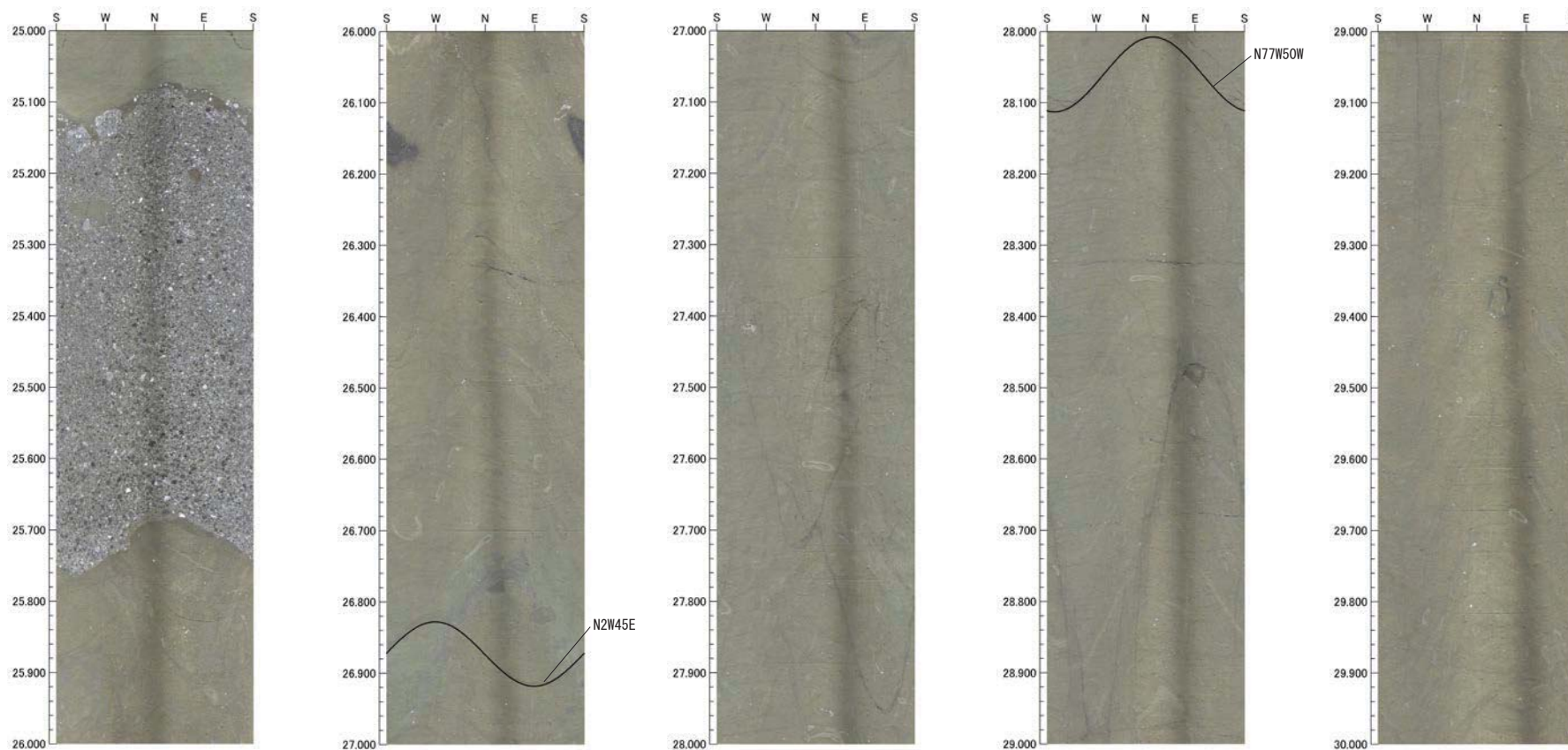


ボアホールテレビ画像 (深度20～25m)

凡 例

青字:層理面・葉理
黒字:割れ目

ボアホールテレビ画像 (4/8)

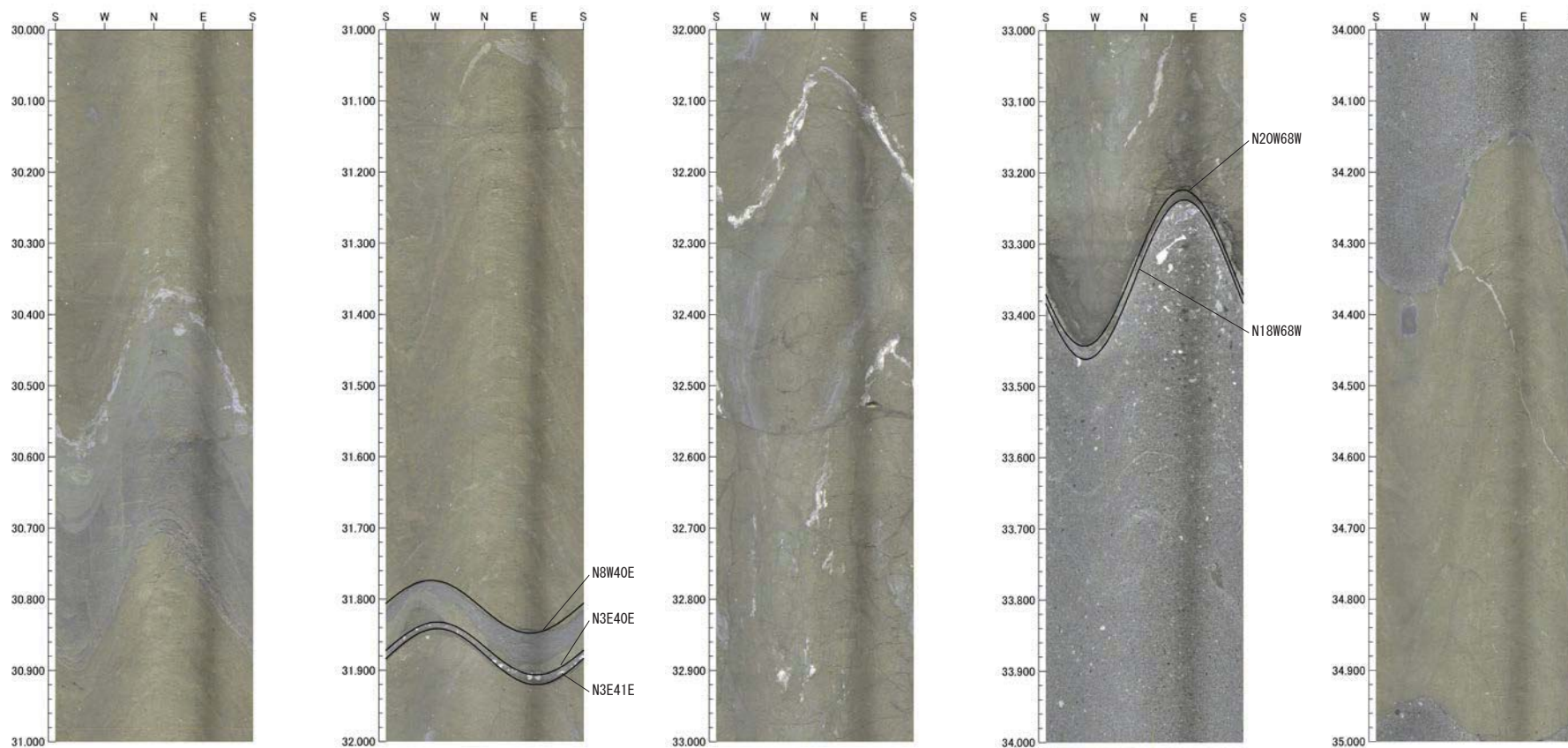


ボアホールテレビ画像 (深度25～30m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (5/8)

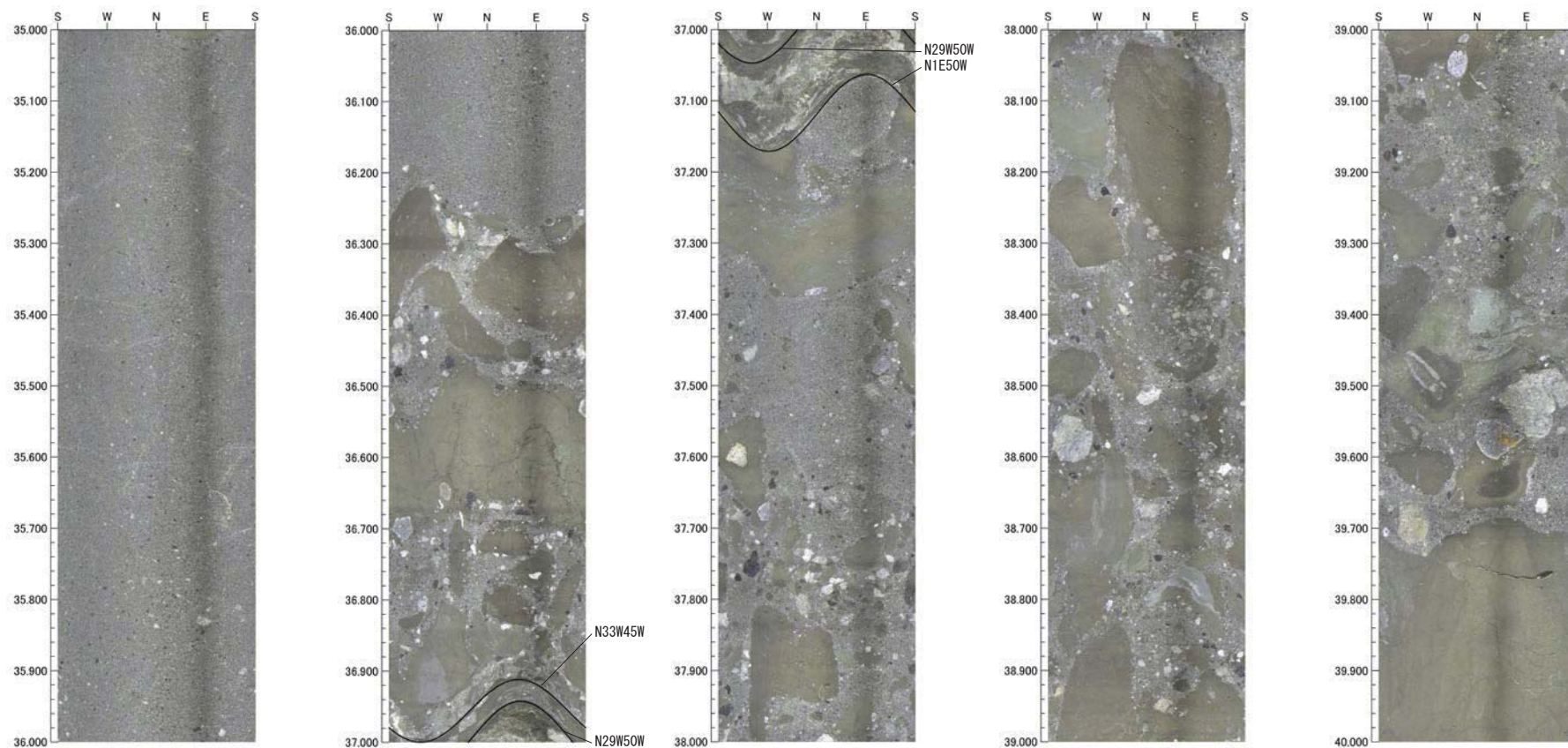


ボアホールテレビ画像 (深度30～35m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (6/8)

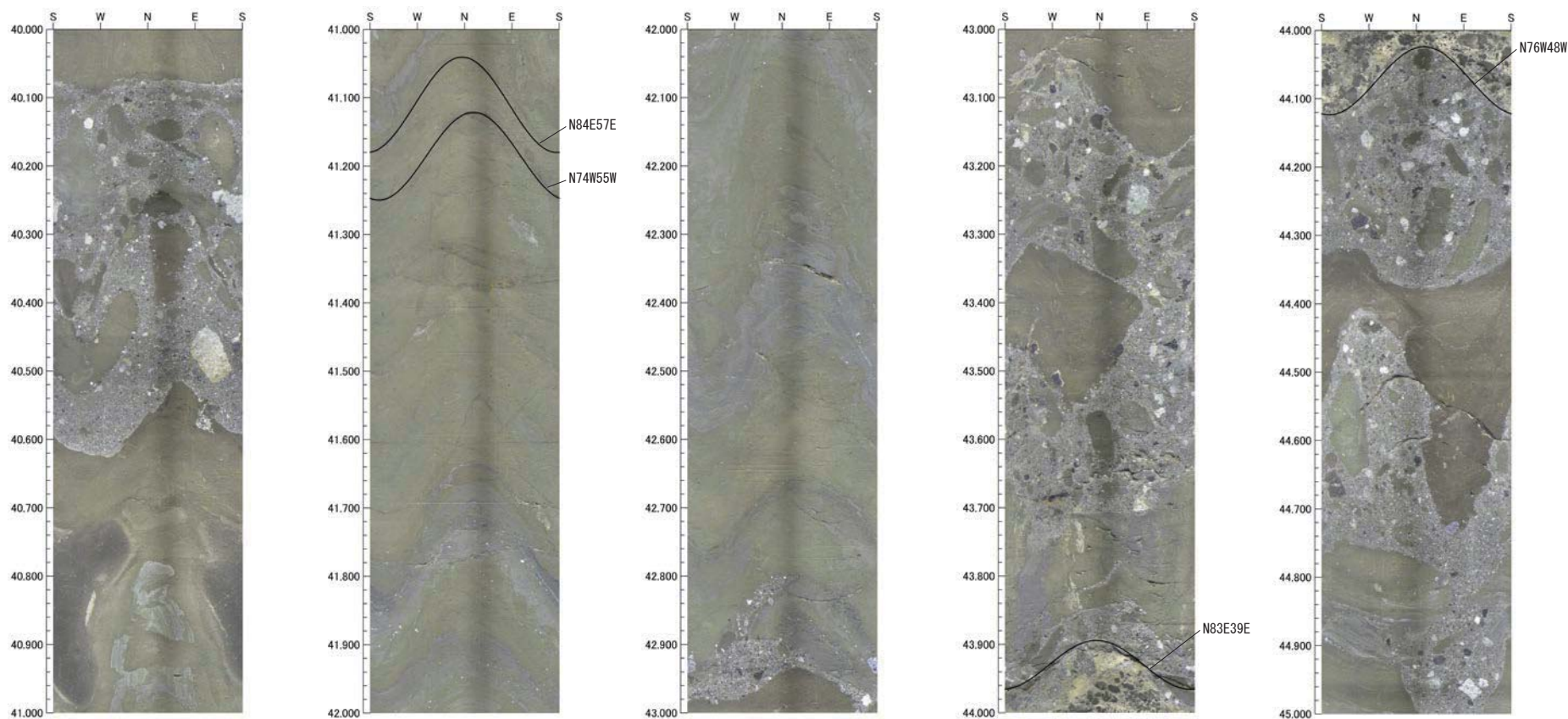


ボアホールテレビ画像 (深度35～40m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (7/8)

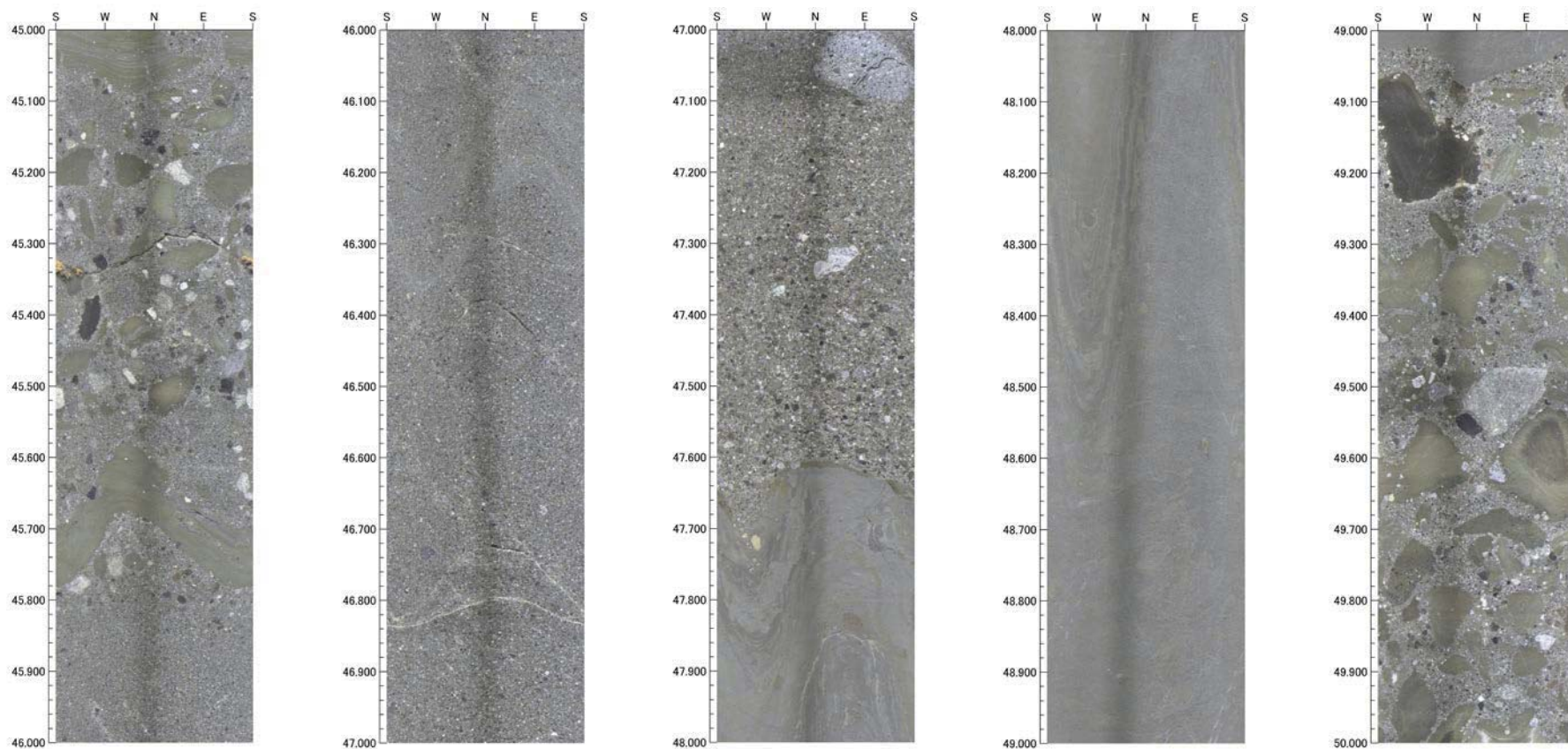


ボアホールテレビ画像 (深度40～45m)

凡 例

青字: 層理面・葉理
黒字: 割れ目

ボアホールテレビ画像 (8/8)



ボアホールテレビ画像 (深度45～50m)

凡 例

青字:層理面・葉理
黒字:割れ目

R1 敷地-6ボーリング

孔口標高: 10.20m



コア写真 (R1敷地-6ボーリング: 深度0~15m)



コア写真 (R1敷地-6ボーリング:深度15~30m)



コア写真 (R1敷地-6ボーリング:深度30~45m)



コア写真 (R1敷地-6ボーリング: 深度45~60m)



コア写真 (R1敷地-6ボーリング:深度60~75m)



コア写真 (R1敷地-6ボーリング: 深度75~90m)



コア写真 (R1敷地-6ボーリング:深度90~105m)



コア写真 (R1敷地-6ボーリング:深度105~120m)



※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟み若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-6ボーリング: 深度120~135m) : 劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部)



コア写真 (R1敷地-6ボーリング:深度135~150m)



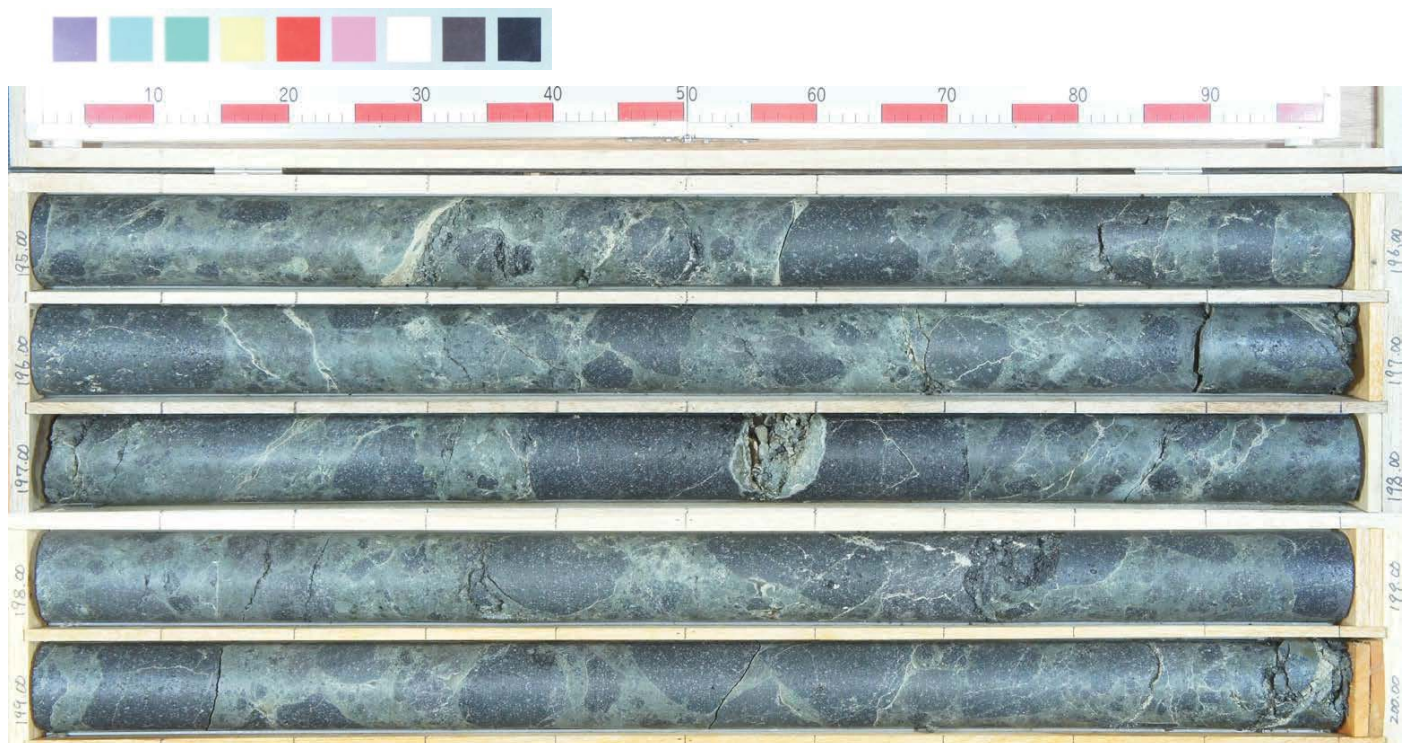
コア写真 (R1敷地-6ボーリング:深度150～165m)



コア写真 (R1敷地-6ボーリング: 深度165~180m)



コア写真 (R1敷地-6ボーリング: 深度180~195m)



コア写真 (R1敷地-6ボーリング: 深度195~200m)

余白

柱状図 (1/14)

孔口標高:10.20m



コア写真 (R1敷地-6:深度0~15m)

R1敷地-6

孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

標 尺	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
1	10.05	0.15		腐植土	暗褐	シルト質砂主体の腐植土。 礫径φ80mm以下(最大礫径φ300mm)の角-亜角礫が60-80%混じる。垂内 礫が稀に混じる。礫種は安山岩・霞石安山岩・デイサイト・火山礫凝灰 岩・泥質凝灰岩・砂質凝灰岩。基質は細粒-粗粒砂からなり、シルトが局 所的に少量混じる。
2				砂礫	褐灰 ~ 灰褐	
3						
4						
5						
6	3.89	6.51				
7	2.60	7.60		暗褐灰		礫径φ180mm以下の安山岩礫からなる凝灰角礫岩。 深度6.51~7.60m:岩芯まで弱く褐色を呈してやや軟質。割れ目やや多い。 深度7.60~18.39m:新鮮で、やや軟質。割れ目少ない。
8						
9						深度8.75~9.05m:割れ目やや多く、コア肌落ち。
10						深度9.62~10.14m:割れ目やや多く、コア肌落ち。
11				凝灰角礫岩	暗灰	
12						
13						深度12.87~14.30m:割れ目やや多い。
14						
15						

埋戻土

柱状図 (R1敷地-6:深度0~15m)

柱状図 (2/14)

孔口標高:10.20m



コア写真 (R1敷地-6:深度15~30m)

R1敷地-6

孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

標 尺	標 高	深 度	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
(m)	(m)	(m)				
16			▲▲▲▲▲			深度16.06-18.39m:割れ目やや多い。
17			▲▲▲▲▲			
18			▲▲▲▲▲			深度18.39-43.95m:新鮮で、やや硬質。割れ目少ない。 礫状に白色脈がしばしば分布。脈は母岩と密着。
19			▲▲▲▲▲			深度19.13-19.45m: $\angle 0-15^\circ$ 、砂質凝灰岩・泥質凝灰岩の薄層が挟在。
20			▲▲▲▲▲			深度19.91m: $\angle 20^\circ$ 、 $t=10\text{mm}$ で白色脈が挟在。脈は母岩と密着。
21			▲▲▲▲▲			
22			▲▲▲▲▲	凝灰角礫岩	暗灰	
23			▲▲▲▲▲			
24			▲▲▲▲▲			
25			▲▲▲▲▲			
26			▲▲▲▲▲			
27			▲▲▲▲▲			
28			▲▲▲▲▲			
29			▲▲▲▲▲			
30			▲▲▲▲▲			

柱状図 (R1敷地-6:深度15~30m)

柱状図 (3/14)

孔口標高:10.20m



コア写真 (R1敷地-6:深度30~45m)

R1敷地-6

孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

標 尺	標 高	深 度	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
(m)	(m)	(m)				
31			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	凝灰角礫岩	緑灰	深度33.41-33.68m:割れ目やや多い。
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44	-33.75	43.95				
45			▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲	火山礫 凝灰岩	緑灰	礫径φ30mm以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。 やや硬質で、割れ目少ない。 深度44.49m:割れ目沿いに弱く褐色を呈する。

柱状図 (R1敷地-6:深度30~45m)

柱状图 (4/14)

孔口標高:10.20m



コア写真 (R1敷地-6:深度45~60m)

R1敷地-6

孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

[illegible]

柱状図 (R1敷地-6:深度45~60m)

柱状図 (5/14)

孔口標高:10.20m



コア写真 (R1敷地-6:深度60~75m)

R1敷地-6 孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
61			凝灰角礫岩	凝灰		深度63.11m: $\angle 20^\circ$ 、 $t=1\text{cm}$ 以下の白色脈が狭在。脈は母岩と密着。 深度66.11-66.67m: 縁沿いに $t=2\text{mm}$ 以下の白色脈がしばしば狭在。脈は母岩と密着。
62						
63						
64						
65						
66						
67						
68						
69						
	-59.47	69.67	砂質凝灰岩	凝灰		粗粒の砂質凝灰岩。礫径 $\phi 10\text{mm}$ 以下の礫が散在。 深度69.67-75.00m: やや硬質で、割れ目少ない。 深度71.60-71.90m: 礫径 $\phi 100\text{mm}$ 程度の安山岩礫散在。
70						
71						
72						
73						
74						
75	-64.80	75.00				

柱状図 (R1敷地-6:深度60~75m)

柱状図 (6/14)

孔口標高:10.20m



コア写真 (R1敷地-6:深度75~90m)

R1敷地-6

孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
76				砂質凝灰岩	暗灰	深度75.00-81.24m:硬質で、割れ目少ない。 深度75.50-80.90m: $\angle 5-60^\circ$ 、 $t=15\text{mm}$ 以下の白色脈が分布。脈は母岩と密着。
77						
78						深度77.40-78.47m:白色脈が網状に分布。脈は母岩と密着。
79						深度78.21-78.50m:上面 $\angle 40^\circ$ 、細粒-中粒の砂質凝灰岩が挟在。 深度78.80-78.84m: $\angle 40^\circ$ 、 $t=10-40\text{m}$ の白色脈が挟在。脈は母岩と密着。
80						
81	-71.04	81.24				
82				火山礫凝灰岩	暗灰	礫径 $\phi 30\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。弱い上方細粒化を呈する。 硬質で、割れ目少ない。
83						
84	-74.19	84.39				
85				凝灰角礫岩	暗灰	礫径 $\phi 100\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる凝灰角礫岩。 硬質で、割れ目少ない。 $t=10\text{mm}$ 以下の白色脈が稀に分布。脈は母岩と密着。
86						深度85.30-85.90m:礫径 $\phi 30\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩が挟在。
87						
88						
89						
90						

柱状図 (R1敷地-6:深度75~90m)

柱状図 (7/14)

孔口標高:10.20m



コア写真 (R1敷地-6:深度90~105m)

R1敷地-6

孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
91			凝灰角礫岩	凝灰		深度100.27m: $\angle 55^\circ$ 、 $t=10\text{mm}$ 以下の白色脈が挟在。脈は母岩と密着。
92						
93						
94						
95						
96						
97						
98						
99						
100						
101						
102						
103						
104						
105						

柱状図 (R1敷地-6:深度90~105m)

柱状図 (8/14)

孔口標高:10.20m



コア写真 (R1敷地-6:深度105~120m)

R1敷地-6

孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
106						
107						深度107.32~107.35m: 40-50°、割れ目。下壁側に弱い条線あり。
108						
109						
110						
111				凝灰角礫岩	暗灰	
112						深度112.63~112.73m: 白色脈が網状に密集。脈は母岩と密着。
113						
114						
115						
116						
117						
118						深度118.70~118.74m: 40°、t=40mmで暗灰色を呈し、礫を伴う軟質粘土が挟む。
119	-108.99	119.19				
120				火山礫 凝灰岩	暗灰	礫径φ10mm以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。 稜角で、割れ目少ない。45-30° または 60° 程度、t=10mm以下の白色 脈が分布。脈は母岩と密着。

柱状図 (R1敷地-6:深度105~120m)

柱状図 (9/14)

孔口標高:10.20m



— : 劣化部※ (F-1断層の可能性を有する劣化部)

※劣化部の定義は、「未固結な粘土を挟在若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」。

コア写真 (R1敷地-6:深度120~135m)

R1敷地-6

孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

標尺	標高	深度	柱状図	地質	色調	記
(m)	(m)	(m)	図	名	調	事
121			▲▲▲▲▲	火山礫凝灰岩	暗灰	深度121.33m: $\angle 65^\circ$ 、 $t=5\text{mm}$ 程度の白色脈が挟在。脈は母岩と密着。 深度121.69m: $\angle 50^\circ$ 程度、白色脈が斜状に挟在。脈は母岩と密着。
122			▲▲▲▲▲			
123			▲▲▲▲▲			深度122.77~124.00m: 割れ目やや多い。 深度123.28m: $\angle 50^\circ\sim 70^\circ$ 、 $t=30\text{mm}$ 以下の明灰色脈が挟在。脈は母岩と密着。
124	-113.80	124.00	▲▲▲▲▲			
125			▲▲▲▲▲	凝灰角礫岩	暗灰	礫径 $\phi 100\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる凝灰角礫岩。 硬質で、割れ目少ない。 $\angle 5^\circ\sim 20^\circ$ または $\angle 45^\circ\sim 60^\circ$ 、 $t=5\text{mm}$ 以下の白色脈がしばしば分布。脈は母岩と密着。
126			▲▲▲▲▲			
127			▲▲▲▲▲			
128			▲▲▲▲▲			
129			▲▲▲▲▲			
130			▲▲▲▲▲			深度130.15m: $\angle 55^\circ$ 、 $t=30\text{mm}$ 以下の白色脈が挟在。脈は母岩と密着。
131	-121.15	131.35	▲▲▲▲▲			
132			▲▲▲▲▲	黒色砂質凝灰岩	暗灰	中粒の黒色砂質凝灰岩。 やや硬質から硬質で、割れ目は少ない。 $\angle 40^\circ$ 程度の平行葉理分布。 深度131.35~146.35m: $\angle 45^\circ$ 、 $t=20\text{mm}$ 以下で白色脈が分布。脈は母岩と密着。
133			▲▲▲▲▲			深度132.50~135.61m: やや軟質。 深度133.51m: $\angle 50^\circ$ 、 $t=10\text{mm}$ 以下で灰色を呈する軟質粘土が挟在。 深度133.65m: $\angle 45^\circ$ 、 $t=2\sim 5\text{mm}$ で灰色を呈し、礫を伴う軟質粘土が挟在。 割れ目面に糸線あり。 深度134.30m: $\angle 50^\circ$ 、 $t=1\sim 2\text{mm}$ で灰色を呈する軟質粘土が挟在。割れ目面に糸線あり。 深度134.61m: $\angle 45^\circ$ 、 $t=1\sim 5\text{mm}$ で灰色を呈し、礫を伴う軟質粘土が挟在。
134			▲▲▲▲▲			
135			▲▲▲▲▲			

柱状図 (R1敷地-6:深度120~135m)

柱状図 (10/14)

孔口標高:10.20m



コア写真 (R1敷地-6:深度135~150m)

R1敷地-6 孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
136						深度135.61~150.75m:硬質で、割れ目少ない。
137						深度136.72~136.97m:割れ目多い。
138						
139					暗灰	深度139.15~141.05m: $\angle 80-90^\circ$ 、 $t=50\text{mm}$ 以下の白色脈が挟在。脈は母岩と密着。
140						深度140.20~140.37m:割れ目多く、角礫状を呈する。
141						
142	-132.10	142.30		黒色砂質凝灰岩		深度142.30~145.70m:岩芯まで弱く褐色を呈する。
143						深度142.85m: $\angle 40^\circ$ 程度、 $t=20\text{mm}$ 以下で割れ目沿いに角礫状を呈する。 深度142.98~143.35m: $\angle 80^\circ$ 、 $t=8\text{mm}$ 以下で白色脈が挟在。上面に条線あり。
144					暗褐灰	深度144.06m: $\angle 60^\circ$ 、 $t=1\text{mm}$ 程度で灰色を呈する軟質粘土が挟在。
145						深度144.20m: $\angle 45^\circ$ 、 $t=1\text{mm}$ 以下で灰色を呈する軟質粘土が挟在。
146	-135.50	145.70				145.04~145.29m: 礫径 $\phi 10\text{mm}$ 程度の安山岩礫散在。
147						
148					暗灰	
149						
150						

柱状図 (R1敷地-6:深度135~150m)

柱状图 (11/14)

孔口標高:10.20m



コア写真 (R1敷地-6:深度150~165m)

R1敷地-6

孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

標	標	深	柱	地	色	記
尺	高	度	状	質		
(m)	(m)	(m)	図	名	調	事
151	-140.55	150.75		黒色砂質 凝灰岩	暗灰	深度150.15m: $\angle 45^\circ$ 、 $t=30\text{mm}$ 以下で、砂-角礫状を呈する。 深度150.43m: $\angle 20-30^\circ$ 、 $t=25\text{mm}$ で白色脈が挟在。脈は母岩と密着。
152						礫径 $\phi 30\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。 硬質で、割れ目少ない。
153						
154				火山礫 凝灰岩	暗灰	
155						深度155.06-155.21m: 下面 $\angle 50^\circ$ 、割れ目沿いで砂-角礫状を呈する。
156						
157	-146.90	157.00				
158						礫径 $\phi 50\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる凝灰角礫岩。 硬質で、割れ目少ない。
159						礫沿いに、 $t=2\text{mm}$ 以下の白色脈がしばしば挟在。脈は母岩と密着。
160				凝灰角礫岩	暗灰	深度158.10-158.37m: $\angle 50-70^\circ$ 割れ目多く、割れ目に角礫が挟在。
161						
162						深度161.80-161.90m: $\angle 60^\circ$ 程度、割れ目沿いで片-角礫状を呈する。 粘土は挟在しない。
163	-152.35	162.55				
164				火山礫 凝灰岩	暗灰	礫径 $\phi 20\text{mm}$ 以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。 硬質で、割れ目は少ない。
165						深度164.60-164.74m: 上面 $\angle 60^\circ$ の割れ目沿いで砂-角礫状を呈する。

柱状図 (R1敷地-6:深度150~165m)

柱状图 (12/14)

孔口標高:10.20m



コア写真 (R1敷地-6:深度165~180m)

R1敷地-6

孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

標	標	深	柱	地	色	記
尺	高	度	状	質		
(m)	(m)	(m)	図	名	調	事
166				火山礫 凝灰岩	暗灰	深度165.22-166.68m:礫沿いに分離しやすく、やや硬質。
167				火山礫 凝灰岩	暗灰	深度168.40-169.20m: 70°-75°、割れ目多く、白色脈が付着。片状・角礫状を呈する。
168				火山礫 凝灰岩	暗灰	深度176.23m: 25°、t=10mmの白色脈が挟在。脈は母岩と密着。
169				火山礫 凝灰岩	暗灰	
170				火山礫 凝灰岩	暗灰	
171				火山礫 凝灰岩	暗灰	
172				火山礫 凝灰岩	暗灰	
173	-162.80	172.80		凝灰角礫岩	暗灰褐	礫径φ70mm以下の安山岩礫からなる凝灰角礫岩。 硬質で、割れ目少ない。やや暗く褐色を呈する。 礫沿いにt=2mm以下の白色脈が分布。脈は母岩と密着。
174	-163.71	173.91		火山礫 凝灰岩	暗灰	礫径φ10mm以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。 5° または 45°-70°、t=4mm以下の白色脈がしばしば分布。脈は母岩と密着。
175				火山礫 凝灰岩	暗灰	深度176.23m: 25°、t=10mmの白色脈が挟在。脈は母岩と密着。
176	-166.18	176.38		凝灰角礫岩	暗灰	礫径φ80mm以下の安山岩礫からなる凝灰角礫岩。 硬質で、割れ目少ない。 礫沿いにt=5mm以下の白色脈が分布。脈は母岩と密着。
177				火山礫 凝灰岩	暗灰	礫径φ15mm以下の安山岩礫からなる火山礫凝灰岩。 硬質で、割れ目少ない。 5°-15° または 45°-60°、t=30mm以下の白色脈が分布。脈は母岩と密着。
178	-168.11	178.31		火山礫 凝灰岩	暗灰	深度178.87m: 30° 程度、割れ目に条線あり。粘土は挟在しない。 深度179.55m: 50°、割れ目に強い条線あり。粘土は挟在しない。
179				火山礫 凝灰岩	暗灰	
180				火山礫 凝灰岩	暗灰	

柱状図 (R1敷地-6:深度165~180m)

柱状図 (13/14)

孔口標高:10.20m



コア写真 (R1敷地-6:深度180~195m)

R1敷地-6

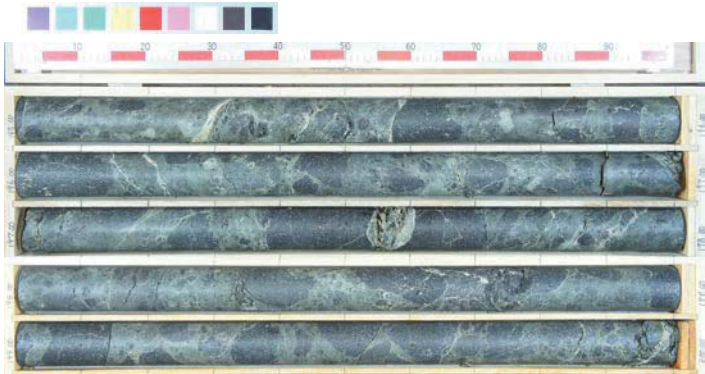
孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

[illegible]

柱状图 (R1敷地-6:深度180~195m)

柱状図 (14/14)

孔口標高:10.20m



R1敷地-6 孔口標高 10.20m 掘進長 200.00m

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	地 質 名	色 調	記 事
196			▲▲▲			深度195.31m: 25°、t=5-20mmの白色脈が挟在。脈は母岩と密着。
197			▲▲▲			深度195.59m: 10-20°の割れ目に条線あり。粘土は挟在しない。
198			▲▲▲	凝灰角礫岩	暗灰	
199			▲▲▲			
200	-189.89	200.00	▲▲▲			

コア写真 (R1敷地-6:深度195～200m)

柱状図 (R1敷地-6:深度195～200m)